

私立獣医科大学における臨床ならびに
衛生学実習に関する相互評価報告書

平成 23 年 6 月

私立獣医科大学協会

はじめに

私立獣医科大学 5 校は各大学において建学の精神と教育理念を掲げ、高度専門職業人としての獣医師を養成するために、それぞれの大学における所在環境などの特色を生かしながら臨床教育を重視した教育を行なってきた。また、5 大学ともに新しい動物病院を開設し、教育病院として活用して臨床教育の充実を図っている。しかし、獣医学教育を取り巻く国内外の状況は大きく変化しつつあり、獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」が平成 23 年 3 月に取りまとめられ、公表されている。この取りまとめには今後の工程として国立大学においては教育研究体制の整備を図るため共同学部や共同学科など共同教育課程の設置が具体的に提示され、また、モデルコアカリキュラムの提示とそれに基づく各大学でのカリキュラム改革が求められている。さらに、獣医学教育の質保証のための第三者評価の導入とその実施や農林水産省から指針が示されている参加型臨床実習についての各大学での体制作り、共用試験の導入・実施などが記載されている。国際的にも、2009 年 10 月に獣医学教育に関する国際獣疫事務局（OIE）会議がパリで開催され、「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」勧告が提出されている。

一方、獣医学臨床教育について考えると、伴侶動物医療については 1 次診療から高度先端獣医療まで、産業動物医療については個体診療から群管理に加えて、予防衛生・感染症対策などとそれぞれの分野に非常に異なった概念の広い教育内容が含まれる。

これらの状況を考えると、個々の私立 5 獣医科大学で全ての内容について十分な臨床教育を実施することは難しい場合も考えられる。したがって、それぞれの大学の特色を生かしつつ、私立 5 大学間で実習を含む教育や単位の互換、学生・教員の相互乗り入れなど、臨床教育充実のための協力を積極的に進めていくことが必要になると考えられる。

さらに、日本における獣医学教育では公衆衛生学教育が不十分だとする指摘がなされており、OIE の勧告においても動物の健康、人の公衆衛生、環境衛生を一つとする新しい理念の実行が求められている。したがって、獣医学教育において公衆衛生学を含む衛生学教育についても検証することが必要と考えられた。

私立獣医科大学協会では私立 5 獣医科大学における獣医学教育の改善のために平成 12 年度から相互評価を実施しており、平成 21 年 8 月には第 5 次の相互評価として「私立獣医科大学における臨床教育および動物病院の相互評価報告書」が公表されている。第 6 次の相互評価では第 5 次での相互評価を参考にするとともに獣医学教育改善の焦

点となっている臨床ならびに衛生学実習について相互評価を実施することとした。本相互評価では私立 5 大学において実施されている特色ある実習教育を調査し、今後の 5 大学間での実習教育の協力関係を構築するために必要な基礎的データを収集した。

獣医学教育を取り巻く環境の急速な変化に対応するために、データや評価については短期間での取りまとめを第 6 次相互評価委員会委員の先生にはお願いをした。評価委員各位に御礼を申し上げるとともに、調査に協力を頂きました各獣医科大学の教職員各位に感謝申し上げます。最後に、本報告書が私立獣医科大学におけるこれからの獣医学教育の改善と充実のために寄与することを願っている。

平成 23 年 6 月 24 日
私立獣医科大学協会
第 6 次相互評価委員会
委員長 林 正信

目 次

I 調査方法の概要と委員会構成	1
1. 調査方法の概要と経緯	1
2. 調査項目	2
3. 委員会構成	2
II 各調査項目における相互評価	3
第1章 教員組織	3
1. 教員組織について	3
2. 教育支援者について	6
第2章 教育課程	17
3. 教育課程全般について	17
4. 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位数	19
第3章 臨床実習	27
5. 臨床実習科目	27
6. 臨床実習に関わる実習施設など	28
7. 参加型臨床実習について	31
8. 学外での臨床実習について	32
第4章 衛生学実習	68
9. 衛生学実習科目	68
10. 衛生学実習に関わる実習施設など	69
11. 学外での衛生学実習について	69
第5章 学生への支援体制について	84
12. 学生への実習支援体制について	84
13. 留年、就職、進学などの指導体制について	84
第6章 全体のとりまとめと今後の課題	87
III 第6次相互評価調査に関する各大学における自己評価	90
I 臨床実習教育および衛生学実習の目的・目標	90

II 教員構成	96
III 教育支援者	102
IV 教育課程・教育方法	106
V 学生への実習支援体制について	125
VI 実習における連携などについて	126

I 調査方法の概要と委員会構成

1. 調査方法の概要と経緯

動物病院や臨床教育の全般については第 5 次相互評価が実施・報告されているので、その調査項目とはできるだけ重複を避け、できるだけ臨床実習と衛生学実習に関わる項目に絞って調査を行い、相互評価を行うこととした。

私立獣医科 5 大学間でカリキュラム上の科目名称とその区分、教科内容が異なっており、特に衛生学関連科目については獣医衛生学、公衆衛生学、食品衛生学、環境衛生学、毒性学、人獣共通感染症学、ハードヘルス学、疫学など広範囲の分野を含んでいる。したがって、本相互評価における調査票では臨床ならびに衛生学科目としてのカリキュラム上の位置づけは各大学での判断にゆだねざるを得ず、各大学での記載を概ねそのまま記載した。そのため比較のためのデータに若干の整合性を欠くこととなった。今後、モデルコアカリキュラムが決定され、教科内容と科目との整理がなされた後、再度詳細な検討が必要と思われる。

私立獣医科大学協会における相互評価では 5 大学における教員構成の変化などの調査を継続的に行っている。第 1 次相互評価で報告された平成 10 年度以降の教員構成がその後どのように改善されたか、あるいは改善されていないのかを評価することは、獣医学教育の改善・充実に重要と考えられるので、臨床実習と衛生学実習に加えて教員構成などについても相互評価を行った。また、学生の修学状況や進路の動向についても過去 5 年間の推移について示した。一方、獣医学教育の改善・充実のためには教員に加えて、教育支援者の寄与も重要な要因であり、第 1 次相互評価においても、その拡充が必要であることが指摘されている。しかしながら、以前の相互評価の際にも問題となっていた教育支援者の定義や動物病院における診療の支援者（研修医や動物看護師など）の臨床教育への寄与の解析などについては十分吟味することができず、同一の基準での評価が今回もできていない点については問題点として残ったままで、これらの点については今後の検討をお願いしたい。

相互評価に使用した基礎的数値やカリキュラムについては調査票の記載をお願いした日程の関係上、2010 年度 4 月での実績となっている。カリキュラムについては多くの大学で継続的に改正が行われており、現在新旧のカリキュラムが進行中であったり、新たなカリキュラムが 2011 年度から開始する大学もあった。カリキュラム内容の記載については年度進行中の場合に、新カリキュラム構成と異なった科目名称で教科内容を授業している場合もあった。この点についても整理が十分できなかった点があることをご了解いただきたい。また、臨床実習ならびに衛生学関連実習について各大学からシラバスを提出して頂いたが、量的に非常に多いことと記載方法が必ずしも同一でないため、今回の相互評価の調査資料として提示することは委員と協議したうえで取りやめた。

2. 調査項目

1) 教員組織

教員構成、総教員数、年齢構成

臨床系教員数と非臨床系教員数との比率

衛生学担当教員数

教育支援者

2) 教育課程

3) 臨床実習

4) 衛生学実習

5) 学生への支援体制

3. 委員会構成

委員長 林 正信（酪農学園大学）

委員 新井 敏郎（日本獣医生命科学大学）

浅利 昌男（麻布大学）

岡野 昇三（北里大学）

亘 敏広（日本大学）

II 各調査項目における相互評価

各章の評価に関わる資料については各章末に添付した。

第1章 教員組織

1. 教員組織について

1-1 教員構成、総教員数、年齢構成について（表 1-1-1～1-1-3）

1-1-1 教員数

（財）大学基準協会で提示された学生 60 名に対して 72 名の教員数を目指して、各大学で教員数を増加させるように努めていることが認められ、平成 10 年度の教員数と比較して、麻布大学以外は 8-9 名の教員が増加している。全国農学部系学部長会議で当面の目標とされた獣医学科専任教員数 54 名については平成 22 年 4 月 1 日現在で日大を除く 4 大学で 54 名以上となっている。

各大学で、附属動物病院専任教員が獣医学科専任教員となっていない場合など教員組織における人員の配置の違いや採用予定があってもまだ決定されていない場合など個別の状況で一概に判断はできないが、国立の農学部系大学の多くが独立行政法人化後、教員定数を減少させていることを考えると私立 5 大学とも改善の努力がなされていることがうかがえる。しかしながら、国立獣医科大学では共同学部や共同教育課程の設置など、獣医学教育の改善のために教員組織の充実が具体化される状況であり、私立獣医科大学 5 大学では今後より一層の教員の数ならびに質の充実が求められる。

1-1-2 教員構成

全教員数に占める各職席の割合では教授の割合が酪農大では 56%と半数以上を占めており、他 4 大学では 30.5～38.3%である。准教授・講師の割合は日大が 36.2%と一番低く、麻布大が 57.5%と最も高い。助教・助手については日大が 25.5%と最も高く、酪農大が 5.3%と低く、他 3 大学は 10%台である。

各職席の人数についてはそれぞれの大学における昇格基準や各職席に定員が設けられているのかなどによって構成が変わるため一概には比較できないが、次世代の獣医学教育を担当する教員の育成の必要性を考慮すると、ある程度全体としてのバランスを考慮する必要があると思われる。

1-1-3 年齢構成

年齢構成では 55 歳以上の教員の割合は麻布大が 52.5%と最も高く、日大が 34.0%と一番低い。他 3 大学は 40～44.4%の間にある。40 歳以下の教員の割合は日大が 36.2%と最も高く、酪農大が 26.3%と一番低いが、他 3 大学は 27.1～35.2%と 5 大学間でそれほど大きな差異はなかった。

平成 14 年度の調査では 55 歳以上の教員の割合は酪農大が 26%、北里大が 32.8%、麻布大が 42.2%、日獣大が 41.2%、日大が 29.3%であった。また、40 歳以下の教員の割合は酪農大が 26%、北里大が 30.0%、麻布大が 20.3%、日獣大が 31.3%、日大が 29.3%であった。

各大学では年齢構成に変化が認められるが。全般的には今回の調査と平成 14 年度調査とを比較して 55 歳以上の教員の割合、40 歳以下の教員の割合ともに大きな変化は認められなかった。

年齢構成は教員組織の変更やカリキュラムの変化による新しい科目の設定に伴う採用、採用されてからの年数、現在の教員の職席の割合などに関連していると考えられ

るが、年齢分布に平成14年度と平成22年度であまり大きな差が見られないことから、教員の入れ替わりは比較的順調に進んでいると考えられる。しかしながら、私立5獣医科大学全体として今後10年間で約4割の教員が入れ替わることが予測され、将来的に獣医学教育を担う若手教員を育成していくことが急務と考えられ、私立獣医科大学協会全体として具体的な手立てを考慮することが必要である。

1-1-4 女性教員数について

10年前の平成14年度の調査に比べると女性教員数は5大学全体では10名増である。女性教員の割合では麻布大学が18.6%、日大が10.6%と比較的高いが、他3大学は5.0～7.0%と1割に達していない。また、女性の教授・准教授の全教員に占める割合は麻布大が5人、8.4%と高く、日獣大が3人、5%、酪農大が2人、3.5%、北里大と日大は0人、0%であった。

採用時の状況や専門性・職席などによって、一概に評価は出来ないが、在学生の約半数が女子学生であることや文部科学省から女性教員の積極的な採用が求められていることを考慮すると不十分な状況であると考えられ、今後より積極的な女性教員の採用の対策が必要である。

1-1-5 他大学出身者の割合について

他大学出身者の割合は酪農大と北里大が60%台で半数以上が他大学出身者である。他3大学は34.0～40.0%であり、6割以上を自大学出身者が占めている。

平成14年度の調査では酪農大が54.0%、北里大が70.0%、麻布大が21.9%、日獣大が41.2%、日大が22.0%であった。

全般的な傾向について平成14年度と平成22年度で差は見られないが、麻布大と日大は増加、酪農大、日獣大がやや増加、北里大がやや減少という結果であった。

新たな獣医学の教育分野においてはより積極的に他大学出身者の採用を考慮することも必要と思われる。一方、教員育成の点、特に今後予想される臨床系教員不足に対応するために自大学での臨床系教員の養成が求められていることから、今後の獣医系教員養成については私立獣医科大学協会で検討する必要がある。

1-1-6 獣医師免許取得者の割合について

獣医師免許取得者の割合は日獣大が81.7%と一番低く、北里大が96.3%と最も高い。獣医師免許取得者は獣医師（獣医学科卒）であることを示していると考えられる。教員の専門性から獣医師免許取得者が必要な教育分野もあることから適正水準は決められないが、獣医学教育が広範な分野を含みつつあるので、一定の割合で他分野出身の教員が採用されることも必要と考えられる。

1-1-7 博士号取得者の割合について

博士号取得者の割合は日獣大が98.3%と最も高く、日大が91.5%（3名の実習助手を含めた取得率）と一番低い。博士号取得割合は助教・助手など若手の教員の割合や米国の専門医資格者の採用なども反映されていると思われるので、一概に評価できないが、原則的には多くの教員が博士号を取得していることが望ましいと考えられる。

1-2 臨床系教員数と非臨床系教員数との比率について（表 1-2-1～1-2-3）

私立獣医科大学 5 校で獣医学科全教員数は平成 10 年度と比較して 24 人増（5 大学平均で 4.8 人増）であるが、臨床系教員については全体で 7 名増（5 大学平均で 1.4 人増）でしかない。

各大学の臨床系教員数は日大が 22 人、北里大 21 人、酪農大 19 人、日獣大 18 人、麻布大 16 人であり、臨床系教員数と非臨床系教員数の比率では日大が 50%と最も多く、麻布大が 27.1%と低く、他 3 大学では 30.0～38.9%であった。なお、日大の計算には副手 3 名は含まれていない。

臨床系教授の人数は酪農大が 9 名と多く、麻布大が 3 名と少なかった。また、臨床系助教・助手の人数は北里大と日大が 6 名、日獣大が 0 名であった。

調査時点における変動もあるので、単純な比較は難しいが、平成 10 年度の調査と比較して、北里大と日大では臨床系教員数とその割合とも増加しており、臨床教育を重視する姿勢が具体化していると考えられる。酪農大と日獣大では臨床系教員数は増加しているが、割合としては同程度である。麻布大では平成 10 年度の調査では臨床系教員数は 29 名で 45.3%と 5 大学で一番高い人数と割合であったが、その後調査年代に伴って教員数、割合とも減少している。この原因は動物病院の専任教員が獣医学科教員に含まれていないなど、大学での教員組織における獣医学科専任教員の取扱に違いが生じたためである。他大学でも同様な状況が生じていることも考えられる。しかしながら、獣医学臨床教育の充実のためには獣医学科専任教員としての位置づけが必要と考えられる。また、全国的に臨床系教員の不足が指摘されているので、私立獣医科大学協会として臨床系教員増とその養成の具体的な取組みが急務の課題と考えられる。

1-3 衛生学担当教員数について（表 1-3）

各大学の衛生学担当教員数は日獣大 5 名、北里大と麻布大 7 名、日大 10 名、酪農大 11 名の順であった。酪農大と日大では全教員に対する比率が 20%程度で衛生学関連教育を重視する姿勢がうかがえる。今回は科目内容に対応した担当教員の調査を行っておらず、衛生学担当として各大学で判断した教員数を記載したので、必ずしも教育実態を反映していないかもしれない。しかしながら、教科目名や単位数の調査と教員数はある程度対応しており、公衆衛生学や人獣共通感染症、食品衛生学、獣医衛生学などの充実が社会的要請となっている状況を考慮して、衛生学担当教員についても拡充が必要と考えられる。

2. 教育支援者について（表 1-4-1～1-4-3）

2-1 教育支援者数と学生との比率について

教育支援者数については前回の調査時においても定義づけが不明確なところがあり、また、5 大学間で事務職員や技術職員の組織における位置づけが異なっている。さらに、事務組織における職員の按分比なども異なっており、単純に比較できない。また、今回の調査では病院研修医が教育に関わっている場合には教育支援者数に加えたため、前回調査との比較も大学間で異なっており、単純な人数、時間数の比較はむずかしいが、獣医学教育を実施するうえで、事務組織や技術職員の協力は不可欠であり、前回に引き続き調査を行った。

各大学の追加の説明は下記の通りである。

酪農大：産業動物のバンクリーナでの作業や解剖に使用した動物のなどの焼却や焼却炉の管理などは業務委託されている。

北里大の技術職員は附属農牧場の職員および 3～4 研究室に 1 名の女性補助職員（ほとんどが臨床検査技師）である。

麻布大学で平成 17 年度調査と比較して、事務職員が 10 人増加しているが、これは事務組織の改組があったためで、獣医学科専任事務職員ではない。

上記のように獣医学教育で附属農場を使用する場合の教育支援者としての評価や動物の飼育や関連諸施設の管理などを職員以外に業務委託している場合の教育支援業務として考慮するかなど同一基準で比較するためにはかなり難しい点があることが指摘される。また、TA や病院研修医の実質的な教育支援者としての役割や寄与の程度ならびにその評価などを整理することが必要と考えられる。しかし、これらの問題点はあるとしても、教育支援者数は前回調査とほとんど変化していないと考えられ、第一次相互評価において教育支援者について改善が必要と指摘されているが、あまり改善されていないと考えられる。

2-2 教員充足率について（表 1-4-1）

平成 10 年度との比較では多少改善傾向が認められるが、日獣大が 0.63 と比較的高いのみで他 4 校は 0.33～0.41 と 0.5 以下である。個々の大学で大学基準協会の基準を早急に達成することは現状では難しいと考えられるが、1-1 で記載したように国立獣医科大学では共同学部や共同学科など共同教育課程の設置について具体的に計画がなされており、見かけ上の教員数は増加する。私立 5 獣医科大学においても一部科目の共同での実施など教育の充実のために危機感を持って早急に対応することが必要と考えられる。

2-3 大学附属動物病院における支援要員について（表 1-4-3）

麻布大と日大では有給獣医師が支援要員として勤務しており、動物病院における位置づけが明確になっていると思われる。

有給研修医については北里大で 5 名と一番少なく、日大が 23 名と最多である。附属動物病院の規模や症例数、対象動物種などが異なるため単純に人数での比較は難しい

が、イヌ、ネコの症例数は 8,100（北里大）～15,400（日大）と 2 倍程度の差であるが、研修医数の差はこの差より大きく、有給研修医の少ない場合には臨床系教員への診療負担などが大きくなっていると考えられる。

無給研修医については麻布大が 83 名、日大が 49 名と非常に多く、他 3 大学ではゼロであった。麻布大では無給研修医の役割については表 1-4-3 の欄外に記載した。各大学とも急速に臨床系教員や有給獣医師を増加することは困難な状況であることが予想され、さまざまな形で病院の支援要員を確保する工夫がなされることは必要と考えられるが、無給研修医についてはその役割を明確にすることが必要で、診療を無給研修医に頼る体制があるとすれば問題あると考える。

動物看護師は 5 大学の動物病院で 4～10 名が勤務している。また、検査技師・薬剤師は 1～3 名が病院での診療支援に当たっている。日大では専門の検査技師がゼロとなっている。検査や薬物管理体制を教員が担当しているとすれば臨床系教員の負担増につながり、改善が必要と考えられる。

資料

表 1-1-1 教員構成 1

大学	調査年度	現員(名)					女性教員(名)				
		教授	准教授	講師	助教・助手	計	教授	准教授	講師	助教・助手	計
酪農大	平成 10	18	20	9	2	49	1	1	0	0	2
	平成 14	20	19	9	2	50	1	1	0	0	2
	平成 18	28	18	3	3	52	1	1	0	0	2
	平成 22	32	17	5	3	57	1	1	2	0	4
北里大	平成 10	18	12	11	5	46	0	0	1	0	1
	平成 14	17	12	13	8	50	0	0	1	0	1
	平成 18	17	8	16	8	49	0	0	1	1	2
	平成 22	17	14	13	10	54	0	0	1	2	3
日獣大	平成 10	19	9	13	10	51	1	1	2	1	5
	平成 14	21	7	13	10	51	2	1	1	1	5
	平成 18	19	15	10	12	56	2	1	0	0	3
	平成 22	21	13	15	11	60	3	0	0	0	3
麻布大	平成 10	28	22	12	2	64	1	2	4	1	8
	平成 14	26	21	13	4	64	1	2	4	1	8
	平成 18	18	22	13	2	55	1	2	6	2	11
	平成 22	18	22	12	7	59	1	4	4	2	11
日大	平成 10	18	10	5	6	39	0	0	0	0	0
	平成 14	18	8	4	11	41	0	0	0	0	0
	平成 18	18	7	12	8+3	48	0	0	0	4*	4*
	平成 22	18	11	6	9+3	47	0	0	1	4*	5*
合計	平成 10	101	73	50	25	249	3	4	7	2	16
	平成 14	102	67	52	35	256	4	4	6	2	16
	平成 18	100	70	54	36	260	4	4	7	7	22
	平成 22	106	77	51	43	277	5	5	8	8	26

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

*) 副手 3 名を含む

表 1-1-2 教員構成 2

大学	調査年度 (平成)	他大学出身教員						獣医師免許取得者						博士号取得者					
		教授	准教授	講師	助教・助手	計	%	教授	准教授	講師	助教・助手	計	%	教授	准教授	講師	助教・助手	計	%
酪農大	10	14	12	4	0	30	61.2	17	19	8	2	46	93.9	17	17	6	1	41	83.7
	14	12	10	4	1	27	52.9	19	18	8	2	47	92.2	19	17	6	0	42	84.0
	18	19	7	1	2	29	55.8	25	17	3	2	47	90.4	27	16	3	3	49	94.2
	22	21	10	4	2	37	64.9	29	15	3	3	50	87.7	31	15	5	3	54	94.7
北里大	10	13	7	9	4	33	71.7	14	11	11	5	41	89.1	18	11	8	3	40	87.0
	14	12	8	11	4	35	70.0	15	12	13	8	48	96.0	17	11	11	8	47	94.0
	18	10	5	14	5	34	69.4	13	8	15	8	44	89.8	17	8	15	7	47	95.9
	22	8	12	9	5	34	63.0	15	14	13	10	52	96.3	17	14	12	7	50	92.6
日猷大	10	9	3	3	5	20	39.2	14	9	13	6	42	82.4	16	9	12	7	44	86.3
	14	10	3	3	5	21	41.2	15	7	13	7	42	82.4	18	7	12	8	45	88.2
	18	8	4	2	3	17	32.1	16	14	6	10	46	86.8	19	15	7	11	52	98.1
	22	7	3	6	8	24	40.0	19	11	14	5	49	81.7	21	13	15	10	59	98.3
麻布大	10	6	5	3	0	14	23.0	22	20	7	2	51	83.6	24	19	5	0	48	75.0
	14	5	5	3	1	14	24.6	22	19	8	4	53	93.0	24	18	6	1	49	76.6
	18	2	5	5	1	13	23.6	17	20	10	2	49	89.1	18	21	12	1	52	94.5
	22	8	4	6	3	21	35.6	16	21	11	7	55	93.2	18	22	12	3	55	93.2
日大	10	4	1	0	2	7	16.7	18	7	6	9	40	95.2	20	7	5	8	40	95.2
	14	5	1	0	3	9	22.0	17	8	4	11	40	97.6	18	8	3	9	38	92.7
	18	5	2	5	3	15	31.3	17	7	12	8	44	91.7	18	7	11	8	44	91.7
	22	6	3	3	4	16	34.0	17	11	6	8	42	89.4	18	11	5	9	43	91.5
合計	10	46	28	19	11	104	42.3	85	66	45	24	220	89.4	95	63	36	19	213	86.6
	14	44	27	21	14	106	42.4	88	64	46	32	230	92.0	96	61	38	26	221	88.4
	18	44	23	27	14	108	42.5	88	66	46	30	230	90.6	99	67	48	30	244	96.1
	22	50	32	28	22	132	48.2	96	72	47	33	248	90.5	105	75	49	32	261	94.2

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

全体表 1-1-3 教員の年齢構成

大学	調査	教授					准教授(助教授)					講師					助教(助手)					全体										計					
		≦45	50	55	60	65	≦66	≦35	40	45	50	55	60	≦65	≦35	40	45	50	55	60	≦30	35	40	45	50	55	60	≦30	35	40	45		50	55	60	65	≦66
酪農大	H10年	1	5	3	4	4	1	0	3	12	3	1	1	0	5	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	5	7	13	8	4	5	4	1	49
	H13年	1	7	3	5	4	0	0	2	12	5	0	1	0	2	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	9	13	12	3	6	4	0	51
	H17年	2	8	9	4	4	1	0	2	7	6	3	0	0	1	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2	2	4	9	14	12	4	4	1	52
	H22年	4	7	9	9	3	0	0	7	2	4	3	1	0	5	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	6	8	6	11	12	10	3	0	57
北里大	H10年	0	0	10	5	3	0	0	1	3	4	3	1	0	3	3	5	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	1	6	5	8	4	13	6	3	0	46
	H13年	0	0	8	4	5	0	0	1	3	5	2	0	1	2	4	4	3	0	0	1	6	1	0	0	0	0	1	8	6	7	8	10	4	6	0	50
	H17年	0	1	3	10	3	0	0	0	0	4	3	1	0	3	6	2	4	1	0	2	4	1	1	0	0	0	2	7	7	3	9	7	11	3	0	49
	H22年	0	1	2	4	10	0	0	1	5	2	5	0	1	2	7	2	0	2	0	3	5	1	1	0	0	0	3	7	9	8	3	9	4	11	0	54
日獣大	H10年	0	0	10	7	2	0	0	0	5	3	1	0	0	0	5	4	3	1	0	2	7	1	0	0	0	0	2	7	6	9	6	12	7	2	0	51
	H13年	1	0	10	7	3	0	0	0	0	7	0	0	0	0	6	3	3	1	0	2	7	1	0	0	0	0	2	7	7	4	10	11	7	3	0	51
	H17年	0	1	5	5	8	0	0	0	6	5	3	1	0	0	5	2	0	0	0	1	3	6	2	0	0	0	1	3	11	10	6	8	6	8	0	53
	H22年	1	1	5	6	8	0	0	0	3	5	4	1	0	1	5	6	3	0	0	1	9	1	0	0	0	0	1	10	6	10	9	9	7	8	0	60
麻布大	H10年	0	5	10	8	5	0	0	1	7	7	4	1	1	2	6	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	7	9	12	14	9	6	0	61
	H13年	0	2	8	9	4	0	0	1	7	6	3	2	1	2	6	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	4	7	9	8	11	11	5	0	57
	H17年	1	0	3	6	8	0	0	0	1	6	9	4	2	3	4	4	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3	5	6	8	12	10	10	0	55
	H22年	0	1	4	8	5	0	0	2	4	2	6	4	4	2	5	2	3	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	8	8	6	6	10	12	9	0	59
日大	H10年	1	2	0	5	3	7	0	1	3	5	0	0	1	1	2	1	0	1	0	3	2	0	1	0	0	0	3	3	3	6	7	1	5	4	7	39
	H13年	1	3	1	3	6	4	0	0	5	2	1	0	0	0	2	1	0	1	0	2	5	3	1	0	0	0	2	5	5	8	5	3	3	6	4	41
	H17年	0	2	4	3	3	6	0	1	2	3	1	0	0	2	5	4	0	0	1	6	2	0	0	0	0	0	6	4	6	6	5	5	4	2	5	45
	H22年	2	2	3	8	0	3	0	3	4	3	0	1	0	1	4	0	0	0	1*	0	8	1	0	0	0	0	0	9	8	6	5	3	9	1	3	44
合 計	H13年	3	12	30	28	22	4	0	4	27	25	6	3	2	6	25	10	6	2	0	9	20	5	1	0	0	0	9	26	34	41	43	38	31	24	4	250
	H17年	3	12	24	28	26	7	0	3	16	24	19	6	2	9	22	12	6	1	1	12	10	8	3	0	0	0	12	19	33	34	42	44	35	28	7	254
	H22年	7	12	23	35	26	3	0	13	18	16	18	7	5	11	21	10	6	2	1*	5	29	5	1	0	0	0	5	40	39	36	34	43	42	32	3	274

注) 各大学の数値は、平成10年度、平成13年度(平成14年2月28日)、平成17年度(平成18年3月31日)、平成22年度(平成22年4月1日)の調査による。

日大*講師≧60歳 1名

表 1-2-1 臨床系教員と非臨床系教員の比率（教授・助（准）教授）

大学	調査 年度	教授					准教授				
	平成	臨床 教員	割合 (%)	非臨床 教員	割合 (%)	総数	臨床 教員	割合 (%)	非臨床 教員	割合 (%)	総数
酪農 大	10 年	6	33.3	12	66.7	18	8	40.0	12	60.0	20
	14 年	7	35.0	13	65.0	20	9	47.4	10	52.6	19
	18 年	9	32.1	19	67.9	28	8	44.4	10	55.6	18
	22 年	9	28.1	23	71.9	32	6	35.3	11	64.7	17
北里 大	10 年	4	22.2	14	77.8	18	1	8.3	11	91.7	12
	14 年	4	23.5	13	76.5	17	2	16.7	10	83.3	12
	18 年	4	23.5	13	76.5	17	2	16.7	10	83.3	12
	22 年	5	29.4	12	70.6	17	4	28.6	10	71.4	14
日獣 大	10 年	4	21.1	15	78.9	19	3	33.3	6	66.7	9
	14 年	4	19.0	17	81.0	21	2	28.6	5	71.4	7
	18 年	5	26.3	14	73.7	19	6	35.3	11	64.7	17
	22 年	7	33.3	14	66.7	21	4	30.8	9	69.2	13
麻布 大	10 年	11	40.7	16	59.3	27	11	47.8	12	52.2	23
	14 年	6	26.1	17	73.9	23	9	45.0	11	55.0	20
	18 年	5	27.8	13	72.2	18	8	38.1	13	61.9	21
	22 年	3	16.7	15	83.3	18	5	22.7	17	77.3	22
日大	10 年	6	33.3	12	66.7	18	4	40.0	6	60.0	10
	14 年	6	33.3	12	66.7	18	3	37.5	5	62.5	8
	18 年	4	22.2	14	77.8	18	3	42.9	4	57.1	7
	22 年	6	33.3	12	66.7	18	5	45.5	6	54.5	11
平均	10 年	6.2	30.1	13.8	69.9	100	5.4	33.9	9.4	66.1	74
	14 年	5.4	27.4	14.4	72.6	99	5	35.0	8.2	65.0	66
	18 年	5.4	26.4	14.6	73.6	100	5.4	35.5	9.6	64.5	75
	22 年	6.0	28.2	15.2	71.8	106	4.8	32.6	10.6	67.4	77

注）各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

表 1-2-2 臨床系教員と非臨床系教員の比率（講師・助教・助手）

大学	調査 年度	講師					助教・助手				
	平成	臨床教 員	割合 (%)	非臨床 教員	割合 (%)	総数	臨床教 員	割合 (%)	非臨 床教 員	割合 (%)	総数
酪農 大	10 年	3	33.3	6	66.7	9	0	0	2	100	2
	14 年	2	22.2	7	77.8	9	0	0	2	100	2
	18 年	0	0	3	100	3	1	33.3	2	66.7	3
	22 年	2	40.0	3	60.0	5	2	66.7	1	33.3	3
北里 大	10 年	5	45.5	6	54.5	11	1	20.0	4	80.0	5
	14 年	5	38.5	8	61.5	13	3	37.5	5	62.5	8
	18 年	5	45.5	6	54.5	11	1	20.0	4	80.0	5
	22 年	6	46.2	7	53.8	13	6	60.0	4	40.0	10
日獣 大	10 年	6	46.2	7	53.8	13	2	20.0	8	80.0	10
	14 年	6	46.2	7	53.8	13	2	20.0	8	80.0	10
	18 年	2	28.6	5	71.4	7	5	45.5	6	54.5	11
	22 年	7	46.7	8	53.3	15	0	0	11	100	11
麻布 大	10 年	5	41.7	7	58.3	12	2	100	0	0	2
	14 年	2	20.0	8	80.0	10	4	100	0	0	4
	18 年	4	30.8	9	69.2	13	2	66.7	1	33.3	3
	22 年	3	25.0	9	75.0	12	5	71.4	2	28.6	7
日大	10 年	4	66.7	2	33.3	6	3	50.0	3	50.0	6
	14 年	3	75.0	1	25.0	4	5	45.5	6	54.5	11
	18 年	7	58.3	5	41.7	12	5	62.5	3	37.5	8
	22 年	5	83.3	1	16.7	6	6	66.7	3	33.3	9
平均	10 年	4.6	46.7	5.6	53.3	51	1.6	38.0	3.4	62.0	25
	14 年	3.6	40.4	6.2	59.6	49	2.8	40.6	4.2	59.4	35
	18 年	3.6	32.6	5.6	67.4	46	2.8	45.6	3.2	54.4	30
	22 年	4.6	48.2	5.6	51.8	51	3.8	53.0	4.2	47.0	40

注）各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

表 1-2-3 臨床系教員と非臨床系教員の比率

大学	調査年度 平成	臨床教員	割合(%)	非臨床教員	割合(%)	総数
酪農大	10 年	17	34.7	32	65.3	49
	14 年	18	36.0	32	64.0	50
	18 年	18	34.6	34	65.4	52
	22 年	19	33.3	38	66.7	57
北里大	10 年	11	23.9	35	76.1	46
	14 年	14	28.0	36	72.0	50
	18 年	12	26.7	33	73.3	45
	22 年	21	38.9	33	61.1	54
日獣大	10 年	15	29.4	36	70.6	51
	14 年	14	27.5	37	72.5	51
	18 年	18	33.3	36	66.7	54
	22 年	18	30.0	42	70.0	60
麻布大	10 年	29	45.3	35	54.7	64
	14 年	21	36.8	36	63.2	57
	18 年	19	34.5	36	65.5	55
	22 年	16 (29*)	27.1	43	72.9	59
日大	10 年	17	42.5	23	57.5	40
	14 年	17	41.5	24	58.5	41
	18 年	19	42.2	26	57.8	45
	22 年	22	50.0	22	50.0	44
平均	10 年	17.8	35.2	32.2	64.8	250
	14 年	16.8	34.0	33	66.0	249
	18 年	17.2	34.3	33	65.7	251
	22 年	19.2	35.9	35.6	64.1	274

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

* 麻布大学の 22 年度臨床系教員数について：臨床繁殖学研究室教員 2 名、伝染病研究室（小動物の感染症の担当）1 名、動物病院専任の臨床系教員（獣医学部教員ではない）10 名を加えた場合

表 1-3 教員構成（衛生学担当教員数）

大学	教授	准教授	講師	助教・助手	計	全教員に対する比率 (%)
酪農大	5	4	2	0	11	19.3
北里大	2	3	2	0	7	13.0
日獣大	2	0	2	1	5	8.3
麻布大	3	2	2	0	7	11.9
日大	6	4	0	0	10	22.7
合計	18	13	8	1	40	14.4

平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

表 1-4-1 教員、教育支援者当たりの学生数

大学	調査年	学生数	入学定員	教員数	支援者数*	学生 / (教員 + 支援者数)	学生 / 教員	入学定員 / 教員数	教員充足率*
酪農大	平成 10	720	120	49	54	7	14.7	2.45	0.34
	平成 14	720	120	50	58	6.6	14.4	2.4	0.35
	平成 18	720	120	52	48	7.2	13.8	2.3	0.36
	平成 22	720	120	57	55	6.4	12.6	2.1	0.40
北里大	平成 10	720	120	46	36	8.8	15.7	2.61	0.32
	平成 14	720	120	50	36	8.4	14.4	2.4	0.35
	平成 18	720	120	47	48	7.6	15.3	2.6	0.32
	平成 22	720	120	54	64	6.1	13.3	2.2	0.38
日獣大	平成 10	480	80	51	49	4.8	9.4	1.57	0.53
	平成 14	480	80	51	49	4.8	9.4	1.57	0.53
	平成 18	480	80	53	52	4.6	9.0	1.51	0.55
	平成 22	480	80	60	66	3.8	8.0	1.33	0.63
麻布大	平成 10	720	120	64	21	8.5	11.3	1.88	0.44
	平成 14	720	120	64	19	8.7	11.3	1.88	0.44
	平成 18	720	120	55	7	11.6	13.1	2.2	0.38
	平成 22	720	120	59	33	7.8	12.2	2.0	0.41
日大	平成 10	720	120	39	3	17.1	18.4	3.08	0.29
	平成 14	720	120	41	11	13.9	17.6	2.93	0.29
	平成 18	720	120	48	27	9.6	15.0	2.5	0.33
	平成 22	720	120	47	52	7.3	15.3	2.5	0.33

注）各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

教員充足率は学生数 60 名で教員数 72 名（大学基準協会）を 1.0 とした場合

*平成 22 年度については病院研修医が教育に関わっている場合には教育支援者数に加えた。

表 1-4-2 教育支援者

		学生定員		教員数	教育支援者数					週平均支援時間				
大学	調査年度	総数	1学年	現員	事務職員	技術職員	TA	その他	計	事務職員	技術職員	TA	その他	計
酪農大	H10	720	120	49	13	1	16	24	54	37.5	37.5	10	37.5	1585
	H13	720	120	50	11	1	26	20	58	37.5	37.5	10	37.5	1460
	H17	720	120	52	9	0	16	23	48	37.5	37.5	10	37.5	1360
	H22	720	120	57	16	0	19	20	55	37.5	37.5	10	37.5	1540
北里大	H10	720	120	46	12	6	10	8	36	43	40	2.6	40	1102
	H13	720	120	50	12	6	10	8	36	43	40	2.6	40	1102
	H17	720	120	47	22	17	9	0	48	38	38	1.8	38	1498.2
	H22	720	120	54	27	16	16	5	64	38	38	4.7	0	1709.2
日獣大	H10	480	80	51	6	0	12	31	49	37.5	37.5	10	37.5	1507.5
	H13	480	80	51	6	0	12	31	49	37.5	37.5	10	37.5	1507.5
	H17	480	80	53	10	12	27	3	52	37.5	37.5	10	37.5	1207.5
	H22	480	80	60	10	14	23	19	66	37.5	37.5	10	37.5	1842.5
麻布大	H10	720	120	64	7	0	14	0	21	37.5		8		374.5
	H13	720	120	64	5	0	14	0	19	37.5		8		299.5
	H17	720	120	55	7	2	15	0	24	37.5	37.5	13	37.5	532.5
	H22	720	120	59	17*	2	11	3	33	37.5	37.5	3.2	37.5	115.7
日大	H10	720	120	37	0	0	3	0	3			2.5	0	7.5
	H13	720	120	41	0	0	11	0	11			8	0	88
	H17	720	120	48	0	2	13	0	15	0	8	8	0	120
	H22	720	120	47	0	0	15	32	47	0	0	8	40	1400
合計	H10	3360	560	247	38	7	55	63	163	155.5	115	33.1	115	4576.5
	H13	3360	560	256	34	7	73	59	173	155.5	115	38.6	115	4457
	H17	3360	560	255	48	33	80	26	187	150.5	158.5	42.8	150.5	4718.2
	H22	3360	560	277	70	32	84	74	260	150.5	150.5	35.9	152.5	7351.9

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 13 年度は平成 14 年 2 月 28 日、平成 17 年度は平成 18 年 3 月 31 日、平成 22 年 4 月 1 日の数値。

注：平成 22 年度については病院研修医が教育に関わっている場合には教育支援者数に加えた。

*事務組織の改組に伴う人数変更（獣医学科専任事務職員ではない）

表 1-4-3 病院の支援要員

大学	有給獣医師	有給研修医	無給研修医	動物看護師	検査技師 (含薬剤師)	その他 (器具洗浄)	合 計
酪農大	0	12	0	6	3	0	21
北里大	0	5	0	4	1	0	10
日獣大	0	15	0	10	2	0	21
麻布大	4	10	83*	5	3	0	105
日大	5	23	49	4	0	1	82

平成 22 年度 4 月 1 日現在

*無給研修医について：麻布大学の場合、「麻布大学附属動物病院(家畜病院)研修獣医師規則」に定められた「専科研修獣医師」。附属動物病院外での活動で生計を立てており、この中には開業者も含む。研修医の勤務は週 1～2 回の診療参加のみで入院動物のケアは行わない。教育参加については動物病院内での学生実習に同席し、多少の解説などを行うのみで、積極的な実習支援をする立場ではない。なお、無給研修医の指導体制としては、各科別に診療終了後のラウンドや、早朝、夕方あるいは週末のセミナーなどの開催。年 1 回以上の学会又は紙上発表を課している。

第2章 教育課程

3. 教育課程全般について

教育課程については5大学で常に見直しがされており、カリキュラムの変更が行われている。調査票記載以後の状況について追加した。

酪農大：平成20（2008）年度にかなり大幅な専門教育カリキュラムの変更を行い、平成23（2011）年度からは大学の組織改正に伴い新たなカリキュラムが開始された。したがって、平成23（2011）年度には3つのカリキュラムが同時進行している。このため、時間割編成や単位の振替科目などに多少の混乱を生じている。今後コアカリキュラムへの対応や参加型臨床実習の導入の際には注意が必要と考えられる。

日獣大：平成24（2012）年度入学生からコアカリキュラムに準拠した新しいカリキュラムをスタートさせる予定で、現在、準備を進めている。特に専門科目の低学年次からの開講や臨床教育の充実を目指している。

麻布大：平成23（2011）年度から新しいカリキュラムへ移行した。平成22（2010）年度に新しいカリキュラムポリシーが制定され、また学期末に行われる学生の授業評価に基づく意見を入れた形で新しいカリキュラムとした。なお獣医学教育コアカリキュラムへの擦り合わせは現在検討中である。

3-1 卒業要件単位区分について（資料2-1）

獣医学科の卒業要件は182単位以上であり、国家試験への対応から多くが専門必修科目の単位となっている。そのため、いわゆる教養系科目については酪農大、日大が30単位以上、日獣大が35単位以上、北里大が36単位以上、麻布大が40単位以上となっている。各大学での建学の精神を学生に理解させると共に専門科目の履修をスムーズに実施するための初年次教育の在り方についても私立獣医科大学協会で協議することも必要と考えられる。

3-2 進級要件について

酪農大が2～5年次の各学年（平成23（2011）年度入学者からは各学年）、日大が2～6年の各学年で進級判定を行っている。3大学については1～6年生の各学年で進級判定を行っている。判定基準は取得科目数または単位数となっている。留年率は年度ごとに異なるが、0.7～3.7%程度である（表3）。各大学とも各学年で数名程度以内の留年者数であり、進級要件はそれほど厳しい条件となっていないと考えられる。

各大学で追加記載のあった状況は以下のようになっている。

酪農大：最近低年次学生で複数の科目の単位未認定者の数が増加しており、また、GPAが年度毎に低下する傾向があり、今後留年者についても問題となると思われる。

北里大：留年者数については特に大きな変化はない。

日獣大：1, 2年次で留年する学生が、ここ数年増加する傾向にある。コアカリキュラムの実施に向け、低学年から開講する専門科目を増やす予定であり、進級基準の見直しを進めていく予定である。

麻布大学：留年者数の動向に大きな変化はなく横ばいの傾向であるが、配当された学年で履修が出来なかった学生（未履修者）が低学年に増加している傾向は明らかで

ある。退学者に関しては平成 17 年度、18 年度ではそれぞれ 9 名、10 名で、最近 3 年間（平成 20 年、21 年、22 年度）ではそれぞれ 5 名、7 名、3 名と減少傾向にある。

今後、学力較差の大きい学生が入学してくる傾向が増加することが予想され、コアカリキュラムや共用試験などの実施に際しては進級要件などの見直しが必要になってくることも考えられる。

4. 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位数

4-1 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位数について

4-1-1 臨床科目について（資料 3-1）

臨床講義科目の必修単位は酪農大が 34 単位と最も多く北里大で 21 単位と少ない。選択講義科目単位としては日大が 10 単位と最も多く、酪農大では選択科目単位はゼロである。専門科目に占める単位の割合としては日獣大が 30.5%と高く、麻布大が 18.7%と少なく、他 3 大学は 21.3~26.3%であった。

臨床実習の必修科目単位は日獣大で 15.5 単位と最も高く、麻布大は 8 単位と少ない。実習の選択科目は酪農大で 13 単位と高く、日大ではゼロであった。専門科目に占める単位の割合としては日獣大が 39.8%と高く、麻布大は 6.0%と低い。

臨床講義科目については酪農大では全て必修であるが、4 大学では 1~10 単位と大学毎に差はあるが、選択講義科目を設定している。それに対し、臨床実習科目については酪農大では選択科目の割合が高く（ただし、コース必修）、日大では全て必修単位であった。必修と選択科目の単位配分は各大学での教育課程を反映していると思われるが、日獣大では臨床科目の割合が講義、実習単位とも 30%以上と高く、臨床科目重視の姿勢がうかがえる。一方、麻布大と日大では臨床実習単位の割合が 6%と 7.9%と全体の 1 割以下であった。

臨床実習については班分けや班当たりの学生数、各実習担当毎の教員数は報告されたが、記載されている実習担当教員数が毎回参加しているのかあるいは分担しているのかなどや各回毎に使用する動物数などは明らかではないので、単純に単位数だけでの比較は難しいと考えられる。なお、各大学の講義・実習のシラバスが提出されたが、資料が膨大となってしまうため、相互評価資料として掲載することは取りやめた点についてご了承いただきたい。

4-1-2 衛生学関連科目について（資料 3-1）

公衆衛生学ならびに獣医衛生学関連必修講義科目については日大が 24 単位と多く、酪農大 19 単位、麻布大 18 単位、北里大 7 単位、日獣大 6 単位であった。関連選択講義科目は北里大で 2 単位、日獣大で 1 単位、3 大学ではゼロであった。

公衆衛生学ならびに獣医衛生学関連必修実習科目では酪農大で 11 単位、日大で 7 単位、麻布大で 5 単位、日獣大で 4 単位、北里大で 3 単位であった。関連選択実習科目では酪農大で 12 単位（各コース必修）、北里大で 2 単位、3 大学ではゼロであった。

今回の評価では衛生学関連科目については授業内容での確認を行っておらず、衛生学関連科目として各大学で判断した科目数を記載したので、必ずしも教授すべき公衆衛生学や人獣共通感染症、食品衛生学、獣医衛生学などそれぞれについて含まれる講義・実習を確認していない。したがって、必ずしも実態を正確には反映していないかもしれない。しかしながら、衛生学関連教科目名や単位数の調査と担当教員数はある程度対応していることからほぼ各大学の状況を反映していると考えられる。

衛生学関連科目については講義・実習とも酪農大と日大が多く、これは衛生学関連

科目の担当教員の割合が両大学で多いことと一致し、この分野の科目を重視する姿勢がカリキュラムからも示された。次いで麻布大の割合が高く、北里大と日獣大では選択科目を加えても衛生学関連の講義単位数は他 3 大学よりも少ない。現在獣医学教育で衛生学関連科目の社会的要請が大きく、授業内容を検討しながら、不足している大学では教育・教員の充実が必要と考えられる。

なお、各大学の講義・実習のシラバスが提出されたが、資料が膨大となってしまうため、相互評価資料として掲載することは取りやめた点についてご了承いただきたい。

資料

2-1. 卒業要件単位区分

〔酪農学園大学〕 平成 20（2008）～平成 22（2010）年度入学者

科目区分			各区分で修得すべき単位数
第一類 (教養科目)	第一群	人文社会学	12 単位以上
	第二群	数学	4 単位以上
	第三群	自然科学	4 単位以上
	第四群	保健体育	2 単位以上
	第五群	外国語教育	8 単位以上
	小計		必修課目 8 単位を含み 30 単位以上
第二類 (専門基礎および関連科目)			13 単位以上
第三類 (専門科目)	生体機能教育群		28 単位
	感染・病理教育群		24 単位
	衛生・環境教育群		26 単位
	生産動物医療教育群		16 単位
	伴侶動物医療教育群		27 単位
	小計		121 単位
第四類 (専修教育)	第一群		5 単位以上
	第二群		13 単位以上
	小計		18 単位以上
総計			182 単位以上

〔北里大学〕

科目区分			各区分で修得すべき単位数
1 群科目	人間形成の基礎科目	文化の領域	4 単位以上
		社会の領域	6 単位以上
		健康の領域	2 単位以上
	基礎教育科目	外国語系	8 単位以上
		数理・情報系	6 単位以上（教養演習含む）
		自然科学系	10 単位以上
	小計		必修科目 18 単位（選択として文化の領域 4 単位、社会の領域 6 単位、外国語系および数理・情報系 6 単位）を含み 36 単位以上
2 群科目	関連科目		必修科目 14 単位を含み 19 単位以上
3 群科目	生体機構系科目		必修科目 40 単位
	予防衛生系科目		必修科目 29 単位
	臨床系科目		必修科目 35 単位を含み 37 単位以上
	共通科目		必修科目 15 単位を含み 21 単位以上
	小計		必修科目 119 単位を含み 127 単位以上
総計			182 単位以上

[日本獣医生命科学大学]

科目区分		各区分で修得すべき単位数
選択科目	外国語、スポーツ、心理学、経済学、飼養学、育種学など	1～3年次の間に35単位以上履修すること
選択必修科目	臨床解剖学、病院経営学、救急医療学、臨床栄養学など	4～5年次の間に20単位以上履修すること
	小計	必修単位として55単位以上履修すること
専門基礎教育	概論・倫理等	必修課目11単位
専門教育	生体・機能	必修課目12単位
	感染・病理	必修課目17単位
	衛生・環境	必修課目13単位
	生産動物医療	必修課目9単位
	伴侶動物医療	必修課目20単位
	小計	82単位
実習（必修）	基礎	必修課目12.5単位
	応用	必修課目7単位
	臨床	必修課目9.5単位
	獣医総合臨床	必修課目10単位以上
	小計	39単位
卒業論文		必修課目6単位
総計		182単位以上

[麻布大学]

平成21・22年度入学者			
区分		単位	備考
基礎科目	必修	5	生物学2単位、化学2単位、コンピュータ演習1単位
	選択必修	12	英語の中から8単位、英会話及び第二外国語の中から4単位以上
	選択	23	人文系科目から2単位以上、社会科学系科目から2単位以上
専門科目	必修	135	基礎獣医学系 23単位 病態獣医学系 25単位 生産獣医学系 27単位 臨床獣医学系 26単位 環境獣医学系 18単位 共通科目 16単位
	選択	7	
計		182	

平成23年度から新カリキュラムへ変更。成果を上げてきましたが、平成22年度に新しいカリキュラムポリシーを制定し、学期末の学生の授業評価に基づく意見を入れて作成。なお獣医学教育コアカリキュラムへの擦り合わせは現在検討中。なお、卒業要件は187単位となった。

[日本大学]

				開講単位	卒業に必要な単位		
総合 教育 科目	Ⅰ 群	言語系	必修	8	8	30	
				34			
	数理系	8					
	Ⅱ 群	人間の科学		12			2
		社会の科学		12			
		自然の科学		12	2		
	Ⅲ群			42	2		
	Ⅳ群			8			
基礎専門科目		選択	3				
専門教育科目		必修	129	129			
		選択	54	23			
総 計				182			

卒業必要単位数は 182 で、専門必修科目単位数 129(70.9%)、総合教育科目 30(16.5 %)、専門選択科目 23(12.6%)である。

2-2 進級要件

[酪農学園大学] 平成 20 (2008) ～平成 22 (2010) 年度入学者

2 年次ならびに 3～5 年次各終了時で進級基準を設けている。

2 年次終了時 第一類ならびに第二類 指定科目の単位習得

第三類 1～2 年次開講の必修科目数の 5 分の 4 以上習得

3～5 年次

3～5 年にのそれぞれの年次において開講されている必修科目の 5 分の 4 以上習得

なお、2011 年度入学生からは毎学年で実施する。

[北里大学]

進級判定は、毎学年で実施している。

(進級要件の抜粋)

- ・各学年次までに配当された科目中、不合格科目が 5 科目以内の者は進級できる
- ・1 年次の 1 群科目が不合格の者は、3 年次に進級できない。
- ・実習科目が 1 科目でも不合格の者は留年とする。但し、不合格の理由が出席日数不足による場合とする。

[日本獣医生命科学大学]

学年ごとに進級基準を設けている。

学年 1 : 必修講義科目 11 単位中 9 単位以上を修得すること

2 : 必修講義科目 21 単位中 18 単位以上修得すること

3 : 必修講義科目 41 単位中 37 単位以上修得し、

選択科目 57 単位中 35 単位以上修得すること

4 : 必修講義科目 63 単位中 58 単位以上修得すること

5 : 必修講義科目 75 単位中 73 単位以上取得すること

[麻布大学]

年次	区分	内訳	進級要件
1	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が3科目以内 かつ6単位以内
		外国語科目	2単位以上修得
	基礎教育科目	選択科目	12単位以上修得
2	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が3科目以内 かつ6単位以内
		外国語科目	6単位以上修得
	基礎教育科目	選択科目	17単位以上修得
3	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が4科目以内 かつ8単位以内
		必修科目	5単位修得
	基礎教育科目	英語科目	8単位修得
		第二外国語科目	4単位以上修得
		選択科目	23単位以上修得
		うち人文系科目から	2単位以上修得含む
		うち社会科学系科目から	2単位以上修得含む
4	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が4科目以内 かつ8単位以内
5	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が3科目以内 かつ8単位以内
		うち必修実習科目	不合格科目が5単位以内

毎年、5－6名入学する編入学者（編入学年2年次）については、編入前履修科目の基礎教育科目および専門科目について一括認定をせず、獣医学科長の指導の下、認定の可否を決めている。

[日本大学]

進級判定は、2-6年次とも進級時に行っている。すなわち2年次への要件は、30単位以上（専門必修科目開講単位数は20単位で、他に総合教育科目、専門選択科目を加え、要件取得に充分可能な学科目が開講されている）で、3年次へは60単位以上、4年次へは90単位以上、5年次は120単位以上、6年次へは150単位以上を進級要件としている。

なお、編入学者（編入学年2年次）については、編入前履修科目の一括認定をせず、あらためて獣医学科で開講の専門科目の取得を指導している。

3. 臨床と衛生学実習について

3-1. 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位

なお、割合*は専門科目中の単位の割合を表す。

[酪農学園大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	11	3	8	8	34	9	
選択単位		6		6		13	コース必修
割合*	7.2%	5.9%	5.3%	9.2%	22.4%	14.5%	152 単位

[北里大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	5	2	2	1	21	14	
選択単位	1	1	1	1	6	3	
割合*	4.7%	2.4%	2.4%	1.6%	21.3%	13.4%	127

[日本獣医生命科学大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	4	2	2	2	23	15.5	
選択単位	1				9	2	
割合*	4.8%	4.5%	2.4%	4.5%	30.5%	39.8%	

[麻布大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	14	4	4	1	28	8	
選択単位			0	0	1	自由科目 2	
割合*	9.3%	2.7%	2.7%	0.7%	18.7%	6.0%	6.7%

[日本大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	12	4	12	3	30	12	
選択単位	0	0	0	0	10	0	
割合*	7.9%	2.6%	7.9%	2.0%	26.3%	7.9%	要件 152 単 位中

第3章 臨床実習

5. 臨床実習科目

5-1 臨床実習教育の理念・目的・目標の設定と公表について（自己評価 1-1）

大学獣医学科の理念と教育目標ならびに学習者の要求や社会的要請に沿って臨床実習教育に関わる理念・目的・目標が設定され、公表されているかについては5大学ともにほぼ適切に実施されているとの自己評価であり、学生への目標・方針の周知についても概ね適切と評価されている。

5-2 臨床実習の開講科目、各科目の教員数、単位、開講年次、班編成、対象動物、研修医、TA などについて（資料 3-2-1～3-2-2）

酪農大では年次進行でカリキュラムが変更中であり、臨床実習については新、旧カリキュラムが混在しているため、名称などに統一性を欠いている。臨床実習科目の開講は3年～6年、伴侶動物実習では1班8～9名、研修医やTAが実習に関わることが多い。クリニカルローテーションでは1班4～5名、伴侶動物の実習は専修コースが13単位と多く設定されている。産業動物実習では1班15～35名産業動物の斉一科目での実習単位が12単位と多い。

北里大では小動物関連実習が11単位、大動物関連実習が5単位で、4～6年次に開講され、1班10～20名、TAは実習科目によって配置の有無が分かれている。

日獣大では主として小動物2単位、主として大動物1単位、両者が対象の科目14単位（野生動物学と学外実習を省いた）。4～6年次に開講、1班7～10名。選択の臨床科目として野生動物学実習1単位が開講されている。TA・研修医は実習科目によって配置の有無が異なっている。

麻布大では主として伴侶動物6単位、主として産業動物3単位、両者対象が2単位で、産業動物基礎実習（1年次・選択）を除き5,6年次開講で1班5～75名と実習内容で人数が異なる。TA・研修医は小動物臨床実習と病院実習のみ参加

日大は主として小動物3単位、主として産業動物1単位、両者対象が8単位、1班7～12名、ほとんど全ての実習でTAが参加している。

・5大学とも非臨床教員は臨床実習には参加していない。

一部患者の臨床検査における細菌検査などへの寄与が報告されている（日獣大）

・5大学とも実習科目と単位、内容については概ね適切と自己評価されている。一方、実施単位（班人数や編成）については概ね適切であるが、今後少人数での実習実施のための改善が必要との評価であった（自己評価 IV-2-1）。

5-3 臨床実習における達成目標と達成度評価、成績評価方法について（資料 3-2-4、自己評価 IV-2-1）

大学ごとならびに科目によって記載内容が異なるため、比較はできない。各大学のシラバスに詳細に記載してあると思われるが、量的な問題で今回はシラバスについては省略した。学生にとって到達目標と成績評価が明確となっていることが必要であるが、自己評価では5大学ともほぼ適切に実施されているとの評価であった。

5-4 講義と実習との関連性について（資料 3-2-5）

実習に先立って講義を実施するなど 5 大学ともほぼ適切に実施されていると考えられ、自己評価でも適切または概ね適切と評価されている（自己評価 IV-2-1）。

6. 臨床実習に関わる実習施設など

6-1 臨床実習で主として使用している実習室、施設とその用途（資料 4-1）

面積や実習用機器の配置が不明であるが、4 大学では実習室、病院ならびに附属農場などを含めて 6～7 施設を用いて実習が行われている。日獣大では 4 施設と他大学に比べ少ないと思われる。

参加型病院実習が開始された場合に、附属動物病院における実習スペースなどが実施可能な状況で確保されているか否かの検討が早急に必要である。

6-2 臨床実習に関わる実習用機器（資料 4-2）

実習用機器については各大学での実習内容に応じた整備がなされていると考えられるが、日大では不十分で更なる充実が必要との自己評価であった（自己評価 IV-2-1）。病院施設を利用した実習では、使用機器が実習のための機器か病院の機器かを区別するなどの検討が必要と考えられる。

6-3 臨床実習で使用する動物について（動物種と頭数）ならびに動物福祉・獣医倫理的教育について（資料 4-3-1）

実習に使用されている動物種は伴侶動物では主として犬（一部猫も使用）と産業動物では主として牛（一部豚と馬を使用）ならびに動物病院における臨床例である。症例として実習で使用する場合に学用患畜として取り扱うのかあるいはその他の手続きに基づいて実施するのかについて記載されていないので不明であるが、今後参加型臨床実習を実施するためにも手続きの明確化が必要と考えられる。

5 大学とも動物福祉・獣医師倫理については種々の講義などで適切に行われているとの自己評価であった（自己評価 IV-2-1）が、臨床実習に当たって担当教員からこれらの点について十分説明がなされているのかについては不明であった。実習用動物の安楽殺処分時などに学生へのきめ細かい説明が必要と思われる。

6-4 臨床実習で使用した動物の実習終了後の処置について（資料 4-3-2）

酪農大では犬については継続的に飼養管理、臨床例（犬、猫など）については原則的に飼い主に戻し、牛については実習内容によって安楽殺処分もしくは症例として使用している。

北里大では犬については実習内容に応じて使用後、安楽殺もしくは継続飼育。牛などでは売却、飼育、譲渡、安楽殺後、病理解剖。

日獣大では犬、猫については再度利用または安楽殺、牛については出荷。

麻布大では例外を除き、安楽殺処分。

日大では犬のほとんどと牛については継続飼養、外科実習では安楽殺。

各大学とも実験動物委員会あるいは実習倫理委員会が設置されている（平成 12 年度調査）ので、臨床実習に使用される動物についても適切に審査され、安楽殺処分も含めて認可されていると考えられる。しかしながら、産業動物についても動物福祉の観点が今まで以上に求められていることから、この点については今後より詳細な注意が必要である。

6-5 臨床実習用動物の経費について（資料 4-3-3）

酪農大では犬については担当教育群での実験実習費、使用施設整備は学部経費、牛などでは解剖体経費として学部経費で年間 350 万円から 450 万円。

北里大では動物費として学部予算に 500 万円、小動物と大動物の購入維持にほぼ同額使用。

日獣大、総額 1,430 万円が使用（産業動物 820 万円、犬 470 万円、その他 140 万円）。

麻布大では牛ならびにビーグル犬購入費は学部で予算化（金額不明）、そのほかは実習予算から支出。

日大 毎年 500 万円が動物費として予算化され、犬、牛、豚の購入、飼料代、運搬の経費に使用。

5 大学とも臨床実習用動物の経費は学部で計上されている。金額の多寡は使用動物の用途、使用明細が不明であるので単純に比較はできないが、臨床実習で使用される動物の種類や数が教育目標を達成するのに適切かどうかの自己評価では麻布大が適切、酪農大、日獣大がほぼ適切、北里大と日大が適切でない部分が多いとの評価であった（自己評価 IV-2-1）。

6-6 臨床ラウンド実習の実施状況について（資料 4-6）

5 大学全てで附属動物病院の各診療科を使用した臨床ラウンド実習が行われている。

酪農大では斉一科目として全学生を対象したラウンド実習と専修教育としてのラウンド実習が設けられているが、他 4 大学は全て斉一科目で全学生を対象として実施されている。

今回の調査では実習の時間数の評価や問題点などについての調査を行わなかったが、ラウンド実習は多くの臨床系教員が担当しており、また、各大学全てで診療補助スタッフも多数担当していることが報告されている。学生にとって有用な実習ではあるが、臨床系教員の負担もかなり多いことが予想され、実施方法や診療補助スタッフの臨床教育への参加の評価などを行う必要があると考えられる。

6-7 臨床実習における動物病院の活用（年間症例数と学用患畜）について（資料 4-7）

動物病院における産業動物の年間症例数では酪農大、北里大、麻布大では数千頭あるが、日大では 28 頭、日獣大ではゼロであった。酪農大と北里大ではほとんどが牛であるが、麻布大では豚の割合が大きい。

学用患畜の取扱が大学で異なるので単純に比較できないが、酪農大では学用患畜として取り扱われるのは 400 頭、北里大では 3,700 頭、麻布大では 1,500 頭であり、そ

れぞれほとんどが牛である（少数の馬、緬山羊がある）。

伴侶動物の年間症例数は 8,000 頭～15,000 頭で、その 85～90%が犬で、残り 10～15%が猫である。学用患畜数は、酪農大と日獣大では学用患畜頭数はゼロ、日大で 3、北里大で約 100、麻布大で約 750 頭であり、この差は学用患畜の手続きの大学間での違いを反映していると考えられる。

6-8 学用患畜の手続きについて（資料 4-7-2）

酪農大では産業動物のみが学用患畜として使用されており、飼育者からの提供（金銭を伴わない）の申出を受け、所有者の移動など各教員が対応している。北里大では約 3,700 頭が学用患畜とされているが、この際技術料などは免除され、使用した薬品や消耗品の実費のみを所有者に請求している。麻布大では牛については約 1,500 頭全てが学用として取り扱われている。

酪農大では伴侶動物についての学用手続きは行わず、担当教員が担当教員（主治医）の判断で飼い主の提供を受け、準学用患畜扱いとして使用する場合があります。

北里大では申請書類を動物病院に提出し、申請書類提出と同時に申請内容を臨床系教職員にメール配信を行い、了承を得る。基本的には申請されたものは了承されるが、問題点などが指摘された場合には病院長が最終的な判断をする。

日獣大では動物医療センター倫理委員会と同運営委員会で審議して受け入れる。なお、動物医療センターに来院した動物を一部、学生実習に利用しているが、学生の実習のための患者とは定義していないため、H21 年度では学用患畜の実績がゼロになっている。今後、飼い主が治療を放棄したような患畜を大学が引き取り、それを学生実習に使用することも考えているが、現状では、そのコンセンサスが取れていないので、倫理委員会、同運営委員会で審議して受け入れるという表現になっている。

麻布大では来院する伴侶動物についての主治医が動物病院運営委員会に申請し承認を得て、約 740 頭が手続きされている。

日大では飼い主の承諾後病院運営委員会に提案して承認を受ける。

産業動物と伴侶動物では取り扱いが異なるが、今後の参加型診療実習の手続きも含め、学用患畜の範囲、条件、手続き、飼い主の承認、経費などを大学で明確にする必要があると考えられる。

6-9 特色を有する臨床実習について（資料 4-7-3）

一部はいわゆる参加型臨床実習に近い形で実施されている。大学毎に産業動物と伴侶動物について特色を有する臨床実習が行われている。今後の参加型臨床実習にどのように対応していくかの検討が必要と考えられる。

6-10 臨床系教員の教育担当時間配分について

今回は評価対象を実習としたため、各教員の活動時間などの調査は行わなかった。そのため、臨床実習に関わる教員構成についての自己評価のみを記載した（自己評価 II-2）。臨床系教員の構成全般では日大が適切、麻布大がほぼ適切、酪農大、北里大、日獣大が不適切な部分が多いという評価であった。不適切な理由は欠員など教員が充足していない点が記載されている。

教育担当時間配分については日獣大と麻布大がほぼ適切、酪農大、北里大、麻布大（産業動物系）、日大は不適切な部分が多いとの評価であった。不適切と評価した具体的な項目として臨床系教員間でも担当時間のバラツキが大きいこと（北里大、麻布大）や教員数の不足（日大、麻布大では産業動物の教員）が指摘されている。酪農大では各教員の講義・実習の持ち時間については同一としたが、診療への関与が教員間で差があり、教育担当に影響を与えていることが指摘されている。

実習担当教員で各大学で補充したい分野については日獣大、麻布大、日大では産業動物関連実習、酪農大、北里大、日獣大、麻布大では伴侶動物関連実習の分野、日大では動物行動学やエキゾチックアニマル学などの分野が記載されている。

6-11 臨床実習教育に係る教育支援者ならびに病院の支援要員の臨床実習教育への関与とその評価について

これらの項目については臨床実習教育に係る教育支援者などについてその定義が不明確なため、自己評価のみを行った（自己評価 III-2）。

臨床実習教育に係る教育支援者あるいは病院の支援要員の臨床実習教育への関与については酪農大が共に不適切な部分が多い、北里大は TA が配置されていない実習があり、十分な支援が得られていない一方、病院の支援要員はほぼ適切に関与しているとの評価であった。日獣大では実習補助として病院助手 5 名が配置されている（待遇は常勤の教育職員の待遇で、主たる業務は動物医療センターにおける診療と 5, 6 年次学生のラウンド実習の指導）が、教員と病院助手の連携が十分でないとの評価であった。麻布大では TA に依存する状況であることと診療実習の支援体制が不十分と評価された。日大では実習の外部講師や TA の増員などを行っており、支援体制は適切に実施されているとの評価であった。

病院の支援要員が実習に関与した場合の教育評価については酪農大が適切でない。北里大と日大が適切でない部分が多い。日獣大と麻布大がほぼ適切という評価であったが、記載内容からすると病院の支援要員についての教育への寄与は 5 大学とも組織的な対応はなされていないと考えられる。

今後参加型臨床実習において動物病院を利用した実習が拡充されることを考えると、病院支援要員がどのような形で臨床実習教育に参加するのかを明確にすると共に、教育への寄与がある場合それを評価するシステムを作成する必要があると考えられる。

7. 参加型臨床実習について

7-1 獣医学生の参加型臨床実習についての実施条件整備状況について（資料 4-9-1）

4 大学では学内委員会などで検討中であるが、麻布大では未検討。

私立獣医科大学協会あるいは全国獣医系大学協議会での共通の指針が決定されるのを待って、各大学での要件を決定する段階と考えられる。

7-2 現在の参加型臨床実習の状況について（資料 4-9-2）

酪農大では伴侶動物実習で教員の監督下で問診や動物の保定などを行い、産業動物実習では往診随行や附属農場の家畜について一部実習を実施している。

北里大学では、伴侶動物に対しては、保定、聴診、入院管理（散歩やシーツ交換など）、採材後の試料の取扱などを行い、産業動物に対しては、教員の監視下で経口投薬や注射などの処置を行っている。

日獣大では採材後の試料の取扱のみ行っている。

麻布大では産業動物については教員の監督指導の下で経口投薬や注射などの処置、手術助手を行っている。伴侶動物では実施されていない。

日大では伴侶動物対象で保定、聴診、触診、心電図検査などを行っている。

現在の実施状況から参加型臨床実習の指針作成については、各大学の実情を踏まえ、伴侶動物と産業動物に関わる実習内容を区別して実施項目などを決定する必要があると思われる。

8. 学外での臨床実習について

8-1 学外での臨床実習の単位認定について（資料 4-10-1）

5 大学とも期間は1～2週間の学外での臨床実習で1単位または2単位の認定がされている。

成績評価は受け入れ先での評価やレポート、報告会での発表をもとに実施されており、各大学とも概ね適切に評価されているとの自己評価であった（麻布大では記載がなかった）（自己評価 IV-2-1）。

8-2 支援体制などについて（資料 4-10-2）

5 大学ともに農業共済組合の診療所、家畜保健所など公的機関で実施する場合には各機関からの案内を学生に事務（担当部局は大学によって異なる）が行い、また、依頼書などの手続きを行っている。

小動物病院での実習は5大学とも原則的には、学生個人が選定するが、教員あるいは大学が紹介する場合もある。

8-3 海外臨床実習について（資料 4-10-3）

5 大学とも海外協定校を中心として海外臨床実習が行われている。通常は1～2名の教員が引率している。

単位認定は学外実習の単位として（酪農大、北里大、日獣大、麻布大）認定している。日大では単位互換制度により演習の単位として認定している。

8-4 学外で実習に利用している施設などについて（資料 4-10-4）

5 大学とも特別の記載はない。

8-5 臨床実習における外部機関との連携などについて

5 大学とも特別の記載はない。

資料

3-2-1 臨床実習各科目の教員数、対象動物などについて

〔酪農学園大学〕

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として 伴侶動物	伴侶動物 と産業動物	主として 産業動物		
伴侶動物医療基礎実習 A	必	3年	5	1		実習犬 実習牛		9 班 8～9 名	有
伴侶動物医療基礎実習 B	必	3年	4	1	実習犬			9 班 8～9 名	有
伴侶動物医療基礎実習 C	必	4年	4	1	実習犬			9 班 8～9 名	有
伴侶動物医療臨床実習	必	4年	12	1	実習犬			9 班 8～9 名	有
伴侶動物医療専修コースクリニカルローテーション	必	5年	11	6	症例			伴侶動物教育群所属学生のみ、7 班、4～5 名	有
伴侶動物医療専修コースアドバンスコース	必	6年	11	7	症例			伴侶動物教育群所属学生のみ、7 班、4～5 名	有
病院実習専修コース	選	5, 6 年	19	1	症例		症例	班数は選択者の人数による 1 班 3～5 名程度	有
総合臨床学実習Ⅱ	必	4	4	3			○	5 班・15 名	無
総合臨床学実習Ⅳ	必	4	2	3			○	4 班・18 名	無
総合臨床学実習	必	5	2	3			○	5 班・15 名	無
総合臨床学実Ⅶ	必	5	2	3			○	2 班・35 名	無
病院実習	選	6	8	1			○	3～5 班	無

[北里大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
獣医内科学実習	必	4	3	1	犬			14	TA 2 名
獣医外科学実習	必	4	4	1	犬			12	無
獣医臨床病理実習	必	4	3	1	犬			14	TA 1 名
獣医臨床放射線実習	必	4	3	1	犬			10	無
画像診断学実習	必	4	3	0.5	犬			10	無
麻酔学・救急医療実習	必	4	4	0.5	犬			12	無
獣医臨床繁殖学実習	必	4	3	1			牛	10	無
小動物総合臨床学実習 I	必	5	5	1	犬			14	TA 1 名
小動物総合臨床学実習 II	必	5	3	1	犬			14	TA 1 名
小動物総合臨床学実習 III	必	5	4	1	犬			12	無
小動物病院実習	必	5	14	2	犬・猫			20	有
大動物総合臨床学実習 I	必	5	2	1			牛・馬	12	TA 1 名
大動物総合臨床学実習 II	必	5	2	0.5			牛・馬	12	無
大動物総合臨床学実習 III	必	5	3	0.5			牛	12	無
大動物病院実習	必	5	7	1			牛・馬	20	TA 1 名
小動物臨床実習・演習	選	6	14	1	犬・猫			20	無
大動物臨床実習・演習	選	6	7	1			牛・馬	20	無

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
臨床基礎学	必	4	8	1			○	?	有
内科学	必	4	5	2		○		10 班・8 名	有
外科学	必	4	5	2		○		10 班・8 名	有
放射線学	必	4	3	1	○			10 班・8 名	無
臨床繁殖学	必	4, 5	3	2		○		12 班・7 名	無
臨床病理学	必	4	2	1	○			10 班・8 名	有
総合臨床	必	5, 6	18	8		○		10 班・8 名	有
野生動物学	選	5	2	1		○		8 班・5 名	有
学外実習	選	5, 6	5	1		○			

[麻布大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
獣医内科学実習	必	5	8	1		○		2 班・75 名	無
獣医外科学実習	必	5	6	1		○		2 班・75 名	無
獣医放射線学実習	必	5	3	1	○			2 班・75 名	無
小動物臨床実習	必	5	17	3	○			4 班・38 名	有
小動物病院実習	自由	6	13	2	○			実習内容による	有
産業動物臨床実習	必	5	10	1			○	32 班・4～5 名	無
産業動物臨床基礎実習	選	1	11 (2)	1			○	26 班・5 名	無
獣医臨床繁殖学実習	必	5	2	1			○	2～32 班・5～75 名	無

※ () は含む学外講師数

麻布大学の場合、班をさらに小班 4－5 名に分け実施。また産業動物臨床基礎実習は 1 年次で開講しており、11 人の担当教員の下、朝、昼、晩の産業動物の飼養管理を通して、動物を飼うことの難しさ、楽しさを体得させており、学生からの評判の高い実習のひとつである。

[日本大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
獣医内科学実習	必	4	3	1	○			16 班・9～10 名	TA2 名
獣医外科学実習 A	必	4	5	1	○			16 班・9 人	TA 1 名
獣医外科学実習 B	必	5	5	1	○	○		16 班・9 人	TA 1 名
獣医臨床繁殖学実習	必	4	2	1		○		20 班・7～8 名	TA 1 名
獣医放射線学実習	必	5	3	1	○			16 班・各 8 人	無し
産業動物臨床実習	必	5	2	1			○	20 班・7～8 名	TA 1 名
臨床獣医学実習 (うち病院ローテーション)	必	5	22	6 (4)		○		12 班・11～12 名	TA 1 名
臨床獣医学実習 (内科前期)	必	5	(3)	(1)		○		16 班・9～10 名	TA2 名
臨床獣医学実習 (臨床病理分前期)	必	5	(3)	(1)	犬、猫			12 班・6-7 名	TA 1 名

3-2-2. 臨床実習に非臨床系教員や TA、研修医、管理スタッフなどが参加している場合の具体的状況

酪農学園大学	伴侶動物医療基礎実習 A、伴侶動物医療基礎実習 B および C については、大学院生がについては、大学院生が TA として参加している。 伴侶動物医療臨床実習、クリニカルローテーション、アドバンスコース、病院実習専修コースについては、大学院生が TA として参加し、動物病院研修医も指導に参加を予定している。
北里大学	TA：実習の準備および補助、実習に対する質問などへの対応を行っている。また、出欠席の確認などを行っている。 研修医：学生 2～3 名を割り当て、担当する学生に対して受け持ちの症例の概要、検査や治療法を説明し、一連の診療を見せながら指導をする。また、担当する学生に偏りがないように、毎日担当する学生を交代する。
日本獣医生命科学大学	臨床実習は、基本的には臨床系教員と臨床系教室に所属する大学院博士課程学生（TA として）が担当するが、必要に応じて非臨床系教員がバックアップすることもある（例：細菌感染症の患者が担当となった場合、微生物学教室の教員が細菌の培養・同定等を指導）。
麻布大学	第一種特任教員：診療業務を行いながら、学生への説明など教育補助員の役割を果たしている。 全科研修獣医師：全科の診療研修を行いながら、学生への説明など教育補助員の役割を果たしている。週 4 日以上。 専科研修獣医師：所属診療科の診療研修を行いながら、学生への説明など教育にも協力している。週 1 日以上。 動物管理スタッフ：主に産業動物の臨床実習に使用する家畜（牛及び入院畜）の飼育管理、牛舎の清掃、搾乳などを行っているが、臨床実習時にサポートを担当する場合がある。
日本大学	獣医臨床繁殖学実習および産業動物臨床実習においては、直腸検査等繁殖技術に熟練した大学院生 1 名が TA として参加している。実習の際には、TA が教員とともに学生からの質疑応答、技術指導を行っている。 獣医内科学実習においては TA2 名が実習の補助として参加している。内科学的な検査や処置について、教員とともに指導を行っている。 臨床獣医学実習（内科前期）においては牛および犬を用いた内科学的な検査や処置、診察について、教員とともに指導を行っている。 臨床獣医学実習（臨床病理分前期）：プリントの配布、器材の運搬と納入、出席の確認、学生への指導を行っている。 外科学実習 A, B：獣医師免許を持った大学院生 1 名が獣医外科学実習の補助を行っている。実技指導、出欠確認などを主に行っている。

3-2-3. 選択実習科目の人数などに制限が設けられている場合の学生の選考方法

酪農学園大学	・病院実習専修コースについても、選択者全員を受入れる予定である。 ・クリニカルローテーションおよびアドバンスコースについても、4 年前期に学生主体で話し合いを持ち、5 教育群への所属を決定させ（成績優秀者 30 名には優先選択権を与える予定）、伴侶動物医療教育群所属学生（定員：教員数×3 名、2010 年度 33 名）を対象に実施する予定である。 アドバンスコースに関しては、伴侶動物医療教育群所属決定 2 ヶ月後までに学生主体の話し合いで所属診療科を決定する（各診療科の所属定員：教員数×3 名までとする予定）。 ・選択は病院実習だけであるが、制限はない。
北里大学	人数制限なし
日本獣医生命科学大学	海外臨床実習では、英会話能力に富む学生を選抜している。
麻布大学	人数制限なし
日本大学	人数制限などは行っていない

3-2-4. 臨床実習における達成目標と達成度評価、成績評価方法について

[酪農学園大学]

< 伴侶動物医療基礎実習 A >

到達目標：実際に動物を使用して、動物の保定、鎮静、全身麻酔、局所麻酔、輸液、麻酔管理、心肺蘇生の基礎、X線撮影、およびX線写真読影の実際を学び、その技術を修得する。

- ・ 動物を保定できる
- ・ 動物に輸液できる
- ・ 犬を全身麻酔し、気管挿管して人工呼吸を実施できる
- ・ X線撮影し、基本的な読影ができる

達成度および成績評価：臨床技能試験（50％）、定期試験（50％）

< 伴侶動物医療基礎実習 B >

到達目標：伴侶動物医療に必要な内科系の検査法、診断法について学び、実践する。

- ・ 伴侶動物の診察、検査を行なう上で必要な基本的事項について理論的根拠を理解する。
- ・ 伴侶動物の診察、検査および治療を行なう上で必要な手技を習得する。

達成度および成績評価：臨床技能試験（50％）、定期試験（50％）

< 伴侶動物医療基礎実習 C >

到達目標：伴侶動物の外科診療を実施する上で必要な基本的事項について手技およびその理論を習得する。

1. 伴侶動物の外科手術治療を行なう上で必要な基本的手技についてその理論的根拠を理解する。
2. 伴侶動物の外科手術治療を行なう上で必要な手技を習得する。

達成度および成績評価：臨床技能試験（50％）、定期試験（50％）

< 伴侶動物医療臨床実習 >

到達目標：附属動物病院に来院した症例を題材にする。内科系では問診、検査、診断、治療方針の計画、治療効果の判定について習得する。外科系では症例の概要、治療計画と手術法、術後管理について習得する。画像診断科で症例の概要、画像診断の方法、読影について習得する。麻酔科で症例の概要、麻酔計画と麻酔法、麻酔管理、術後疼痛管理について習得する。

1. 伴侶動物の診察、検査および治療を行なう上で必要な基本的事項について理論的根拠を理解する。
2. 伴侶動物の診察、検査および治療を行なう上で必要な手技を習得する。

達成度および成績評価：診療実習レポート（50％）、臨床技能試験（50％）

< 伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション >

到達目標：附属動物病院における診療活動と飼い主とのコミュニケーションを通して、臨床獣医師として伴侶動物臨床全般に要求される問題解決能力を広く養う。

- ・ 飼い主に問診ができる
- ・ 診断計画を立てることができる
- ・ 検査所見から鑑別診断ができる
- ・ 治療計画を立てることができる

達成度および成績評価：受講態度、および治療計画書/報告書などの作成状況

＜伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース＞

到達目標：附属動物病院における特定診療科の診療活動に半年間参加することを通して、その分野における臨床獣医師としての専門的問題解決能力を養う。

- ・ 各分野における専門的事項を説明できる
- ・ 各分野における治療計画を立てることができる
- ・ 研究論文を完成する
- ・ 犬猫の避妊手術・去勢手術ができる

＜病院実習専修コース＞

到達目標：生産動物医療専修コースまたは伴侶動物医療専修コースで実施されているクリニカルローテーションに参加し、附属動物病院における診療活動と飼い主とのコミュニケーションを通して、臨床獣医師として要求される問題解決能力を養う。

- ・ 飼い主に問診ができる
- ・ 診断計画を立てることができる
- ・ 検査所見から鑑別診断ができる
- ・ 治療計画を立てることができる

達成度および成績評価：受講態度、および治療計画書/報告書などの作成状況で総合的に成績評価する

- ・ 達成目標は科目ごとに担当教員が責を負っている。成績はペーパー試験によって評価している。

〔北里大学〕

達成目標：臨床現場にける一般的な疾患に対して診断、治療を実施するために必要な基本的な知識や手技を習得することを目標としている。なお、各科目においてさらに詳細な達成目標を掲げている場合もある。

例えば、獣医内科学実習では「一般的な内科診断の基礎となる診療のための動物の扱い法、主要な現症の取り方、身体検査の方法を理解し体得するとともに、一般的内科療法における薬物投与法を習得する。さらに、内科診断学で最も一般的な血液の検査法を習得し、その検査材料の採材・処理方法、検査データの臨床病理学的解釈について重点的に理解体得することを目標とする」

達成度評価：各科目において掲げられた目標を学生個人が理解して、診療に必要な診断、治療を実施できる知識や手技を習得することを通して臨床とは何かを深く理解する。

成績評価法：出席状況、レポート、定期試験の成績などを総合的に判断する。

[日本獣医生命科学大学]

動物の扱い方、聴診法、採血法、注射法などの基礎的な技術に習熟すること。

[麻布大学]

「目標」臨床現場の即戦力に近いレベルまで教育することは、現状ではほぼ不可能である。講義で学習した内容を、実際に動物を用いて観察、検査、診断、治療、病理解剖等実習することで臨床に関する姿勢と、基本的な診療技術を身につけさせる。

「達成度評価」診療技術については、臨床に関する基本的な事項について現場指導者からの指示が理解でき、具体的な診療技術に関して、学部生時代に身に付けた知識と技術を土台にして自ら研鑽を積む素養を備えていれば、学部の実習としては目標に達したものと評価する。

「成績評価方法」出席状況、実習態度、筆記試験の得点から総合評価。また報告書やレポートの作成、自由研究発表会や症例検討会での発表内容等も評価の対象となる。

[日本大学]

獣医放射線学実習

達成目標：放射線防護、各種エックス線撮影法、正常／異常エックス線像の読影について学ぶ

達成度評価：実地試験を実施する

成績評価法：出席、実習態度、実地試験

獣医内科学実習と臨床獣医学実習（内科前期）では、実習内容毎に内科学的なアプローチを訓練するためのレポート提出を課題としている。このレポート内容によって目的の達成度を評価している。成績評価は出席とレポートおよび試験の総合評価としている。

臨床獣医学実習（臨床病理分前期）

○出席を重要視（出席点 60 点）する。

内容：受講者全員の学習ノート、当該講義の記録（採録を指示済）を確認、達成度を評価し理解度に応じ、学習方向を指導している。

○試験

実習内容に対し、学期末試験を実施している（40 点）。

双方の得点とを以て、最終成績としている。

獣医外科学実習 A では外科手術学に必要な鎮静、麻酔法、無菌手術法、各種診断法を段階的に体得させ、さらに、実際の獣医外科手術の実技を行い、手術学の基本的手技を習得することを目的としており、獣医外科学実習 B では小動物に加えて大動物の外科手術手技を実践させ、獣医外科臨床への応用力を習得することを目的としている。いずれも達成度評価および成績評価には試験 80%とレポート 20%による総合評価を行っている。

3-2-5. 講義と実習との関連性についての留意点

酪農学園大学	できるだけ内容が一致するように講義を先行させ、これに実習を連動させる。 現在のカリキュラムでは関連性を計ることは困難になっている。
北里大学	講義は午前に、実習は午後に時間割が配当されており、全ての科目ではないが講義内容が実習に反映されるように考慮されている。
日本獣医生命科学大学	講義を先行させて、十分な説明を実施してから実習を行うよう、努めている。
麻布大学	実習は講義内容の確認であるので、基本的には演習前に座学を実施する基本形態にしている。座学・演習・実習が組み合わさることにより、学習効果と興味が高まることを期待している。また、自由課題としてグループに分け学生間で議論させ、学修する中での疑問点や症例を主体とした独自学修を課し、ppt を用いた発表会を行うことで、実習の集約効果を狙っている。
日本大学	放射線学実習では、すでに講義済みのものであっても、重要項目については復習を兼ねて再度実地方式で再教育を行っている。 獣医内科学実習と臨床獣医学実習（内科前期）では、講義では疾患の病態、診断、治療を中心に解説を行い、実習では実際の臨床現場で疾患を診断、治療する際に必要とされる手技や検査所見の見方、検査結果からの判断する能力を養う実習としている。 臨床獣医学実習では、講義済みの内容について、血液塗抹標本の観察、尿検査の手技、皮膚病理組織標本の観察、真菌の形態観察などで修得させる等、臨床検査学の講義内容と実地手技との一致に留意している。 外科学実習では、実習でカバーする領域に関しては実習前に実施する座学に移行し、その分講義の配分を軽減している。講義と実習を合わせて獣医外科学の基礎的事項を習得してもらうことを心がけている。

4. 臨床実習に関わる実習施設

4-1. 臨床実習で主として使用している実習室、施設とその用途

[酪農学園大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数
獣医4号館 第6実験室 (V41)	伴侶動物医療基礎実習A～C	犬	70
獣医4号館 小動物手術実習室	伴侶動物医療基礎実習A	犬	70
臨床講義棟 臨床講義室	伴侶動物医療基礎実習A～C	犬	70
臨床講義棟 大動物実習室	伴侶動物医療基礎実習A	牛	70
動物病院 診療施設 ・診療室 ・麻酔導入回復室 ・手術室1-4 ・画像診断エリア ・入院室 ・会議室	伴侶動物医療臨床実習、クリニカルローテーション、アドバンスコース、病院実習専修コース	犬、猫、その他	
臨床実習室・ 大動物診療室	総合臨床学実習Ⅱ	牛	70
	総合臨床学実習Ⅳ	牛	70
	総合臨床学実習Ⅴ	牛	70
附属農場・コンピュータ室	総合臨床学実Ⅶ	牛	70

[北里大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数	備考
小動物臨床実習室	獣医内科学実習、獣医外科学実習、獣医臨床病理学実習、獣医臨床放射線学実習、画像診断学実習、麻酔学・救急医療学実習、小動物総合臨床学実習 I・II・III	犬	150	動物を用いた実習
1011 実習室	獣医臨床病理学実習、獣医外科学実習、小動物総合臨床学実習 I・II・III、獣医繁殖学実習、		150	血液などの生体材料を用いた実習
第2 大動物実習棟	獣医繁殖学実習、大動物総合臨床学実習 I、大動物総合臨床学実習 III	牛	75	動物を用いた実習
大動物診療室	獣医繁殖学実習、大動物総合臨床学実習 I・II・III、大動物病院実習	牛・馬	150	動物を用いた実習
大動物手術室	大動物総合臨床学実習 II、大動物病院実習	牛・馬	75	動物を用いた実習
614 実習室	獣医臨床放射線学実習、画像診断学実習		150	X線フィルム、測定機器を用いた実習
臨床教育・研究支援小動物施設	獣医内科学実習、獣医外科学実習、獣医臨床病理学実習、獣医臨床放射線学実習、画像診断学実習、麻酔学・救急医療学実習、小動物総合臨床学実習 I・II・III	犬		実習に使用する犬の飼育管理施設

[日本獣医生命科学大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数
小動物臨床	獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医放射線学実習 獣医臨床繁殖学実習 獣医臨床病理学実習 獣医総合実習（臨床）	犬、猫	50
産業動物臨床	獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習 獣医総合実習（臨床）	牛	50
動物医療センター	獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医放射線学実習 獣医臨床病理学実習 獣医臨床繁殖学実習	犬、猫	80
内科系実習室	獣医内科学実習 獣医臨床病理学実習 獣医臨床繁殖学実習	犬、猫	50

[麻布大学]

実習室、施設名	実習科目名	主として対象とする動物	収容学生人数
獣医臨床センター 実習室1	獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	臨床病理検査	80
獣医臨床センター 実習室3	獣医内科学実習 獣医外科学実習 獣医放射線学実習 獣医繁殖学実習 小動物臨床実習	犬	80
獣医学部棟 301 実習室	獣医内科学実習	臨床病理検査	80
5号館 5106 実習室	獣医内科学実習 獣医外科学実習 獣医臨床繁殖学実習	牛・豚	80
牛舎	獣医臨床繁殖学実習	牛	40
5号館 一般実習室	産業動物臨床基礎実習 獣医臨床繁殖学実習	牛	80
学内畜舎	産業動物臨床基礎実習	牛・豚・馬	40
5号館、 産業動物用実習室	産業動物臨床基礎実習 産業動物臨床実習 獣医臨床繁殖学実習	牛・豚	80

[日本大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数	
画像診断実習室	獣医放射線学実習	犬	16	撮影実習
小動物臨床講義室	獣医放射線学実習	なし	80	読影実習
大動物臨床棟	獣医臨床繁殖学実習 産業動物臨床実習	牛・犬	40	
実習牛舎	獣医臨床繁殖学実習 産業動物臨床実習	牛	40	
小動物内科実習室	獣医内科学実習 臨床獣医学実習（内科 前期）	犬	80	
牛舎	臨床獣医学実習（内科 前期）	牛	80	
6号館 631 実習室	臨床獣医学実習（臨床 病理分）	犬、猫	70-75	標本の観察
小動物外科実習室	獣医外科学実習 A およ び B	犬	80 名	
大動物臨床棟	獣医外科学実習 B	犬および牛	80 名	

4-2. 臨床実習に関わる実習用機器

[酪農学園大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など	備考
伴侶動物医療基礎 実習 A	吸入麻酔器	麻酔実習	10	
	犬のぬいぐるみ	保定練習	10	
	液晶プロジェクター	スライド映写	1	
	動物病院の診断機材 (X 線撮影装置) 流用	画像診断実習		
伴侶動物医療基礎 実習 B	液晶プロジェクター	スライド映写	1	
	単眼顕微鏡	血液検実習	10	
		皮膚検査実習		
	パンチ生検セット	皮膚検査実習	20	
	動物病院の診断機材 (血液検査機器、眼科 検査) 流用	血液検査実習		
		眼下検査実習		
伴侶動物医療基礎 実習 C	液晶プロジェクター	スライド映写	1	
	縫合練習用ダイジー	縫合練習	240	
	縫合器具セット	縫合練習	100	
	整形外科器具セット	骨折整復ドライ ラボ	10	
伴侶動物医療臨床 実習	液晶プロジェクター 動物病院の診療機材を 流用	スライド映写	1	
伴侶動物医療専修 コース：クリニカ ルローテーション	37 型液晶モニター 動物病院の診療機材を 流用	PC データの表示 臨床実習	2	2012 年度開講
伴侶動物医療専修 コース：アドバン スコース	37 型液晶モニター 動物病院の診療機材を 流用	PC データの表示 臨床実習	2	2013 年度開講
病院実習専修コー ス	37 型液晶モニター 動物病院の診療機材を 流用	PC データの表示 臨床実習	2	2012 年度開講
総合臨床学実習 Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	超音波装置	臨床診断	3	
総合臨床学実習 Ⅱ・Ⅴ	顕微鏡	臨床検査・卵検 査	70	
総合臨床学実Ⅶ	コンピ ュータ	牛群診断		

[北里大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など
獣医外科学実習	吸入麻酔装置	麻酔・手術実習	12
獣医外科学実習	麻酔モニター	麻酔・手術実習	12
獣医内科学実習	心音・心電計	心電図検査	6
獣医内科学実習	分光光度計	生化学検査	2
獣医臨床病理学実習	顕微鏡	血液塗抹観察	150
大動物総合獣医学実習 II	移動式手術台	手術実習	1
大動物総合獣医学実習 I・II	簡易保定柙場	保定	3
獣医臨床放射線学	GM 計数管	測定実習	16
獣医臨床放射線学	計数装置	測定実習	16
獣医臨床放射線学	密封ベータ線源	測定実習	32
獣医画像診断学実習	シャウカステン	X 線読影実習	40

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など
獣医外科学実習	手術台、吸入麻酔器、無影灯等	手術の練習	各 8
獣医放射線学実習	X 線撮影装置、シャウカステン、自動現像機等	撮影の練習, 読影	3~5
獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	柙場等	牛の臨床実習	5
獣医内科学実習 獣医臨床病理学実習	顕微鏡、血液生化学分析機器等	血液, 精子, 卵子の観察	顕微鏡 80 分析器 5

[麻布大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など
獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	光学顕微鏡	臨床病理検査	80
獣医外科学実習	吸入麻酔装置 無影灯	麻酔・手術 手術	8 7
獣医放射線学実習	X 線撮影装置 超音波診断装置	犬の X 診断 犬の超音波診断	5 10
産業動物臨床実習	大型レントゲン撮影装置 超音波画像診断装置 内視鏡 吸入麻酔器	骨や軟部組織の観察 吸入麻酔	各 1
産業動物臨床基礎実習	血液成分検査機器	遠心分離、血球と血漿成分の測定	1

[日本大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など	その他
獣医放射線学実習	エックス線撮影装置	エックス線撮影	1	
獣医放射線学実習	シャウカステン	エックス線読影	16	
獣医内科学実習	超音波診断装置	超音波検査	8	半数以上を借用
獣医内科学実習	内視鏡	内視鏡検査	1	
獣医内科学実習	眼底鏡/耳鏡	眼底・耳道検査	8	
獣医内科学実習	眼圧計・スリットランプ	眼科検査	1	
臨床獣医学実習（臨床病理）	顕微鏡（油浸系付）	標本の観察	80	
獣医外科学実習 A	小動物用吸入麻酔器	麻酔	10	

4-3-1 臨床実習で使用する動物種と頭数

[酪農学園大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数
伴侶動物医療基礎実習 A	犬	麻酔実習	20
	犬	画像診断実習	2
伴侶動物医療基礎実習 B	犬	身体検査実習、血液検査実習	10
	犬	眼科検査実習	10
	犬	皮膚検査実習	10
伴侶動物医療基礎実習 C	犬	神経学的検査実習	10
伴侶動物医療臨床実習	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
病院実習専修コース	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
総合臨床学実習Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	牛馬	診断検査・治療技術実習	10
総合臨床学実Ⅶ	牛	診断検査	40（附属農場牛）

[北里大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数
獣医内科学実習	犬	保定、聴診、触診、採血、注射など	12
獣医外科学実習	犬	麻酔、手術など	12
小動物総合臨床学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	犬	各臓器の機能検査、手術など	24
獣医臨床病理学実習	犬	血液検査、機能検査	10
獣医画像診断学実習	犬	X線、超音波撮影実習	5
獣医繁殖学実習	牛	直腸検査、性周期判定	14
大動物総合獣医学実習Ⅰ	牛、馬	各臓器の機能検査など	40
大動物総合獣医学実習Ⅱ	牛、馬、めん羊、豚	保定、鎮静、麻酔、手術など	40
大動物総合獣医学実習Ⅲ	牛	人工受精、胚移植など	14

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数
内科、外科、繁殖	牛	牛の臨床実習	18
内科, 外科, 放射線, 繁殖	犬	小動物臨床実習	30
内科, 臨床病理, 繁殖	猫	小動物臨床実習	5

[麻布大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数	
獣医内科学実習	犬 牛 豚	採材、診断検査、処置	28 7 7(母豚 15(子豚	実習1回あたりの頭数
獣医外科学実習	犬	手術	10	実習1回あたりの頭数
獣医臨床繁殖学実習	牛 犬 ラット	直腸検査、乳房炎検査、精液採取、膣垢採取	8 7 50	実習1回あたりの頭数
獣医放射線学実習	犬	画像診断検査	16	実習1回あたりの頭数
産業動物臨床実習	牛	病気の診断、治療	40	入院牛主体
産業動物臨床基礎実習	牛 豚 馬	生体検査、管理、治療、生体解説、分娩時処置	40 40	入院牛主体 成豚 10 子豚 30

[日本大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数	
獣医放射線学実習	イヌ	エックス線撮影法を学ぶため	8	
獣医臨床繁殖学実習	牛	直腸検査、人工授精	5	延べ頭数は 40
獣医臨床繁殖学実習	犬	膣スミア、精液採取	10	延べ頭数は 40
産業動物臨床実習	牛	子宮洗浄、胚移植、乳房炎治療、難産救助	5	延べ頭数は 44
臨床獣医学実習	牛	直腸検査、採血、胃汁採取、削蹄等	10	
獣医内科学実習	犬	内科学検査	8	延べ頭数は 16
臨床獣医学実習（内科前期）	牛	内科学検査	2	延べ頭数は 4
臨床獣医学実習（内科前期）	犬	内科学検査	8	延べ頭数は 16
獣医外科学実習 A	犬	麻酔、軟部組織外科実習	16	軟部組織外科実習直後に安楽死
獣医外科学実習 B	犬	整形外科実習、神経外科実習	16	上記の安楽死した犬をそのまま継続使用
獣医外科学実習 B	牛	第四胃変位整復術、第一胃切開術	2	

4-3-2 臨床実習で使用した動物の実習終了後の動物の処置について

〔酪農学園大学〕

実習科目名	動物種名	処置法
伴侶動物医療基礎実習 A	犬	伴侶動物医療教育群にて実習犬として 8-9 歳まで飼養管理を継続
伴侶動物医療基礎実習 B	犬	伴侶動物医療教育群にて実習犬として 8-9 歳まで飼養管理を継続
伴侶動物医療基礎実習 C	犬	伴侶動物医療教育群にて実習犬として 8-9 歳まで飼養管理を継続
伴侶動物医療臨床実習	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
病院実習専修コース	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
総合臨床学実習Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	牛	安楽殺処分
総合臨床学実Ⅶ	牛	ナシ

〔北里大学〕

実習科目名	動物種名	処置法
獣医外科学実習、小動物総合臨床学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	犬	麻酔薬の多量投与による安楽死
獣医繁殖学実習	牛	売却
大動物総合獣医学実習Ⅱ	牛、馬、めん羊、豚	断角・去勢などは飼育または譲渡、開腹手術実習の牛は安楽死後に病理解剖
獣医画像診断学実習、獣医内科実習、獣医臨床病理学実習	犬	継続飼育

〔日本獣医生命科学大学〕

実習科目名	動物種名	処置法
獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	牛	食肉センターに出荷
獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医放射線学実習	犬	実習に再度利用または安楽死
獣医内科学実習 獣医臨床病理学実習 獣医臨床繁殖学実習	猫	実習に再利用

[麻布大学]

実習科目名	動物種名	処置法
獣医内科学	犬、牛、豚	殺処分
獣医放射線学実習	犬	殺処分
獣医外科学実習	犬	殺処分
産業動物臨床基礎実習	牛 豚 馬	退院、病理解剖、学用 他の実習に使用 馬術部繋養
産業動物臨床実習	牛	退院、病理解剖、学用 牛舎に繋養

[日本大学]

実習科目名	動物種名	処置法
放射線学実習	イヌ	侵襲性が高い実習は行っていないことから、実習終了後、約1時間経過観察し、犬舎にもどしている。
獣医臨床繁殖学実習	牛	実習終了後も継続飼養
獣医臨床繁殖学実習	犬	実習終了後も継続飼養
獣医内科学実習	犬	継続飼養
臨床獣医学実習（内科前期）	牛	継続飼養
臨床獣医学実習（内科前期）	犬	継続飼養
獣医外科学実習 A	犬	軟部組織外科実習終了直後、麻酔から覚醒させずに吸入麻酔下にて塩化カリウム液静脈内投与による安楽死。獣医外科学実習 B ではその死体を使用して手術手技実習を実施する。

4-3-3 実習用動物の経費について

酪農学園大学	・ 実習犬に関しては、伴侶動物医療教育群でビーグル犬 25 頭を飼養管理しており、その飼養管理や実習犬の新規購入に関する予算は伴侶動物医療教育群の実験実習費を用いている。 ・ 実習犬を係留している飼育施設は獣医学部共通施設として運営されており、施設備品等に関しては、状況に応じて獣医学科予算あるいは受益者負担として支出されている。ちなみに、平成 21 年度には獣医学科の予算（約 700 万円）を投じて犬用ケージの入れ替えを実施した。 ・ 実習体経費として予算化されている。この経費は解剖学実習などに使用する動物の費用も含まれている。飼料、敷料などの購入費を含めて年間約 350-450 万円。
北里大学	臨床動物費として 500 万円が学部予算として計上されている。小動物および大動物で半分に分け動物の購入および維持管理のために使用されている。
日本獣医生命科学大学	1) 産業動物実習経費 820 万円 2) 総合臨床実習経費 140 万円 3) 実習犬購入費 470 万円
麻布大学	主に産業動物臨床実習に用いる牛の購入及び飼育経費、また実習全般において使用する犬についてはビーグル犬に限り、それぞれ実習費の他に予算化されている。その他の実習用動物はその手配と管理における費用は、実習の単位数に応じて各講座に一律配分される実習予算で賄う。 実習用ビーグル犬購入費 585 万円 臨床大動物管理費 240 万円などである。
日本大学	毎年 500 万円が動物費として予算化され、犬、牛、豚の購入、飼料代、運搬の経費に使用している。平成 22 年度のビーグル犬購入実績は 189 万円である。ビーグル犬を飼養する場合は、1 頭、1 年間、1 ケージにつき、¥10,000 の使用料が徴収される。

4-4 臨床ラウンド実習の実施状況について

〔酪農学園大学〕

本学附属動物病院の臨床例を利用した実習（模擬診療も含む）は、以下の科目で実施している。このうち、斉一教育で実施しているのは、02 カリ-総合臨床学実習 VIII および 08 カリ-伴侶動物医療臨床実習であり、いずれの科目も実際に動物病院に来院受診した臨床例の診療データを活用した模擬診療を主体とし、一部手術見学もある。現在、ローテーションの対象となる診療科は、内科、眼科、外科、腫瘍科、画像診断科、および麻酔科の 6 診療科である。

実習科目名	班数	班当たり 対学生数	担 当 教 員数	診療補助 スタッフ 数*	具体的内容（時間数、診療科 数、学生当たり時間数など）
伴侶動物医療臨床実習	7 班×2 クラス	8-10 名	11	2010 年 度は大学 院 生 8 名、研修 医 11 名	週 1 回の 14 回の実習で 6 診療 科を 2 回ずつローテーション （内科は 4 回）。1 回の実習 時間は約 6 時間。多くは、臨 床例を用いた模擬診療。一部 手術見学。
伴侶動物医療専 修コース：クリ ニカルローテー ション	7 班	4-5 名	11	2010 年 度は大学 院 生 8 名、研修 医 11 名	伴侶動物医療教育群に所属し た学生を対象に実施する。1 診療科あたり 2 週間の診療活 動に参加し、6 診療科をロー テーションする。
伴侶動物医療専 修コース：アド バンスコース	7 班	3-6 名	11	2010 年 度は大学 院 生 8 名、研修 医 11 名	伴侶動物医療教育群に所属し た学生を対象に実施する。あ らかじめ決定した所属診療科 で 15 週間診療活動および研 究活動に参加する。臨床研究 等の研究成果を論文形式で提 出し、口頭発表する。
病院実習専修コ ース	応募人 数によ る	3-5 名	11	2010 年 度は大学 院 生 8 名、研修 医 11 名	集中講義として夏期または春 期休業期間に実施。選択した 1 診療科について 2 週間の診 療活動に参加する。
病院実習		3~5	8	0	診療科数 4

*TA や研修医等

[北里大学]

実習科目名	班数	班 当 た り 対 学 生 数	担 当 教 員 数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
小動物病院実習	7	20	14	5	20 人を 1 班として 7 班を編成し、各班午前 3 コマ、午後 3 コマの 2 週間の実習を行う。各班を 2～3 名のグループに分け、教員および研修医に振り分ける。診療科数は大きく 5 つに分かれており、学生は各診療科を 1 週間で一回りする。
大動物病院実習	7	20	7	1	20 人を 1 班として 7 班を編成し、各班午前 3 コマ、午後 3 コマの 1 週間の実習を行う。診療科数は大きく 3 つに分かれており、学生は各診療科を 1 週間で一回りする。

* TA や研修医等

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	班数	班 当 た り 対 学 生 数	担 当 教 員 数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
産業動物実習	10	8, 9	8	6	90 時間
動物医療センター	10	8, 9	8	4	225 時間
個人の小動物病院	無		無	無	45 時間

* TA や研修医等

[麻布大学]

実習科目名	班数	班当たり対学生数	担 当 教 員 数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
小動物臨床実習	48 班	3 名	20**	17 名***	9 診療科で実施。午前 3 時間、午後 4 時間 臨床基礎実習 5 日および 病院実習 15 日が実習となる
産業動物臨床実習	32 班	4～5 名	6	4 人程度	5 日間にわたり 1 症例を担当。診療時間は午前 4 時間、午後 4 時間。

* TA や研修医等

** 獣医臨床系教員、動物病院専任教員、特任教員

*** 全科研修医、薬剤担当獣医師、動物看護師、検査技師

[日本大学]

実習科目名	班数	班当たり 対学生数	担 当 教 員 数	診療補助ス タッフ数*	具体的内容（時間数、診療科 数、学生当たり時間数など）
臨床獣医学実習	12	11～12	22	32+1	以下の6診療科を各1週間
外科診療科	1班を 4グル ープ に		5	11	週4日、8時間／日、軟部組 織外科、整形外科、神経外科
内科診療科			3	6	週4日、8時間／日、循環器 科、消化器科、眼科
放射線科			3	5	週4日、8時間／日、放射線 診断、放射線治療
臨床検査科・ 皮膚科			3	1	週3日、8時間／日、臨床検 査、皮膚科
産科・繁殖科			2	TA 1	週3日、8時間／日、小動物 の産科、産業動物の繁殖科
総合診療科	1班を 3グル ープ に	1グル ープ4人	6	9	週4日、8時間／日、神経科、 呼吸器科、歯科、消化器科、 血液科、一般内科

* TA や研修医等

4-5-1. 動物病院における年間症例数と学用患畜(平成 21 年度実績)

〔酪農学園大学〕

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	5	388	-	1	-	394
患畜頭数	25	8926	3	267	36	9257
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	-	-	-			
患畜頭数	9906	925	-	10831		

〔北里大学〕

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	1	3741	0	0	0	3742
患畜頭数	78	1661	9	54	0	1802
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	96	0	0	96		
患畜頭数	7102	992	10	8104		

〔日本獣医生命科学大学〕

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数						
患畜頭数						
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	無	無				
患畜頭数	7500	1400		8900		

〔麻布大学〕

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	0	1530	0	3	0	1533
患畜頭数	0	0	6306	3	0	7839
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	631	90	26	747		
患畜頭数	12478	1664	31	14173		

〔日本大学〕

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	1	9	0	0	0	10
患畜頭数	0	18	0	0	0	18
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	3	0	0	3		
患畜頭数	13,339	2,072	2	15,413		

4-5-2 学用患畜の手続きについて

酪農学園大学	現在附属動物病院では、学用患畜に関する予算立てをとっておらず、廃用畜となった牛や馬などの生産動物についてのみ、それぞれの教員がもらいうけその後の実習や研究に活用している。 農家から提供の申し出のあった動物を学用患畜として使用している。特別な手続きは実施していないが、牛では動物所有者を大学に異動している。
北里大学	学用患畜の申請は、所定の申請用紙に症例の概略および申請理由を記載して動物病院に提出すると同時に、臨床系教職員に内容をメールにて周知する。
日本獣医生命科学大学	動物医療センター倫理委員会および動物医療センター運営委員会にて審議。
麻布大学	産業動物：原則としてすべての患畜を学用として扱っているため手続きは行わない。運搬に関する事務の取り扱いは動物管理センターが担当し、センターの専任職員が運搬業務に当たっている。 伴侶動物：主治医が動物病院運営委員会に申請し、承認を受ける。
日本大学	主治医が学用患畜にふさわしい症例であると認め、飼い主の承諾が得られた後に、家畜病院運営委員会に提案し承認を得る

4-5-3 症例を使用した実習等特色を有する臨床実習について

酪農学園大学	前述のように、斉一教育で実施している臨床実習科目は、02 カリ-総合臨床学実習 VIII および 08 カリ-伴侶動物医療臨床実習であり、いずれの科目も実際に動物病院に来院受診した臨床例の診療データを活用した模擬診療を主体とし、一部手術見学を実施している。現在、ローテーションの対象となる診療科は、内科、眼科、外科、腫瘍科、画像診断科、および麻酔科の 6 診療科である。 一方、伴侶動物医療教育群に所属した学生に関しては、02 カリ-獣医学演習または 08 カリ-伴侶動物医療専修コースのクリニカルローテーションおよびアドバンスコースにて、各診療科の診療活動に参加し、斉一教育の臨床実習よりも濃密な臨床実習を実施している。 ・実際の疾病を観察し、病畜を診察することができる ・子宮・卵巣、肢蹄などの部分遺体を用いて実習している ・症例診断と病理解剖をリンクして実施することもある ・附属農場の牛群を利用して牛群診断実習を実施している ・往診に随行して、疾病動物の診療実習を実施することによって、実際の農家やその飼養管理法に接することができる。
北里大学	小動物の症例のみに偏ることなく、地域性を生かして牛や馬などの産業動物を臨床実習に利用することで幅広い教育ができる。また、小動物診療では 1 次診療も行っているため、臨床現場で遭遇する機会の多い疾患から高度診療まで間近に接することができる特徴を有している。
日本獣医生命科学大学	5 年次後期および 6 年次前期に実施している病院実習（1 グループ 3～4 名）では、動物医療センターに紹介された患者を初診時の問診から臨床検査を初めとする各種検査の結果を基にした診療の進め方を臨床系助教、助手および研修医の指導のもと経験し、その結果をみることにより、一連の診療行為を体験する。多くの症例について、CT や MRI を使った診療を行うため、これらの高度医療機器を用いた先端医療の経験も一通り積むことができる。一連の診療結果の報告書（カルテ）を作成し、症例検討会にて、グループごとの発表を義務付けている。
麻布大学	産業動物：入院している動物を用いて五感による身体検査を行うと同時に、臨床病理学検査を実施し、疾病の診断を行う。診断に従って治療計画を立て、教員の監督指導のもとに治療を行い、診療記録をとる。外科症例においては、周術期の検査を行うとともに、実際の手術に立ち会う。不治の症例および斃死例は病理解剖を行い、病原・病態の解明を行う。最後に報告書を作成し、症例検討会にて発表し、症例の検討を行う。 伴侶動物：特に行っていない。
日本大学	大学病院に紹介された患者の診療は初診時の問診から臨床検査や各種検査の診療の進め方を研修医と一緒に経験し、その結果を検討することにより、診療行為の疑似体験が可能となる。紹介症例であるため高度獣医療の現場に自らをおくことで、より臨床例への理解が深まる。必ずしも自身が注射をしたり採血をするという体験型実習に比べてより高度な経験が得られる場合が多い。

4-6-1 農林水産省から通知のあった獣医学生の臨床実習についての実施条件整備状況について

酪農学園大学	現在委員会を設置して検討中である。最初に生産動物医療教育群および伴侶動物医療教育群の現状について各教員にアンケートをとり、それぞれの結果から現状に合った基準を提案していただいている。 獣医学生の臨床実習については農林水産省通知にしたがって実施条件整備中である。農林水産省要件にとくに問題は感じていない。
北里大学	現在、臨床系のカリキュラム委員により 12 月中旬を目処に農林水産省から出された基準を軸に内容を検討しているところである。
日本獣医生命科学大学	対応策について検討中。検討中の対応策は平成 23 年度から実施予定。
麻布大学	現時点では検討していない。
日本大学	4 項目の実施条件に関して、おおむねこの条件を満たした場合に参加型実習が許容されると考え、学内検討を行っている。 なお、1) 侵襲性のそれほど高くないものはどこまでにするか。2) 指導教員として認められる一定の要件はどこまでにするか。3) 学生評価の方法をどのようにするか。単に所定の単位を修得していればよいか、あるいは試験を行った上で決めるべきかである。試験を行った場合、進級していても実習に参加できる学生と参加できない学生ができるため教育上の取り扱いに困難が生じる可能性がある。このため基準をクリアできていない学生の進級措置が課題である。4) 飼育動物の所有者の同意を得てから実施することは不可欠の要件である。今後、これらの課題を整理し方向性を見いだした上で学科内のコンセンサスを得る予定である。

4-6-2 現在の参加型臨床実習の状況について

酪農学園大学	伴侶動物医療教育群では、前身の外科学、外科学第二または内科学第二教室時代の 1995 年頃より、それぞれの担当斉一教科目の一部を利用して病院内での参加型実習を行なってきた。また、当時より以前から臨床系教室においては、教員の補助として当番制で診療に参加し、実学を研鑽してきた経緯がある。2004 年に新病院ができてからは、現行旧カリの中で斉一では総合臨床学実習 VIII (旧カリ必修、5 年後期)、選択では病院実習 (旧カリ選択、6 年集中)、教育群所属対象では学生演習 (旧カリ必修、4-6 年) において、教員など獣医師の監督下で問診や動物の保定、手術時の器具係など農水水準 1 程度の診療行為を行なってきた。 生産動物医療教育群においても、学生演習 (旧カリ必修、4-6 年) において学内の入院畜や往診での治療の際に臨床教員に同行し、同様の実習を行なってきた。毎朝、入院動物の診断治療を 7:00~8:30 まで実施している。また常時、往診を実施しているので、往診随行の臨床実習も実施している。
北里大学	小動物病院実習では、動物の保定、検温、入院動物の管理 (給餌、ケージ内洗浄、散歩など)、経口薬の投与、手術時の器具係、血液検査の補助などを行っている。 大動物病院実習では、飼い主の了解が得られた症例に対してのみ、注射、採血、簡単な外傷処置を担当教員の監督下で実施している。
日本獣医生命科学大学	採材された検査サンプル (血液、尿、組織、細胞等) の処理など。
麻布大学	産業動物：指導内容や手法についてのガイドラインを提示し、各種組織団体や開業獣医師等に示したうえで、その基準を踏まえて臨床実習を指導していただける獣医師 (学外臨床指導講師) を選定し、年度開始時には大学と契約を結ぶことが重要と思われる。その上で、学生の実習希望を加味し、臨床実習を実施する形態が必要である。 現在、産業動物臨床実習では、入院家畜に対して治療計画を立てて、教員の監督指導のもとに経口投薬や注射などの処置を行う。外科症例においては、周術期の検査を行うとともに、実際の手術に立ち会い、助手を務める。以上のように、産業動物において従来から実施されてきた参加型臨床実習の現状内容を整理し、今後はシステム・手順をより明確に構築して実施することが必要である。 伴侶動物：産業動物と比べて臨床の現場環境が異なっており、実施には至っていない。しかし伴侶動物の臨床現場領域の将来においては重要な課題であるため、産業動物と区分し検討することが必要と思われる。
日本大学	現在のローテーション実習では、学生は見学実習がほとんどである。状況により保定などを担うこともあるが、採血や注射、問診の聴取などは行っていない。なお、動物に危害を与えない聴診や検温、触診、心電図などは担当教員の判断で実施している。いずれにしても参加型臨床実習の条件整備については学科内

	でのコンセンサスを得る予定である。
--	-------------------

4-7-1 学外での臨床実習の単位認定について

学外で臨床実習の単位認定基準（対象機関・期間・単位数）や成績評価の方法について

酪農学園大学	動物病院（伴侶動物、産業動物）農業共済組合など、学部主催の海外臨床実習 期間：1 週間以上 単位数：1 単位認定：実習受け入れ先の評価ならびにレポート提出による総合評価
北里大学	対象機関：動物病院（小動物、産業動物）、農業共済組合、JRA トレーニングセンター 期間：休暇中の 1～2 週間 単位数：1 週間で 1 単位、同じ所で 2 単位まで 成績評価：学生の指導報告書を実習先の指導責任者に依頼（出席状態と実習態度） 普通に実習を行えば基本的には 85 点（優）と判定
日本獣医生命科学大学	全国の農業共済連合会の診療所での実習： 2 単位 個人経営の小動物病院実習： 1 単位
麻布大学	専門学外実習（5 年次・2 単位・10 日間）：対象機関は、伴侶動物および産業動物の診療施設、家畜保健所、動物検疫所、実験動物施設、民間企業、食肉衛生検査所、保健所、動物愛護センター、動物園、水族館などその活動に獣医師の資格が必要とされる学外の施設であればどの分野でも実習できる。ただし臨床系科目として分類されていない。 実習のレポートおよび報告会での発表内容を評価している。
日本大学	学外での臨床実習のうちで、小動物においては、一般の小動物診療施設で 1～2 週間、来院する実症例の診断、治療および予防を体験し動物病院における一般の診療の流れを学習する。単位数は 1 単位である。成績評価は、実習先で遭遇した症例をレポートにまとめて報告するとともに、実習先における実務評価で行う。 産業動物においては、NOSAI 全国が取り扱っている夏期臨床実習生受入家畜診療所において、1～2 週間実習し単位数は 1 単位である。成績評価は、本人の臨床実習に関するアンケートおよび診療所長からの実習状況報告書、後日学内で行う発表会での成績に基づいて評価する。

4-7-2 支援体制などについて

学外での臨床実習の大学におけるその支援体制（実習先の紹介や事務組織の関与など）について

酪農学園大学	実習先の紹介は教員によって随時行っている。 農業共済組合等の公的な臨床実習募集については事務部が担当している。
北里大学	支援体制：学生実習支援委員会を組織し、実習先の選定など相談を受け、アドバイスを与えている。担当教員はほぼ固定した状態。伴侶動物については紹介する場合もあるが、多くのケースは実習先の探し方や実習に際しての礼儀等の指導が中心。 事務組織：単位となる実習は教務課が実習依頼書の発送などの事務業務を担当 単位とならない実習（2，3年生）は学生課が同様な事務を担当
日本獣医生命科学大学	農業共済連合会の診療所での実習：診療所の紹介および宮城県・山形県に関しては、教員が各県に4，5名ずつ引率。 個人経営の小動物病院実習：原則ときには学生本人が見つけるが、自分で見つけられない学生については大学から病院を紹介。
麻布大学	「専門学外実習」において、実習先は学生が自ら探す決まりになっており、大学側からは紹介を行っていない。ただし困難な場合は、例えば過去の資料の閲覧機会を提供し、本人が具体性を持ち選択できるよう促すなど、教員が場合によっては手助けをすることもある。受入れ先への依頼手続き等はコーディネーターの教員と事務局の「学生部学生支援課」が協力して行っている。
日本大学	小動物に関しては、原則として学生自身が選定するが、他大学の動物病院を希望した場合は、実習先を紹介している。 産業動物に関しては、担当教員がNOSAI全国の夏期臨床実習生受入可能家畜診療所の中から本人の希望を勘案し、実習先を紹介している。 小動物、産業動物いずれの場合でも、担当教員が実習の依頼状や礼状、必要に応じて誓約書等の作成事務を行い、学部教務課の承認を経た後に実習先へ送付している。 さらに、単位認定以外の臨床実習の場合でも、学生の希望に応じて、小動物および産業動物診療施設を紹介し、また北海道NOSAIの主催するインターンシップや産業動物獣医師就業研修（家畜衛生対策推進協議会）などを紹介している。

4-7-3 海外臨床実習について

海外での臨床実習、単位認定、成績評価の方法、教員の引率、現地での通訳など支援体制の状況について

酪農学園大学	海外臨床実習は毎年実施されていて、希望者のみが参加することになっている。 単位認定は学外実習の単位として認定している。 実習先：オハイオ州立大学（伴侶動物対象 10 名程度）、ハノーバー獣医科大学（産業動物対象 4 名）、東フィリピン大学（現在中断） 教員 1～2 名が引率、特に通訳などはない
北里大学	実習先：米国 3 大学（ジョージア大、テネシー大、パーデュー大） 中国・吉林大学 対象学年：5 年生 夏期休暇中 科目名：学外実習 米国は臨床ローテーションに組み込まれる：2 週間で 2 単位 単位認定：同行教員による認定 教員の引率：米国は各大学学生 8 名で教員 1 名、中国は学生 20 余名と教員 2 名 現地での支援体制：先方の国際交流委員が対応 通訳は無し （米国の参加学生は 1 年前から英会話を受講することを義務化）
日本獣医生命科学大学	オレゴン州立大学獣医学部における犬および猫の不妊手術などの臨床実習に参加。 1, 2 名の臨床系教員が引率するが、英会話能力に富んだ 4 年生または 5 年生の学生を 6～8 名 選抜して実施している。
麻布大学	大学が学術協定を結んでいる海外の協定校（ペンシルバニア大学獣医学部動物病院（米国）・北京農学院（中国）・チェンマイ大学獣医学部（タイ）・中興大学獣医学部（台湾））における研修約 2 週間を「専門学外実習」の履修に代えることができる実習として認定している。研修学生数の最も多いのが米国ペンシルバニア大学で 10 名から 12 名。あとは 4 名程度。引率も教員各研修で 2 名程度で、米国以外は往路のみの引率で、その場合、受け入れ大学の担当教員が学習支援にあたってくれる。
日本大学	毎年夏休みを利用して 4～6 年生の希望者を対象に、アメリカ・ワシントン州立大学へ 20～40 名の学生を派遣し小動物コースと、大動物コースに分かれて約 2 週間の臨床実習を行っている。臨床実習の内容は、内科学、外科学、臨床繁殖学、麻酔学、画像診断学、エキゾチックアニマル学などで、1～2 時間の講義を受けた後、2～3 時間のウェットラボを行っている。 さらに実習終了時に、現地で英語による試験が行われ、ワシントン州立大学との単位互換制度により、合格した学生は日本大学における演習の単位を取得することができる。また、海外での臨床実習には教員が引率し、さらにアメリカ在住の日本人獣医師や留学生に講義ならびにウェットラボの通訳や内容捕捉説明を行

	い、学生の理解・習熟度に配慮した学習支援を行っている。
--	-----------------------------

4-7-4 学外で実習に利用している施設など

酪農学園大学	無
北里大学	無し。
日本獣医生命科学大学	無し
麻布大学	「専門学外実習」で外部機関、施設に受け入れてもらっている 以外は特にない。
日本大学	特にない

第4章 衛生学実習

9. 衛生学実習科目

9-1 衛生学実習教育の理念・目的・目標の設定と公表について（自己評価 I-2）

各大学獣医学科の理念と教育目標ならびに学習者の要求や社会的要請に沿って衛生学実習教育に関わる理念・目的・目標が設定され、公表されているかについては5大学ではほぼ適切に実施されているとの自己評価であり、学生への目標・方針の周知についても概ね適切と考えられる。ただし、日獣大では疫学分野の教育・実習が十分でないとの自己評価であった。

9-2 衛生学実習の開講科目、各科目の教員数、単位、開講年次、班編成などについて（資料 5-1）

4-1-2 に記載したように対応する実習科目について大学の判断に委ねているので、一部の科目については大学間で取扱に違いがあると考えられ、公衆衛生学実習について酪農大では食品衛生学実習、環境衛生学・毒性学実習、獣医疫学実習に細分化されて実施されており、獣医衛生学実習も予防衛生学実習 A~D として4科目に配分されて実施している。他の4大学では獣医衛生学実習と獣医公衆衛生学実習という科目名称で実施されており、これに環境毒性学あるいは獣医毒性学実習、総合実習（応用）などが付け加えられており、基本的には対象科目はほぼ同一と考えられる。ただし、毒性学実習等は他の教育分野に含められている場合も考えられる。また、人獣共通感染症については感染症関係の実習で実施されている場合もあると考えられる。

酪農大では衛生学関連科目の実習は4,5年次に開講され、1班8名構成で実施されている。北里大では4年次に開講され、1班当たり9,10名である。日獣大では5,6年次に開講され、1班あたり、5-7名である。麻布大では4,5年次に開講され、1班当たり4-5名と9-10名である。日大では4年次開講で1班当たり6-8名である（実験動物学実習を除く）。

開講科目や単位、実習内容については5大学ともに適切またはほぼ適切との自己評価であった（自己評価 IV-3）。

衛生学実習に関わる教員構成（自己評価 II-3）については、酪農大と北里大が概ね適切、日獣大と日大が不適切な部分が多い、麻布大（公衆衛生学については概ね適切）は不適切との自己評価であった。教員数の不足、特に実習を担当する若手教員の不足が指摘されている。この評価に対応して日獣大、麻布大（公衆衛生学除く）、日大では衛生学実習担当教員の時間配分が過剰との評価がなされている。

衛生学実習に関わる教育支援者についても5大学全てで不適切な部分が多いとの自己評価（自己評価 III-3）であった。

実習の班編成については、麻布大を除き4大学では1班当たりの人数を現在より数名減らして実施することで教育効果があがるとの自己評価であった（自己評価 IV-3）。

9-3 衛生学実習における達成目標と達成度評価、成績評価方法について（自己評価 IV-4-2）

大学ごとならびに各実習科目によって記載内容が異なるため、達成目標について比較はできなかった。各大学のシラバスに詳細に記載してあると思われるが、量的な問題で今回はシラバスについては省略した。学生にとって到達目標と成績評価が明確となっていることが必要である。

自己評価では5大学ともほぼ適切に実施されているとの評価であった。

9-4 講義と実習との関連性について（資料 5-3）

全般的には講義を実習と関連付けるよう工夫されているが、実習と講義の開講年次などにずれが有る場合もある（自己評価 IV-3）。

10. 衛生学実習に関わる実習施設など

10-1 衛生学実習で主として使用している実習室、施設とその用途（資料 6-1、自己評価 IV-3）

面積や実習用機器の配置が不明であるが、酪農大では3実習室、大学附属農場、PCRルーム（疾病管理などの評価分析、疫学解析）を使用。北里大では2実習室と大学附属農場を使用。P2実習室などの整備の必要性が指摘されている。日獣大では2実習室、1講義室、麻布大では4実習室、日大では3実習室と大学附属農場を使用している。麻布大では附属農場を持たないため、学外見学実習などを取り入れているが、実践的な力の養成には課題があるとの指摘があった。日大では病原微生物を取り扱う実習室の整備について早急に対応が必要とされている。

10-2 衛生学実習に関わる機器（資料 6-2、自己評価 IV-3）

実習用機器については各大学での実習内容に応じた整備がなされているとの評価であったが、一部先端機器については数が不足しているとの指摘もなされている。

11. 学外での衛生学実習について

11-1 学外での衛生学関連実習の単位認定について（資料 6-3-1）

4大学では家畜保健所、保健所など関連施設における1～2週間の実習で学外実習（専門外実習）として選択で1～2単位の認定が行われている。日大では応用獣医学演習Aとして必修扱いである。単位認定は実習先での成績評価、レポート、報告会などによって実施されている。

実施ならびに評価の適切さの自己評価は大学ごとで評価が分かれた（自己評価 IV-3）。学外での衛生学実習についても臨床実習と同様にある程度、実施内容や評価などを標準化することが必要と考えられる。

11-2 支援体制などについて（資料 6-3-2）

5大学とも公的機関で実施する場合には各機関からの案内を学生に事務（担当部局

は大学によって異なる）が行い、依頼書などの手続きも行っていると考えられる。

自己評価については支援内容についての記載が異なり、評価が分かれている（自己評価 IV-3）。

11-3 海外衛生学実習について（資料 6-3-3）

3 大学では該当なしであり、北里大では米国で衛生学実習に近い実習を行うこともあるとの記載であった。日獣大ではオーストラリアでの牧場実習の一部としてと畜場見学を行っている。

11-4 学外で関連の実習に利用している施設について（資料 6-3-4）

利用施設の定義が明確でなかったため、各施設でどのような実習がおこなわれているかは不明であった。

11-5 衛生学実習における外部機関との連携などについて

特に記載なかった。

資料

5-1 衛生学実習科目

衛生学実習科目の開講年次や教員数などについて

[酪農学園大学]

実習科目名	必修・ 選択	開講 年次	単 位 数	担当教員 数	班数・班当 たり人数	
食品衛生学実習	必修	4	1	2	8 班・8 名	2 組
環境衛生学・毒性学実習	必修	5	1	2	8 班・8 名	2 組
獣医疫学実習	必修	5	1	3	8 班・8 名	2 組
予防衛生学実習 A	必修	5	1	2	8 班・8 名	2 組
予防衛生学実習 B	必修	5	1	2	8 班・8 名	2 組
予防衛生学実習 C	必修	5	1	2	8 班・8 名	2 組
予防衛生学実習 D	必修	5	1	2	8 班・8 名	2 組

[北里大学]

実習科目名	必修・ 選択	開講 年次	単 位 数	担当教員数	班数・班当 たり人数
獣医衛生学実習	必修	4	1	2	10 名
獣医公衆衛生学実習	必修	4	2	3	9 名

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	必修・ 選択	開講 年次	単 位 数	担当教員数	班数・班当 たり人数
獣医衛生学実習	必修	5	1	2	12 班・5 人
獣医公衆衛生学実習	必修	5	1	3	12 班・6-7 人
獣医総合実習（応用）	必修	5, 6	2	8	12 班・6-7 人
学外実習	選択	5, 6	1	8	

[麻布大学]

実習科目名	必修・ 選択	開講 年次	単 位 数	担当教員 数	班数・班当 たり人数
衛生学実習	必修	4	1	4	16 班・各班 4~5 名
獣医公衆衛生学実習	必修	4	2	3	16 班・4~5 名 8 班・9~10 名
環境毒性学実習	必修	5	2	7	16 班・4~5 名 8 班・9~10 名

[日本大学]

実習科目名	必修・ 選択	開講 年次	単位数	担当教員数	班数・班当たり人数
獣医公衆衛生学実習 (A, B)	必修	4	2	2	24 班・6-7 人
獣医衛生学実習	必修	4	1	2	24 班・6-7 人
獣医伝染病学実習	必修	4	1	1	24-25 班・5-6 人
魚病学実習	必修	4	1	2	20 班・7-8 人
実験動物学実習	必修	3	1	2	12 班・12-13 人
獣医毒性学実習	必修	4	1	3	20 班・7-8 人

5-2 実習における達成目標と達成度評価、成績評価方法について

[酪農学園大学]

予防衛生学実習 A :

1) 到達目標：家畜の生体防御機構の評価について原理を理解し実際の操作技術を習得する。家畜の飼育環境およびこれを取り巻く自然環境の評価について原理を理解し実際の操作技術を習得する。生乳生産における衛生的乳質の評価について原理を理解し実際の操作技術を習得する。家畜の感染症予防技術について原理を理解し実際の操作技術を習得する。糞尿および畜産廃棄物の処理についてその原理を理解する。

2) 達成度評価：実習に関する課題、レポートと定期試験で評価する。

3) 成績評価方法：課題 10% レポート 10% 定期試験 80%

予防衛生学実習 B :

1) 到達目標：生産動物の衛生的管理法についてその原理を理解するとともに関連技術を習得する。泌乳器疾患（乳房炎）の効果的制圧を目的とした管理技術について、その原理を理解し関連技術を習得する。実験動物の飼育管理施設について物理的および微生物学的評価法の原理を理解し関連技術を習得する。展示動物の衛生管理技術についてその基本原理を理解するとともに関連技術を習得する。

2) 達成度評価：実習に関する課題、レポートと定期試験で評価する。

3) 成績評価方法：課題 10% レポート 10% 定期試験 80%

予防衛生学実習 C :

1) 到達目標：基本的な生産動物群および飼育環境のモニタリング方法および生産に関連したデータ判読方法を習得し、疾病制御および予防のための解決および改善策立案を行えるようになる。

2) 達成度評価：毎回提出のレポートと定期試験で評価する。

3) 成績評価方法：毎回提出のレポート（30%）と定期試験（70%）

予防衛生学実習 D :

- 1) 到達目標：予防衛生学実習 C で習得したモニタリング方法を用いて、疾病管理および制御に関するより実地的な評価分析法および防除法を提案できるようになる。
- 2) 達成度評価：毎回提出のレポートと定期試験で評価する。
- 3) 成績評価方法：毎回提出のレポート（30%）と定期試験（70%）

食品衛生学実習：

- 1) 到達目標：下級年次ですでに習得した微生物学等を社会でどのように応用するかを理解する必要がある。また、検査手技だけでなく検査の目的を理解し、説明できるようになる。
- 2) 達成度評価：定期試験で評価する。
- 3) 成績評価方法：出席状況と定期試験（100%）

環境衛生学・毒性学実習：

- 1) 到達目標：環境衛生・毒性学について、実在する環境問題を例に取り上げながら実習を行う。環境測定を通して環境状態の把握し、毒性においては各種の物質が生物、植物に及ぼす影響について理解する。基本的な環境衛生学、毒性学についての測定や実験を通して学ぶ。上記、基礎的な知識と合わせて実在する環境問題にどう取り組むか、問題の解決に繋がる思考力を持つ。環境衛生・毒性の観点から実在する環境問題を理解し、広く一般に説明出来る様になる。
- 2) 達成度評価：毎回提出のレポートと定期試験および受講態度で評価する。
- 3) 成績評価方法：定期試験（50%）、レポート（25%）、平常点（25%）

獣医疫学実習：

- 1) 到達目標：人獣共通感染症病原体の取り扱い方法および調査手法について習得する。人と動物の双方の健康や安全に寄与する基本的な疫学統計手法から、リスク解析に至る疫学解析手法について学ぶ。
- 2) 達成度評価：レポートと定期試験で評価する。
- 3) 成績評価方法：学則に定める出席回数を単位修得の前提とし（10%）、レポート（20%）および定期試験の成績（70%）による総合的な評価を行う。

[北里大学]

[達成目標] 獣医衛生学は、家畜の生命と健康に障害を与えるような各種要因をできるだけ排除し、家畜の潜在能力を最大限に発揮させるように、広範な関連領域の知識と技術を総合して応用実践するための学問分野である。本科目の実習では、家畜の生産性向上を目指して、家畜の生命、健康の維持・増進を図るため、現実の題材をもとに実習を進めることにより将来直面する種々の家畜保健衛生・動物保健衛生課題の対応力を身につけることを目標としている。

[達成度評価] 本科目の実習では、家畜の生産性向上を目指して、家畜の生命、健康の維持・増進を図るため現実の題材をもとに実習を進めることにより、将来直面する種々の家畜保健衛生・動物保健衛生課題の対応力・判断力を身につけることを目標としている。従って、小グループでの実習ではあるが、個人が責任を持って最初から最後まで実習課題に取り組むような実

習内容になっており、これらの実習とデータ解析を通して、獣医衛生学への理解を深めてもらいたい。

〔成績評価方法〕 実習は個人単位で行うことから全て出席することが成績評価に不可欠である。成績はレポート（50 点）と試験（50 点）を総合して評価する。

〔日本獣医生命科学大学〕

獣医衛生実習・獣医公衆衛生実習：獣医衛生・獣医公衆衛生に関する検査の基礎的事項を習得する。

獣医総合実習（応用）：獣医衛生では、豚・鶏・小動物の衛生管理と法規。獣医公衆衛生では公衆衛生の現状、疫学および法規を習得する。

成績評価方法：出席および試験で評価

〔麻布大学〕

達成目標： 各実習において、それぞれの項目を理解し、関連機器の取扱いに慣れることを目標としている。特に獣医公衆衛生学実習では、実社会における公衆衛生上の諸問題に取り組める基礎を養う。また、環境毒性学実習では、環境獣医学分野から人の健康にどのように貢献できるか実習を通じて考える。

達成度評価：実習の終了時に各班単位で質問を行い、答えさせる。試験。レポート。

成績評価方法：出席、試験、レポートによる総合評価で行う。

〔日本大学〕

各実習毎の到達目標を理解させるとともに衛生学実習に関連する様々な手技を修得する。
それぞれの実習による評価基準を以下に示す。

獣医公衆衛生学実習（A,B）：平常点（出席状況；実習態度を含む）60%と、レポート20%、学期末テスト20%による総合評価（100点満点）。総合評価で60点以上取れば合格。

獣医衛生学実習：出席、レポート、試験による総合評価（全ての実習に出席し、実習のレポート提出が必須。かつ試験において疾病予防、環境衛生、管理衛生に関する各実習内容が理解できていれば合格（60点））

獣医伝染病学実習：出席 50%、試験 25%、レポート 25%の総合評価（各々の手技および判定方法が理解できていれば合格（60 点））。

魚病学実習：出席点（2/3 以上の出席）及びレポート点の合計。レポートについては、魚類の解剖や組織についての理解、細菌や寄生虫の分離・同定技術、病魚の取扱い技術および魚病の診断技術が修得できているかどうか審査する。基準実習における態度が真面目で、実習において学んだ基本的技術が修得できていれば合格（60点）とする。

実験動物学実習：出席、レポート、学期末試験による総合評価。動物実験を実施する際に、目的に応じてどのような手技が必要となるのか理解できれば合格（60点）。

獣医毒性学実習：出席、レポート、学期末試験による総合評価。各種試験方法の原理や評価基準等を理解できれば合格（60 点）。

5-3 講義と実習との関連性についての留意点

酪農学園大学	講義科目ハードヘルス学の講義内容と予防衛生学実習 C, D を関連付けている。
北里大学	実習は前期に配当されており、講義は前期と後期であるので限界はあるが、できる限り講義内容で触れた内容が前期の実習に反映されるような配慮をしている。
日本獣医生命科学大学	・疫学的および予防医学の部分は、講義ではなく実習および演習でまとめて行う。獣医衛生学実習と獣医公衆衛生学実習は実技中心（理論的部分は講義で行う）、獣医総合実習（応用）は動物の衛生管理と予防衛生に関する講義および感染症と食中毒の疫学演習が中心となっている。
麻布大学	講義での説明と実習での説明が重複することがあるが、かたや講義らしく、かたや実習らしく行う工夫をしている。この点については工夫が留意点と言える。 また、講義科目の内容の一部を実習で実施している科目で、同一学年に講義と実習がある場合は、講義内容で触れた部分を実習するように配慮している。
日本大学	①開講時期について 実習項目に関連する内容を含む講義は、実習実施前のスミスターあるいは前学年で開講している。また同時期に開講する場合は、実習項目に関連する内容の講義を行った後に実習を実施している。 ②その他 講義内容のうち、特に実技を必要とし、または実際の現場での体験学習を必要とする項目については、復習あるいは学習内容を深めるための項目を実習で取り上げて実施している。

5-4. 衛生学実習に関わる実習施設

実習で主として使用している実習室、施設とその用途

[酪農学園大学]

実習室、施設名	実習科目名	収容学生人数	実習用途
V34 実習室、獣医 3号館	予防衛生学実習 A, B	80 人	水質検査、環境評価、生乳検査、 免疫機能評価
大学附属農場	予防衛生学実習 C, D	70 人	生産動物群および飼養環境のモ ニタリング
PC ルーム	予防衛生学実習 C, D	70 人	疾病管理および制御に関する評 価分析法および防除法
V22, 23 実習室、 獣医 2 号館	食品衛生学実習	80 人	食中毒細菌の検出など、食品衛 生学実習に係る全て
V22, 23 実習室、 獣医 2 号館	環境衛生学・毒性学実習	80 人	環境衛生学・毒性学に係る実習 の全て
PC ルーム	獣医疫学実習	70 人	PC を活用した疫学解析を学ぶ

[北里大学]

実習室、施設名	実習科目名	収容学生人数	実習用途
512 実習室	獣医衛生学実習	150 名	感染症の診断
附属農場	獣医衛生学実習		家畜飼育環境調査など
614 実習室	獣医公衆衛生学実習	150 名	残留薬剤、食中毒検査

[日本獣医生命科学大学]

実習室、施設名	実習科目名	収容学生人数	実習用途
D 棟 324 実習室	獣医衛生学実習	60 名	実技（病原体検出・抗体サーベ イランス・疫学解析）
D 棟 426 実習室	獣医公衆衛生学実習	60 名	実技（食品衛生）
C 棟 502 講義室	獣医総合実習（応用）	120 名	演習・講義

[麻布大学]

実習室、施設名	実習科目名	収容学生人数	実習用途
実 2	家畜衛生学実習	80 名	環境衛生実習，疾病衛生実習， 管理実習など
獣医学部棟実 4	獣医公衆衛生学実習	80 名	生物学実習用、P2 レベル実習室
獣医学部棟実 8	環境毒性学実習	80 名	毒性・薬理学用
獣医学部棟実 1	環境毒性学実習	100 名	生物学実習室（実験動物用）
8 号館 8202	環境毒性学実習	80 名	顕微鏡実習用

[日本大学]

実習室、施設名	実習科目名	収容学生人数	実習用途
621 実習室	実験動物学実習、獣医毒性学実習、獣医伝染病学実習、獣医公衆衛生学実習 (A, B)	90 名	・ ウイルス、細菌培養 ・ 各種理化学実験 ・ 動物実験 ・ 細胞培養 ・ 血清診断
622 実習室	獣医毒性学実習	90 名	・ 組織学的検査
631 実習室	魚病学実習、獣医毒性学実習、獣医衛生学実習	90 名	・ 細菌培養 ・ 水質検査 ・ 薬物およびカビ毒残留検査 ・ 遺伝子および抗原検出検査 ・ 免疫機能検査 ・ 寄生虫検査 (魚類)
付属農場	獣医衛生学実習	90 名	・ 畜舎環境衛生・飼養衛生検査 ・ 生乳衛生検査

5-5. 衛生学実習に関わる機器

[酪農学園大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数
予防衛生学実習 A	水質検査に関する機器	水質検査	1 式
予防衛生学実習 A	環境評価に関する機器	環境調査・評価	1 式
予防衛生学実習 B	生乳検査に関する機器	生乳検査	1 式
予防衛生学実習 B	免疫機能評価に関する機器	免疫機能検査・評価	1 式
予防衛生学実習 C, D	PC	情報収集	70
予防衛生学実習 C, D	ウシの体調検査に関する機器	乳牛のハードヘルス	1 式
食品衛生学実習	乳脂肪測定用遠心機	乳脂肪測定	2
食品衛生学実習	水平ビュレット	揮発性塩基性窒素測定	14
食品衛生学実習	ふ卵器	細菌培養	2
食品衛生学実習	UV ランプ	大腸菌検出	3
食品衛生学実習	オートクレーブ	細菌汚染材料の滅菌	4
食品衛生学実習	乳調計	乳の比重測定	10
食品衛生学実習	HPLC	食品中の残留抗生物質の検出	1 式
環境衛生学・毒性学実習	原子吸光光度計	生体中微量元素濃度の測定	1
環境衛生学・毒性学実習	残留塩素測定器	残留塩素測定	13
環境衛生学・毒性学実習	臭気測定器	臭気測定	1 式
環境衛生学・毒性学実習	HPLC	環境の化学的評価	1 式
獣疫学実習	PC	疫学解析	70

[北里大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数
獣医衛生学実習	PCR サーマルサイクラー	薬剤耐性遺伝子検索	1
	微量高速遠心器	プラスミド抽出	3
	孵卵器	細菌培養	2
	DNA 電気泳動装置	遺伝子検索	7
獣医公衆衛生学実習	高速液体クロマトグラフィー	食品衛生検査、環境衛生検査	1
	ガスクロマトグラフ-質量分析計	食品衛生検査、環境衛生検査	1
	原子吸光計	環境衛生検査	1
	分光光度計	環境衛生検査	1
	ロータリーエバポレーター	食品衛生検査、環境衛生検査	1

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数
獣医衛生学実習 獣医公衆衛生学実習	ふ卵器		
獣医衛生学実習 獣医公衆衛生学実習	遠心器	血液サンプルの処理など	10
獣医衛生学実習 獣医公衆衛生学実習	オートクレーブ	器具、培地の滅菌など	5
獣医衛生学実習 獣医公衆衛生学実習	乾熱滅菌器	器具の滅菌など	2
獣医公衆衛生学実習	原子吸光装置	元素分析	1
獣医公衆衛生学実習	発光プラズマ分光分析装置	元素分析	1
獣医衛生学実習 獣医公衆衛生学実習	実体顕微鏡	細菌の観察	120
獣医衛生学実習	カタ温度計		20
獣医衛生学実習	ガス検知管		10
獣医衛生学実習	サーマルサイクラー	細菌鑑別、同定	2
獣医衛生学実習	恒温培養器	細菌培養	4

[麻布大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数
家畜衛生学実習	アスマン通風温湿度計	空気および湿度の測定	17
家畜衛生学実習	低温用カタ温度計	空気の冷却力	17
家畜衛生学実習	北川式ガス検知器	各種ガスの簡易測定	17
家畜衛生学実習	騒音計	騒音の測定	17
家畜衛生学実習	フランビン	DOB および OD の測定	50
家畜衛生学実習	透視度計	透視度の測定	17
家畜衛生学実習	pH メータ(卓上タイプ)	水や土壌の pH 測定	1
家畜衛生学実習	pH メータ(ポータブルタイプ)	水の pH 測定	1
家畜衛生学実習	EC メータ	土壌の EC の測定	1
獣医公衆衛生学実習	インキュベーター	細菌等の培養	5
獣医公衆衛生学実習	ルミテスター	細菌検出用	10
環境毒性学実習	DNA 増幅装置		

〔日本大学〕

実習科目名	実習用機器名	用途	台数
獣医公衆衛生学実習 (A, B)	遠心分離器	材料の遠心分離	2
獣医公衆衛生学実習 (A, B)	ドラフト	揮発性薬品の取扱	1
獣医公衆衛生学実習 (A, B)	恒温槽	細菌培養など	2
獣医公衆衛生学実習 (A, B)	吸光度計	食品添加物検査	1
獣医公衆衛生学実習 (A, B)	高圧蒸気滅菌器	培地作成	1
獣医衛生学実習	吸光度計	水質検査など	1
獣医衛生学実習	恒温槽	細菌培養など	1
獣医衛生学実習	高圧蒸気滅菌器	培地作成	2
獣医衛生学実習	サーマルサイクラー	遺伝子検査	1
獣医衛生学実習	蛍光顕微鏡	蛍光抗体法	1
獣医衛生学実習	乾熱滅菌器	試料の乾燥	1
実験動物学実習	高速遠心機	血清分離	1
魚病学実習	遠心分離器	白血球分離	2
魚病学実習	恒温槽	細菌培養など	1
魚病学実習	光学顕微鏡	血液・組織観察	80
魚病学実習	高圧蒸気滅菌器	培地作成	1
獣医毒性学実習	恒温槽	微量元素分析	6
獣医伝染病学実習	炭酸ガス培養器	細胞培養	2
獣医伝染病学実習	倒立顕微鏡	培養細胞の観察	14
獣医伝染病学実習	4℃冷蔵庫	赤血球凝集反応	2
獣医伝染病学実習	37℃培養器	細胞培養	2
獣医伝染病学実習	高圧蒸気滅菌器	培地作成と滅菌	1
獣医伝染病学実習	乾熱滅菌器	実験材料の滅菌	1
獣医伝染病学実習	恒温槽	補体結合反応	4

5-6-1. 学外での衛生学関連実習の単位認定について

学外実習の単位認定基準（対象機関・期間・単位数）や成績評価の方法について

酪農学園大学	家畜衛生施設（都道府県家畜保健所など）あるいは公衆衛生施設（都道府県保健所、食肉検査所、検疫所など）あるいは関連する研究施設など 期間：1週間以上 単位数：1 単位認定：実習受け入れ先の評価ならびにレポート提出による総合評価
北里大学	対象機関：動物衛生研究所、家畜保健衛生所、畜産試験場などの国・地方自治体の機関 期間：休暇中の1～2週間 単位数：1週間で1単位、同じ所で2単位まで 成績評価：学生の指導報告書を実習先の指導責任者に依頼（出席状態と実習態度） 普通に実習を行えば基本的には85点（優）と判定
日本獣医生命科学大学	現在、獣医衛生学の学外実習は必修ではなく、希望学生が夏季または春季休業中に個別に行っている。この際、自治体の家畜衛生機関、検疫所、財団を含めたワクチン関連会社において1週間以上の研修を行った場合に、1単位（選択単位）として認定している。
麻布大学	学外での見学を実習の一環として2回(1.5日)実施している。 獣医公衆衛生学実習では食肉検査所、食品工場、上・下水道処理場の見学を実施している。 また、専門学外実習（必修、5年次、通年、2単位）で獣医師の働いている職場にて実習を行っているが、本科目において毎年何名かは、公衆衛生関連施設にて実習を行っている。 専門学外実習の単位認定は、実習先の評価、レポート、学内での報告会による総合評価にて成績評価をし、単位は総合評価の結果60点以上の学生について認定している。
日本大学	獣医公衆衛生学実習では、食肉衛生検査所、動物保護センターに教員が引率して訪問し、それぞれ半日ずつ現地見学実習を実施している。現地見学実習の出席は、獣医公衆衛生学実習Bの1単位の取得に必須となっている。 獣医衛生学実習では、農林水産省動物検疫所に教員が引率して訪問し、現地で半日の見学実習ならびに家畜防疫官による講義を実施している。現地見学実習の出席は、獣医衛生学実習1単位の取得に必須となっている。 応用獣医学総合演習Aでは、官公庁、地方公共団体、農業共済組合、動物園等動物飼育施設等の獣医学関連施設を任意に選択し、インターンシップあるいは現地研修の形式で、夏期の1～2週間の学外研修を義務づけている。研修先からの学外研修報告および研修終了後の学内発表会への参加によって、応用獣医学総合演習Aとして1単位認定している。

5-6-2. 支援体制などについて

大学におけるその支援体制（実習先の紹介や事務組織の関与など）について

酪農学園大学	実習先の紹介は教員によって随時行っている。 農業共済組合等の公的な臨床実習募集については事務部が担当している。
北里大学	支援体制：学生実習支援委員会を組織し、国や県の機関での実習先の相談から選定まで面倒を見ている。担当教員はほぼ固定した状態。 事務組織：単位となる実習は教務課が実習依頼書の発送などの事務業務を担当 単位とならない実習（2，3年生）は学生課が同様な事務を担当
日本獣医生命科学大学	獣医衛生学教室が研修先の紹介を行っている。事務部は、実習先への実習依頼書の作成を行っている。
麻布大学	専門学外実習における実習先の決定は、学生が直接実習先に交渉を行うことを基本とするが、公衆衛生関連施設については、教員1名が担当となり、支援を行っている。 また、学外施設との公的な文書のやり取りについては、事務（学生支援課）が行っている。
日本大学	獣医公衆衛生学実習および獣医衛生学実習における学外実習は、これまで大学実習担当教員と実習先施設との長年にわたる連携が確立しており、大学学部教務課を通じて実習先施設に連絡が行われている。 応用獣医学総合演習Aにおける夏期学外実習は、実習先施設ごとに各教員が担当責任者となり、取りまとめ、実習先施設と連携した上で、大学学部教務課を通じて実習を申請、実施している。実習期間中の学生の傷害保険については、大学学部教務課および学生課において課外実習として適用する体制を整えている。

5-6-3. 海外実習について

海外での衛生学関連実習、単位認定、成績評価の方法、教員の引率、現地での通訳など支援体制について

酪農学園大学	特に行なっていない。
北里大学	衛生学関連として特別な学外実習はないが、米国 3 大学夏期研修では衛生実習に近い、大動物関連の実習を行う場合もある。
日本獣医生命科学大学	オーストラリア・クイーンズランド州で、と畜検査所見学を行っている（希望者のみ）。単位は、衛生関連単位ではなく、牧場実習として認定している。引率教員は通常大学から 3 名、現地の日本人スタッフ（日本獣医生命科学大学卒業生）で行っており、クイーンズランド大学およびオーストラリア日本野生動物保護教育財団（Australia-Japan Wildlife Conservation & Education Foundation）によって支援されている。
麻布大学	実施していない。
日本大学	実施していない

5-6-4 学外で関連の実習に利用している施設について

酪農学園大学	特にない。
北里大学	見学実習として、十和田食肉衛生検査所、青森県動物愛護センター、十和田食肉センター
日本獣医生命科学大学	獣医衛生：動物検疫所（横浜）、家畜保健衛生所（富山県、福岡）、東京都健康安全研究センター、動物医薬品検査所、動物衛生研究所 獣医公衆衛生：なし
麻布大学	神奈川県食肉衛生検査所、神奈川県食肉センター、神奈川県農業技術センター畜産技術所、神奈川県下水道公社、神奈川県内広域水道企業団 相模原市南清掃工場、キリンビバレッジ湘南
日本大学	神奈川県食肉衛生検査所、神奈川県動物保護センター、農林水産省動物検疫所

第5章 学生への支援体制について

1 2. 学生への実習支援体制について

12-1 学生への実習支援体制について（自己評価 V）

支援内容について具体的な例示をしなかったため、記載内容が機器や講師など大学間で異なっていた。今後の調査に際しては対象を明確にする必要が考えられた。

12-2 実習に対する FD など学生からの意見などをくみ上げるシステムについて（自己評価 V）

5 大学とも FD の一環として実習評価が行われており、ほぼ適切に学生からの意見をくみ上げるシステムはが活用されているとの評価であった。

1 3. 留年、就職、進学などの指導体制について（表 2、3）

私立 5 大学の卒業生の就職状況では平成 15 年と平成 21 年度の比較で、就職先全体の傾向は大きく変化していないが、地方公務員（都道府県、市町村）が 22%減であった。これに対して農業関係団体が 67%増加していた。農業関係団体では首都圏 3 大学での説明会やインターシップの実施など求人への取組みが活発に行われており、その成果と考えられる。一方、地方公務員については社会的要請が高いこともあり、獣医科大学として学生への職域の理解を醸成すると共に都道府県などに具体的な求人の取組み内容の改善などを提案することが必要と考えられる。

私立 5 大学の受験者数については入試制度が変更されているので、厳密には比較し難いが、全体として 17 年度と比較して平成 22 年度では 0.6~0.8 程度に減少している。留年率や退学者率には大きな変化は見られないので、目的意識を持った一定の学力を有した学生が入学していると考えられるが、3-2 進級要件で記載したように一部の大学では低学年次学生の学力不足や今後のコアカリキュラムへの対応に不安が指摘されている。これまで以上にきめ細かい修学指導が必要と考えられる。

以下修学指導などで追加があった分を記載した。

酪農大では各学年の 2~4 名の学生に 1 名の教員が学生担当教員として修学指導に当たり、4 年次以降は所属教室の教員が指導している。なお、2 年続けて同一学年で留年した学生については学生担当教員と学生が協議した後、学部長による退学勧告がされる（強制力はない）。就職については就職課が主として対応しており、進学については各所属教室の教員が指導している。

日獣大では留年した学生には、前年度の担任が主に未習得単位の履修方法などの相談にのっている。就職については、学生就職支援課が年に 10 数度の就職ガイダンスを開催し、6 年次担任とともに就職を希望する学生の指導に当たっている。進学に関しては学生の所属する教室の教員が主に指導を行うが大学院課が必要書類の作製などサポートする体制となっている。

表2 受験者数・入学者数・留年率・退学率・進学率・進路などの推移

大学	年度 (平成)	受験者 (名)	入学者 (名)	留年率	推薦 入学率	編入 入学率	社会人 入学率	退学者 率	卒業者 (名)	国試合格 率	就職率	進学率
酪農大	17	3,146	128	1.3	10.8	4.1	1.4	0.5	137	92.5	72.3	2.2
	18	2,746	140	2.5	14.3	2.9	1.4	0.7	148	92.3	73.6	5.4
	19	2,552	142	2.3	14.1	2.8	0.7	0.6	135	83.2	73.3	5.9
	20	2,005	143	1.2	15.4	3.5	0.7	0.9	139	88.3	78.4	4.3
	21	1,812	144	3.7	16.0	2.8	0.7	0.7	139	90.6	74.1	5.8
	22	1,641	139	—	17.3	2.9	0.0	—	131	96.2	—	—
北里大	17	3,097	145	0.8	13.8	0.7	0	0.5	149	89.3	80.5	2.0
	18	3,173	137	0.8	16.1	3.5	0	0.4	148	92.6	79.7	5.4
	19	3,034	144	0.7	13.9	5.0	0	0.2	134	92.5	82.8	2.2
	20	2,974	148	1.1	12.2	3.3	0	0.2	149	87.9	80.5	2.0
	21	2,511	143	0.9	14.7	1.4	0	0.5	138	94.9	86.2	5.0
	22	2,415	139	—	12.9	3.5	0	0.0	148	91.2	—	—
日獣大	17	3,136	97	1.9	24.9	0	0.3	1.0	92	86.5	59.8	8.7
	18	2,778	96	2.0	26.0	0	0	0.5	100	91.9	80.0	9.0
	19	2,552	96	1.4	21.9	0	0	1.0	105	85.4	76.2	8.6
	20	2,076	96	2.3	20.8	0	1.0	1.2	90	75.3	66.7	6.7
	21	2,420	98	3.7	21.4	0	1.0	1.2	87	98.9	72.4	8.0
	22	1,967	99	—	22.2	0	2.0	—	95	90.5	—	—
麻布大	17	2,943	154	2.8	29.2	5.8	0	1.0	143	94.4	81.1	2.8
	18	2,992	155	3.1	29.7	7.7	1	1.1	145	91.6	93.0	1.4
	19	2,878	157	2.6	29.3	6.4	0	0.9	158	84.2	85.2	6.3
	20	2,648	156	1.9	30.8	7.7	0	0.5	141	85.1	95.8	2.8
	21	2,259	156	2.9	34.0	4.5	0	0.7	154	85.6	87.7	3.2
	22	1,963	155	2.6	33.5	4.5	1	0.3	165	87.2	97.8	0.6
日大	17	3,135	140	2.9	39.3	2.4	0	0.7	164	94.4	79.8	6.1
	18	2,888	140	1.5	45.7	2.1	0	0.6	137	94.9	69.3	8.0
	19	2,547	149	1.7	43.6	1.4	0	0.3	146	89.7	73.3	4.8
	20	3,215	140	2.7	52.1	1.3	0	1.1	131	82.3	74.0	3.8
	21	2,806	131	1.4	49.6	1.4	0	0.6	134	91.8	73.1	7.5
	22	2,442	138	0.8	49.3	3.6	0	0.1	141	87.9	73.6	5.0

表3 卒業者の就職状況(人数)

大学	調査年度	国家公務員	独立行政法人	都道府県職員	市町村職員	会社	農業関係団体	個人診療施設	研究機関	進学(含外国)	海外	その他	計
酪農大	平成15年度	2	0	16	0	10	14	81	3	4	0	21	151
	平成17年度	1	0	10	3	9	18	55	3	3	0	35	137
	平成19年度	2	3	15	3	6	17	51	1	8	1	28	135
	平成21年度	4	0	12	2	4	11	68	2	8	3	25	139
北里大	平成15年度	0	0	17	2	7	0	88	1	3	0	13	131
	平成17年度	2	0	14	4	2	4	88	0	3	0	32	149
	平成19年度	1	1	6	4	5	5	89	0	3	0	20	134
	平成21年度	2	0	15	4	5	5	87	1	7	0	12	138
日獣大	平成15年度	3	1	14	2	8	3	45	0	8	0	16	100
	平成17年度	1	0	6	2	6	4	38	0	5	0	30	92
	平成19年度	2	0	6	1	6	5	56	0	4	0	25	105
	平成21年度	3	0	5	4	4	8	39	0	7	0	17	87
麻布大	平成15年度	2	1	9	7	4	6	69	0	7	0	42	147
	平成17年度	2	0	8	0	4	10	92	0	4	0	23	143
	平成19年度	3	1	9	3	8	6	72	1	11	0	44	158
	平成21年度	1	0	11	2	9	14	72	3	5	0	37	154
日大	平成15年度	2	0	20	0	6	4	73	1	12	0	27	145
	平成17年度	2	0	9	4	7	7	102	1	10	0	22	164
	平成19年度	1	0	10	2	5	8	81	0	7	0	32	146
	平成21年度	0	0	8	5	7	7	70	0	10	0	26	134
合計	平成15年度	9	2	76	11	35	27	356	5	34	0	119	674
	平成17年度	8	0	47	13	28	43	375	4	25	0	142	685
	平成19年度	9	5	46	13	30	41	349	2	33	1	149	678
	平成21年度	10	0	51	17	29	45	336	6	37	3	117	652

第6章 全体のとりまとめと今後の課題

私立大学で獣医学教育を展開している5大学は私立獣医科大学協会を組織し、獣医学教育・研究の充実、改善を目指して継続的に相互評価を実施してきた。5校は各大学において建学の精神と教育理念を掲げ、高度専門職業人としての獣医師を養成するために、それぞれの大学の特色を生かしながら臨床教育を重視した教育を行っており、(財)大学基準協会の獣医学教育の基準は満たしていないものの、各大学で50～60人の教員が比較的バランスのとれたカリキュラムの基で獣医学教育を実施している。また、5大学ともに教育病院として新しい附属動物病院の改築を行い、新しい診療施設を使用して臨床教育の充実を図っている。このように日本における獣医学教育は私立5大学が先導的な状況で行われて来たと言っても過言ではない。しかし、獣医学教育、特に私立獣医科大学での獣医学教育を取り巻く国内外の状況は色々な面で厳しさを増している。

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」が平成23年3月に取りまとめられ、公表されているが、この中で国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程として4つの観点から記載がなされている。独立行政法人としての獣医系国立大学においては鹿児島大学と山口大学間、北海道大学と帯広畜産大学間、東京農工大学と岩手大学間で教育研究体制の整備を図るため共同学部や共同学科など共同教育課程の設置が具体的に提示されている。これらの共同教育課程では、学生数60～80名に対して教員数も60～80名となる。これらの教育体制が実施されれば、今までの私立大学における教員数のスケールメリットを生かした教育の利点は少なくとも同程度になると考えられる。また、モデルコアカリキュラムの提示とそれに基づく各大学でのカリキュラム改革が求められている。私立獣医科大学では現時点でも大部分の項目について対応が済んでいると考えられ、教育の遂行上あまり大きな影響はないと思われるが、一部の科目・分野においては早急な対応が必要になる場合も考えられる。さらに、モデルコアカリキュラムはある面で、私立大学各校において今まで行われてきた独自性の高い教育の足かせとなることも危惧される。

獣医学教育の質保証のための第三者評価の導入とその実施についても私立獣医科5大学は現状で対応が可能と考えられるが、共用試験の導入・実施については私立大学5校では学生数が80～120名と多いため、どのような形式で実施されるかによっては影響が大きいことも予想される。国立大学での実施プログラムとは別個の私立獣医科大学協会としての取組の検討も必要と考えられる。

「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」では社会的ニーズと現状における獣医師の職域偏在や地域的偏在への対応や獣医師として求められる実践的な力を育む教育（実習科目など）での課題が指摘されており、農林水産省も参加型臨床実習についての各大学での体制作りを求めている。

上記のような状況を鑑み、私立獣医科大学協会では臨床ならびに衛生学実習について相互評価を実施することとし、私立獣医科大学における臨床ならびに衛生学実習に

関する相互評価報告書を第6次の相互評価としてこの度公表することとした。

私立獣医科大学各校では以前に比較して教員数は増加しているが、(財)大学基準協会の獣医学教育の教員数基準には達していない。特に、獣医学臨床教育について考えると、伴侶動物医療については1次診療から高度先端獣医療まで、産業動物医療については個体診療から群管理に加えて、予防衛生・感染症対策などとそれぞれの分野で非常に異なった概念の広い教育内容が含まれ、それに対応した実習内容の教授が必要となっている。さらに、参加型臨床実習では教員当たり少人数の学生での実習が必要となり、より一層臨床系教員の増員が必要である。また、この際には附属動物病院の活用が求められることになり、診療の支援要員と教員間での臨床教育についての協力体制を如何に構築していくかが早急に解決されなければならない。これらの観点から、私立5大学間での臨床実習教育の協力体制を構築することが必要と考える。

臨床講義科目の専門科目に占める単位の割合は日獣大が30.5%と高く、麻布大が18.7%と少なく、他3大学は21.3~26.3%であった。臨床実習科目の専門科目に占める単位の割合も日獣大が39.8%と高く、麻布大は6.0%と低かった。

日獣大では臨床科目の割合が講義、実習単位とも30%以上と高く、臨床課目重視の姿勢がうかがえる。一方、麻布大と日大では臨床実習単位の割合が6%と7.9%と全体の1割以下であった。

臨床科目を実施するうえでの私立獣医科大学5校の教員数を考えると、私立獣医科大学における獣医学科専任教員数は平成10年度と比較して24人増加しているが、臨床系教員については全体で7名しか増加していない。各大学の臨床系教員数は日大が22人、北里大21人、酪農大19人、日獣大18人、麻布大16人であり、臨床系教員数と非臨床系教員数の比率では日大が50%と最も多く、麻布大が27.1%と低く、他3大学では30.0~38.9%であった。

動物病院の専任教員が獣医学科教員に含まれていないなど、教員組織における獣医学科専任教員の取扱に違いがあるため、教員数の単純な比較は難しいが、日大では臨床科目数に比して臨床系教員の割合が多く、少人数教育の実施に適合した配置がなされていると考えられるが、日獣大では臨床系科目数の割には教員数がそれほど多くなく、臨床系教員の教育負担が大きいことが予想される。また、全国的に臨床系教員の不足が指摘されているので、私立獣医科大学協会として臨床系教員の拡充とその養成の具体的な取組みが急務の課題と考えられる。

臨床実習で使用する動物種ならびに動物病院での症例数の調査から、酪農大と北里大では産業動物と伴侶動物の両方の臨床実習がバランス良く実施されていると考えられるが、日獣大と日大では産業動物の症例数が極端に少なく、キャンパス内ではこの分野の実習は十分行われていないと考えられる。首都圏に位置する獣医科大学ではその設置場所から考えて、今後産業動物の症例数が顕著に増加するとは考えにくく、産業動物獣医師育成が社会的ニーズとなっていることを考慮すると、学外施設の利用とともに、他大学での産業動物医療実習の協力体制の構築も必要と考える。

2009年11月には国際獣疫事務局(OIE)から「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」勧告が提示されている。この中には全世界的な感染症対策、動物衛生と福

祉の向上、コアカリキュラムモデルの作成、動物の健康、人の公衆衛生、環境衛生を一つとする新しい理念の実行などが記載されている。したがって、本相互評価では公衆衛生学を含む衛生学関連の実習教育についても検証を試みた。

衛生学関連科目は応用系の教科目であり、必ずしも独立した科目体系で教授されているとは限らず、衛生学関連科目については各大学での判断に委ねたため、必ずしも実態を正確には反映していないかもしれない。しかしながら、衛生学関連教科目名や単位数の調査と担当教員数はある程度対応していることから一定程度各大学の状況を反映していると考えられる。

各大学の衛生学担当教員数は日獣大 5 名、北里大と麻布大 7 名、日大 10 名、酪農大 11 名の順であった。酪農大と日大では全教員に対する比率が 20%程度で衛生学関連教育を重視する姿勢がうかがえる。

衛生学関連科目については講義・実習とも酪農大と日大で多く、これは衛生学担当教員の割合が両大学で多いことと一致し、この分野科目重視の姿勢がカリキュラムからも示された。次いで麻布大の割合が高く、北里大と日獣大では選択科目を加えても衛生学関連講義単位数は他 3 大学よりも少ない。現在獣医学教育では衛生学関連科目の社会的要請が大きく、授業内容を検討しながら、不足している大学では教育・教員の充実が必要と考えられる。

18 歳人口の減少に伴い、私立獣医科大学への受験生は有意に減少しており、入試制度の改正などを行って、受験機会を増加させるなどしているため、志願者数の正確な評価は難しいが、実質的な志願者数はピーク時の半数近い数になっていると考えられる。一方、志願者数が減少している割には国家試験合格率や留年率などにそれほど大きな変化が認められないことから、現時点では成績的に優秀で、目的意識を有する学生が入学していると考えられる。しかしながら、低年次学生で単位未修得者が増えるなど、学力に格差がある学生が入学しているとの指摘もなされており、今後はよりきめ細かい在学生の修学指導が必要になると考えられる。

本相互評価では私立 5 大学において実施されている特色ある実習教育を調査し、将来的に 5 大学間での実習教育の協力関係を構築するために必要な基礎的データを収集した。獣医学教育を取り巻く環境の急速な変化に対応するために、本報告書が私立獣医科大学におけるこれからの獣医学教育の改善と充実のために活用されることを願っている。

III 第6次相互評価調査に関する各大学における自己評価

私立獣医科大学協会で実施している相互評価では、調査項目について今後の改善を図るために、加盟5獣医科大学での自己評価を実施している。第6次相互評価では主として臨床実習と衛生学実習を対象としているが、教員構成や教育支援者などについて、以前の調査時から改善されているかについて相互評価を行ったので、これらの項目についても自己評価を行った。

評価は4段階とし下記のような基準で行った。

A：適切／概ね適切である／改善された

B：適切な部分が多い／改善された部分が多い

C：適切でない部分が多い／改善されていない部分が多い

D：適切でない／改善されていない

I 臨床実習教育および衛生学実習の目的・目標

1-1 臨床実習の理念・目的・目標

①大学、獣医学科の理念と教育目的・目標に沿った臨床実習が設定（科目や内容など）されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	建学の理念に基づいた産業動物獣医師育成のための臨床実習科目はほぼ適切に設定されている。また、高度な専門職業人としての伴侶動物ならびに生産動物獣医師を養成するための科目についてもほぼ適切に設定されている。
北里大	B	獣医学科の理念の一つである「伴侶動物や産業動物の獣医療の充実」を達成するために、小動物（伴侶動物）および大動物（産業動物）関連の実習を広範に設定しており、適切な部分が多い。
日獣大	B	「愛と科学の心を有する質の高い獣医師の養成」を教育理念・目標に掲げている。基礎、応用系の教育は十分と評価できるが、臨床実習は残念ながら十分とはいえない。
麻布大	A	建学精神の「学理の討究と誠実なる実践」の理念のもとに、大学附動物病院にて臨床の実践・実務能力を伸ばす臨床実習を行っている。生産獣医系分野では、産業動物臨床実習という科目を設定し、附属動物病院に入院している患者を用いて参加型臨床実習を実施している。
日大	A	設定されている。自主創造の本学教育理念に沿い、一部臨床実習ではある程度自主的に実習項目を設定できる様にしている。最低限の学習必要事項を設定し、更に各自で考えたプログラムを取り入れられる様にしている。その他の実習科目においても、シラバスに準じて内容を設定している。また、本学科卒業生の多くが、小動物臨床分野を志向している現状を踏まえ、小動物外科および同内科の基本的事項を中心の実習内容としている。

②臨床実習の目標・方針は、学習者の要求や社会的要請に合致しているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	社会的ニーズの高い産業動物獣医師育成のための臨床実習の目標・方針はほぼ合致している。また、伴侶動物臨床実習についてもこの分野を希望する学生の要求に沿った実習目標が設定されている。
北里大	B	目標・方針は、小動物や大動物の獣医療の充実に必要な基本的知識や手技の習得に主眼が置かれており、学習者や社会的要請に合致している部分が多い。しかし、高度化する小動物医療への要望に十分に対応し切れていない点などもある。
日獣大	B	小動物臨床志向の学生が多く、その希望に合わせた形のカリキュラムにやや傾いているのが現状で、産業動物臨床獣医師を多く求める社会的要請に十分に応えているとは言い難い。
麻布大	A	大学附属動物病院のホームページやパンフレットでの公表によって病院広報で高度な獣医療を実践するとともに、附属動物病院に来院する症例を教材に臨床教育を実践している。 現場の獣医師から診療依頼を受けた患者を用いて実習を行っており、社会的要請に合致している。本学では卒業後の進路として臨床獣医師を目指す学生が多く、臨床実習に対する評価はよい。
日大	B	概ね合致している。卒業後の進路の約 6 割を小動物臨床の占める実情に基づき、小動物外科および同内科他関連諸科目の習得に、十分な配慮を払っている。しかし、産業動物臨床実習は、小動物と比べ配分時間が少ないため、改善の必要がある。産業動物の広域伝染性疾患に対し我が国は、防圧義務の国際的一翼を担っており、産業動物臨床教育に、一層の充実・促進を図る必要がある。

③臨床実習の目標・方針に沿ったアクション・ポリシーが明確になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	獣医学科設立の理念が明確であり、それに沿ったポリシーとなっている。また、2008 年度に開始されたカリキュラムではそれぞれの分野でより目標に沿った専修教育を実施することとしている。
北里大	B	獣医学科の理念を考慮し、臨床現場において必要な基本的な知識と手技を習得できるように実習内容が組み立てられており、適切な部分が多い。
日獣大	B	学是、教育理念で、大学としてのポリシーは明確になっており、学生にも十分に伝わっている。それに合わせたカリキュラムへ変更中（24 年度入学生から実施の予定）
麻布大	B	臨床教育の充実を図るため、臨床系教員および動物看護師、特任教員等の病院スタッフの増員と診療設備の充実を図ってきた。大方、履修要綱（シラバス）に掲げた実習が行えているが、個々の実習学生が抱える臨床課題を解決させる体制には不十分である。また、産業動物臨床に従事する教員の補充は要望済みであるが、確約されたものではない。
日大	A	各実習科目において、目標や方針に沿ったポリシーはシラバスによって明確化されている。

④臨床実習の目標・方針が学生および教員に周知されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	それぞれの実習科目の目標や方針はシラバスなどに記載され、学生および教員に周知されている。
北里大	B	目標・方針は、シラバスに記載されており、学生および教員に周知されている。
日獣大	C	臨床教育の講義、実習の中で産業動物臨床の重要性を繰り返し強調している割には、国際社会における産業動物獣医師の仕事の必要性・重要性を十分に認識している学生が少ないように感じる。
麻布大	A	学部教授会や病院内での各部門会議や病院運営会議、ならびに系会議等の協議で、臨床教育の目標設定や方針を決定しているため、教員への周知は十分行われている。また 学生に対しては、履修要綱（シラバス）等や病院実習ガイダンスで周知している。
日 大	A	十分に周知されている。実習の目標や方針に関して、シラバス等を学生に事前に配布し、さらに実習前の講義で周知徹底を図っている。

I-2 衛生学実習の理念・目的・目標

①大学、獣医学科の理念と教育目的・目標に沿った衛生学実習が設定（科目や内容など）されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	獣医学科の理念と教育目的・目標に沿った組織改編ならびにカリキュラム作成を行った。
北里大	B	獣医学科の教育目標の一つでもある産業動物の疾病予防の知識と技術を習得するための実習項目と内容が設定されており、適切な部分が多い。
日獣大	B	獣医師は公衆衛生を通じ人の健康を守るという理念は学科の教育目標にも掲げており、学生にも十分に浸透している。
麻布大	A（家畜衛生学・家畜伝染病学） B（公衆衛生実習）	本学のディプロマ・ポリシーは臨床、予防衛生、公衆衛生に対応できる専門家としての実践能力を修得させることを主な柱としている。獣医学部の教育理念・目的に基づき、獣医師としての科学的思考力と応用能力を展開させ、生命と福祉にかかわる科学者としての社会的使命を遂行できる能力及び動物の生理や病態、疾病の処置とその予防、並びにヒトと動物の感染症、動物性食品衛生及び環境衛生に関する科学的知識を併せ持つ人材の養成を目的とし、衛生学実習はその目的・目標に沿って科目や内容が設定されている
日大	A	本学の教育の理念・目標である、広範な職域に対応できる獣医師を養成するために、衛生学分野の実習科目である獣医公衆衛生学実習、獣医衛生学実習、獣医伝染病学実習、魚病学実習、実験動物学実習、獣医毒性学実習が設置されている。

②衛生学実習の目標・方針は、学習者の要求や社会的要請に合致しているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	国家試験に合格するために必要な知識の賦与という点では学習者（学生）の要求はほぼ満たしているといえる。反面、国家試験以外には必要でない知識を習得するために、実際に社会に出てからは有用な知識や技術習得の時間が不足している面もある。
北里大	B	衛生学実習の目標・方針は、産業動物と広く動物の予防衛生領域をカバーし、現在問題となっている疾病を想定した実習内容となっており、学習者の要求と社会的要請に対して、適正な部分が多い。
日獣大	C	公衆衛生、家畜衛生などで用いられる技術の習得に関しては十分と考えられるが、疫学分野の教育・実習が十分とは言えない。
麻布大	A	「家畜衛生学実習」と「家畜伝染病学実習」の2科目を習得することにより、疾病診断と疾病予防に対応が可能となる。例えば、昨年に宮崎県で発生した口蹄疫など家畜伝染病、届出伝染病をはじめ産業動物臨床現場で日常的に発生している疾病について網羅した実習内容となっているので、これら2科目の実習に対する学生の要求に充分に対応しているもので、かつ社会的要請に合致しているものである。 また、「獣医公衆衛生学実習」の食品衛生、ヒトと動物の共通感染症、環境衛生等に取り組める基礎を培うという目標・方針は、学習者の要求や社会的要請に合致している。
日大	A	これまで、“衛生学実習”という区分として統一した目標・方針の決定は行われていないが、各科目は獣医学科の教育理念・目標に沿って設置され、学習者の要求や社会的要請を参考に随時見直しが行われ、毎年の科目シラバス作成・改善に組み入れられている。

③衛生学実習の目標・方針に沿ったアクション・ポリシーが明確になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	各科目のシラバスが公開されており、アクション・ポリシーが明確に示されている。
北里大	B	衛生学実習の目的・方針は、家畜保健衛生所において日常的に実施されるであろう検査にも理解・対応できるような実習項目を選んで実施しており、応用力を付けることを目標としている。
日獣大	B	3, 4年次での技術の習得のための実習、5, 6年次での総合臨床実習とのセットで臨床応用実習としての衛生学関連の実習を実施しており、衛生学関連の実習の重要性を明確にしている。
麻布大	A(衛生・伝染病) B(公衆衛生)	講義の担当者については、生産獣医学系の系会議で確認の上決定し、授業科目や実習内容等の教育全般については、系会議で検討・確認する教育体制が実施されている。実習の目標・方針に沿ったアクション・ポリシーは、シラバスに記載されており明確になっている。
日大	A	それぞれの科目については、シラバスによって明確化されている。

④衛生学実習の目標・方針が学生および教員に周知されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	各科目のシラバスが公開されており、目標・方針が明確に示されている。
北里大	B	衛生学実習の目的・方針についてはシラバスに記載されており、学生と教員に周知されている。
日獣大	B	新しいカリキュラムの中でうまく機能している。周知は十分である。
麻布大	A	シラバスを毎年作成し、環境獣医学系の会議などで協議を行っている。年度初めには「学年ガイダンス」を実施し、また、各実習科目においては、最初の実習において「実習ガイダンス」を行い、実習予定表を配布・掲示している。当該年度の実習分担教員に対しては、実習予定表を配布し実習内容の確認を行っている。また、学外などでの見学実習を実施する場合には、その趣旨を理解の上、時間的な調整(融通)に協力をお願いしている。
日 大	A	それぞれの科目については、シラバスによって学生および教員に周知されている。

Ⅱ 教員構成

Ⅱ－１ 全体

①教員組織は改善されたか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	5 専門教育群（生体機能、感染・病理、衛生環境、生産動物医療、伴侶動物医療）がそれぞれの専門教育分野について責任を持つ教育体制とした。教員数全体としては前回調査時よりも増加しており、特に食品衛生学、獣疫学、環境衛生学など公衆衛生分野（衛生・環境教育群）の教員数と伴侶動物医療教育群について増員されたが、特定の専門分野（特に伴侶動物医療教育群）については不十分なままである。年齢構成については積極的に若手教員の採用を目指しており、ほぼバランスのある構成と考えられる。獣医学科教員は原則専任である。
北里大	B	前回調査に比較して教員数が増員され、研究室体制の再編成を実施したことで改善された部分が多い。しかし、年齢構成には偏りがあり、改善すべき部分もある。
日獣大	C	専門分野に関してアンバランスも多い。数も十分でない。特に実習を主として実施する若手（30 歳代）の教員数が少ない現状である。
麻布大	C	H19 年 4 月に動物病院が大学附属に組織替えされ、6 名の専任教員体制となった（新規採用教員 2 名、旧獣医学部附属動物病院からの移籍教員 2 名、及び獣医学科臨床獣医学系からの移籍教員 2 名）。これらの教員は獣医学科教育を兼務しているが、臨床獣医学系から移籍した専任教員の欠員枠は補充されていない。 他は退職者分の補充程度であり、また若い教員が少ない。
日 大	C	臨床系教員数は確保され、また学生数に適合した教育環境は整備されている。いっぽう基礎系、応用系の教員数については、不十分であり改善が求められる。

②女性教員数は改善されたか？*第 1 次相互評価では女性教員数が極めて少ないことが指摘されている。

大学名	評価	コメント
酪農大	C	前回調査よりも女性教員数は増加したが、10%以下であり、更なる改善が必要と考えられる。
北里大	C	教員採用時には女性教員を積極的に採用する方針ではあるが、十分には改善されていない部分が多い。
日獣大	C	女性教員の数は増えたが、比率は変わらない。女子学生の割合が高いので、今の倍くらいに早急に改善すべき。
麻布大	C	女性教員数は 11 名で過去数年横ばいである。
日 大	C	女性教員は、実習助手を含めると 5 名が配置され、教員全体の 10%以上を占めているが、獣医学教科の教員は 2 名であり、改善が必要である。

③ 教員数と学生数の比率は前回の調査と比較して改善されたか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	多少改善されたが、以前として不十分である。
北里大	B	前回に比較して改善が認められる。さらに、現在公募中の臨床系教員が補充されることでより改善される。
日獣大	B	教員の実数は増えており、比率には改善が認められる
麻布大	C	学生数は特に変化なく、教員数は上記の①の状況である。
日 大	C	従前同様で、改善の途上にある。

II-2 臨床実習教員構成

① 臨床教員の構成は改善されたか？（教員数、専任・兼任、年齢構成、専門分野など）

大学名	評価	コメント
酪農大	C	伴侶動物に係る臨床教員には欠員が生じており、不十分な部分が多い。専門分野毎に欠員の偏りがある。全教員にしめる臨床系教員の比率も以前と変化がない。年齢構成上もより若手教員の増が必要と考えられる。
北里大	B	教員数の増加により専門分野が多岐に亘り、改善された部分が多い。しかし、未だ補充されていない欠員もある。
日獣大	C	年齢構成のアンバランスが未解消。若手の臨床教員の絶対数が不足している。
麻布大	A（臨床系）C（産業動物系）	退職者に対する新規教員採用が円滑に進み、年齢構成および専門分野も考慮された構成になっている（臨床系） 臨床教育には多くの時間が割かれ、教員の負担は大きい。そのため十分な数の教員が必要であるが、満たされていない（生産獣医学系）
日 大	B	臨床系教員の構成に関しては、前回調査時から更に進展し、専任数、専門性についてはある程度、適切な状況に改善された。なお、職位に応じた教員間の年齢構成は、臨床的専門性確保から一概に画一化はできない。産業動物学および動物行動学、エキゾチックアニマル学等の教員補充が望まれる。

②教育目的・目標に沿った臨床実習教育が出来る適切な教員構成（各科目担当の教員数・専任、兼任、年齢構成、専門分野など）になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	伴侶動物に係る臨床教員には欠員が生じており、不十分な部分が多い。専門分野毎に欠員の偏りがある。
北里大	C	臨床系教員に欠員があり充足されていない。また、実習に TA が参加する実習と参加しない実習がある。そのため参加しない実習では、学部専攻生が実習をサポートしている状況であり、補助教員の配置が望まれる。
日獣大	C	内科系教員に比べ外科系教員の数が少ない。
麻布大	B	各科目の担当教員の構成、および年齢や専門分野は総合的な臨床教育を実施するうえで問題ないが、教員数は不十分であり、退職者と新規教員との引き継ぎ期間が短く、臨床教育の継続性を維持するための施策が必要である。
日 大	A	現在のカリキュラムを実施する上では適切な構成にある。新たなコアカリキュラムで要請される、臓器別診療科に伴う教育および実習への対応も可能である。しかし横断的授業（オムニバス形式等）実施に対するカリキュラム再建と運用に関し、方法論的検討を課題とする。

③ 臨床実習担当教員で補充したい分野について（具体的な分野を記載下さい）

大学名	コメント
酪農大	（組織改革に伴い）臨床検査学、画像診断学、伴侶動物内科学に欠員が生じており、早急な補充が必要である。
北里大	歯科
日獣大	小動物の軟部外科、大動物外科一般
麻布大	臨床系では、基本的な臨床基礎実習での内科学・外科学分野の教員補充が必要である。 産業動物系では、患畜の多くが牛であるため、牛の臨床経験が十分である教員の補充が必要である。分野としては内科、繁殖のすべてをカバーできるので、特別ということはない。
日 大	産業動物内科学および外科学、動物行動学、エキゾチックアニマル学などの補充が必要である。

④ 臨床実習の目標を達成するために、臨床系教員の教育担当時間配分は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	伴侶動物医療の臨床実習については多くの教員が共同して実施しているため、担当時間が多い傾向にあり、今後ポリクリなどが本格的に実施されると実習に係る担当時間はさらに増加すると考えられる。生産動物医療の臨床実習についても搬入される症例動物を使用している実習など教員間で負担時間にバラツキが大きく、改善の余地が必要と考えられる。
北里大	C	目標達成のための時間配当は適切である部分が多いが、教員間で担当時間のバラツキがあり、改善すべき部分がある。
日獣大	B	教育担当時間配分は適正である。
麻布大	B（臨床系） C（産業動物系）	診療科によって実習内容が異なるが、教員担当時間は担当教員によって負担内容が異なり適切さに欠く。専門性もあることから負担を一律にできず負担に対する方策が必要とされる（臨床系）。産業動物の臨床教育には多くの時間が割かれる。教員数が十分でないため教員の負担は非常に大きい（産業動物系）。
日大	C	臨床教員は増員されてきているが、教員数の増加に伴い家畜病院における診療の負担は増加した。このため教育ならびに準備に制限が生じている。教育と診療の両立を図る臨床教育計画策定の時期を迎えていて、改善が必要である。

II-3 衛生学実習教員構成

① 教育目的・目標に沿った衛生学実習教育が出来る適切な教員構成(各科目担当の教員数・専任、兼任、年齢構成、専門分野など)になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	当該実習科目においては、人獣共通感染症学、食品衛生学（薬剤耐性菌、食中毒を含む）、家畜衛生学（個体の家畜管理）、ハードヘルス学（家畜群の衛生管理、疾病予防）、環境衛生学および獣医疫学の各専門家が専任であたっている。年齢構成および教員数に関する問題としては、環境衛生学、家畜衛生学およびハードヘルス学で各1名の教員（准教授以下の職階が望まれる）補充が必要である。
北里大	B	獣医衛生学実習には2名の獣医衛生学専任教員が配置されているが、実習はTAと学部専攻生の協力で運営されており、補助教員の配置などが将来的には望まれる。公衆衛生実習においては、3名の専任教員が配置されており、実習はTAと学部専攻生の協力で運営されている。
日獣大	C	衛生学実習教育担当の教員がかなり不足している。実習時には非常勤講師を配置して補っているのが現状である。
麻布大	D（家畜衛生学・伝染病学実習） B（公衆衛生学実習）	「家畜衛生学実習(本学)」は4名、「家畜伝染病学実習」は2名で行っているが、そのうち2名の教授は60歳以上。他の教員も45歳以上と高齢である。つまり、若手教員が極端に不足している。このような状態では5年先の将来も暗いものである。学生の方立場からはお父さん世代よりもお兄さん世代に担当をして貰いたいのが本音のようである。 「獣医公衆衛生学実習」は専任教員4名（内1名は募集中）体制で行っている。単位数に占める教員数、年齢構成等は適切である。しかしながら、獣医公衆衛生学実習の関連する分野は、食品衛生、人獣共通感染症、環境衛生などで実習項目も各分野多岐にわたっており、実習項目すべてをその専門分野の教員で行うことはできていない。
日大	C	実習に必要な若手教員および専任のスタッフが不足している。

② 衛生学実習担当教員で補充したい分野について（具体的な分野を記載下さい）

大学名	コメント
酪農大	上記のとおり、環境衛生学、家畜衛生学およびハードヘルス学で各1名、合計3名の教員補充が必要である。
北里大	実務的な分野の実習については、学外の人材（家畜保健衛生所、畜産試験場食肉衛生検査所など）の協力体制を作ること、より実践的な実習内容が可能となると思われる。
日獣大	疫学分野。人獣共通感染症分野。
麻布大	各大学で実際の実習内容が異なるので、本学の「家畜衛生学実習（狭義）」と「家畜伝染病学実習」では、現行の実習内容に分子生物学的な疾病診断に関する実習の充実と鶏病及び飼料・飼養衛生に関する分野の補充が望まれる。 現在募集中であるが、環境衛生分野における環境分析を専門とする若手の教員が必要である。
日大	食品衛生学、環境衛生学、疫学、野生動物医学分野の教員補充が求められる。

③ 衛生学実習の目標を達成するために、担当教員の教育担当時間配分は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	退職者の補充以外では 2006 年度以降で 3 名の教員が加わり実習を担当しており、改善された部分も多い。一方、まだ教員補充の無い分野では教育担当時間は適切とは言い難い面がある。
北里大	B	本学では実習 1 単位が配当され、3 時間の実習時間で 15 回で計画されており、2 名の教員の教育負担も適切と思われる。
日獣大	C	絶対数の不足のため、個人への教育担当時間は他の科目に比べてかなり過重な状況となっている。
麻布大	C（衛生・伝染病） A（公衆衛生）	いわゆる国公立のように少人数の教育体制でないことは周知の事実である。教員一人当たりの授業時間が多いので、衛生学実習の目標を達成させるために割ける時間数は必然的に不足してしまう。つまり、大いに適切とは言えない。 「獣医公衆衛生学実習(2 単位)」および「環境毒性学実習(2 単位)」の一部で実習が行われており、担当教員の教育担当時間配分は適切である。
日 大	C	教員が不足しているため、担当する全教員の教育時間配分が過剰となっている。

III 教育支援者

III-1 全体

① 教育支援者数や構成（人数や担当職務など）は改善されたか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	教育支援者数は以前とほとんど変化がなく、特に技術職員が不足している。
北里大	B	教育支援者の増員、特に実習などを直接支援する TA が増員されたことなど、改善された部分が多いが、大学院生の在籍者数によって左右される。
日獣大	B	十分な数の教育支援者が配置されているが、配置がアンバランス。
麻布大	B	・ 本学は大学院博士前期課程の学生を TA に採用しているが、獣医学科教育への TA は一部の実習科目に限られている。 ・ 実習用動物の管理等に関しては、動物管理センター所属職員 2 名が担当している。 ・ H21 年度から附属動物病院には特任助教 I 種 4 名が採用されているが、小動物診療以外の獣医学科教育には係わらない。 ・ その他、小動物臨床部門に限るが、動物看護師、薬剤担当獣医師、及び研修獣医師なども、学生の臨床実習を支援している。
日 大	B	ティーチングアシスタントおよび病院の研修医が増員され、以前より改善はされているが、学生数を考慮すると不十分であり、更なる増員が望まれる。

② 教育支援者と学生数の比率は改善されたか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	教育支援者数は以前とほとんど変化がなく、特に技術職員が不足している。
北里大	B	教育支援者の増員により、学生数との比率は、改善された部分が多い。
日獣大	A	数からみた比率は改善されている。
麻布大	C	特に変化なし。
日 大	B	病院の研修医や支援獣医師が増員され、教育支援者と学生の比率は改善されている。しかし、病院を利用した臨床実習以外の学科では TA の人数は不十分である。

III-2 臨床実習教育支援者

① 臨床実習教育が充分出来るような適切な教育支援者数や構成になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	研修医が齊一科目実習や専修科目実習の教育支援に当たっているが、技術系の専任職員はおらず、非常に不十分な状況である。
北里大	C	TA が配置されていない実習においては十分な支援が得られず、教育支援者数を増員する必要がある。
日獣大	B	実習補助として病院助手を 5 名配置している。
麻布大	B(臨床系) C(産業獣医系)	臨床系では、一教員に対する負担が重く、この負担をサポートする教育支援者体制が無い(臨床系)。 産業動物の臨床教育を実施するにあたり、臨床系の研究室に所属する学生に依存する部分が多い。ティーチングアシスタントなどの確保が必要である(産業動物系)
日 大	B	ほぼ適切な構成となっている。外部講師、TA を含む教育支援者の計画的な増員により、臨床実習教育の支援体制人員は員数、構成ともに充実している。しかし近い将来診療科を増加する上で、更なる増員ならびに人員構成の充実を継続的に進めなければならない。

② 病院の支援要員は臨床実習教育に適切に関与しているか。

大学名	評価	コメント
酪農大	C	技術系の支援要員(薬剤師、放射線技師)などは病院業務支援者であり、教育支援にはほとんど担当していない。研修医は適切に関与している部分が多いが、科目によってバラツキが大きい。
北里大	B	病院の支援要員は、病院で実施される臨床実習には適切に関与している部分が多い。
日獣大	C	教員、病院助手との連携が十分ではない。
麻布大	B	診療環境に対する事務、看護師への配慮はなされているが、診察実習中の支援体制がない。臨床実習を行う教員の肉体的・精神的負担は大きい。入院家畜の管理などは適切に遂行している。
日 大	A	適切である。有給研修医の増員に加え、非常勤講師、勤務獣医師の確保により病院を使用したローテーション実習は適切に実施できている。

③ 病院の支援要員が臨床実習に関わっている場合、その教育支援は適切に評価されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	D	教育支援についてはほとんど評価されていない。教育病院として今後体制を整備する事が必要である。
北里大	C	教育支援者に対する授業評価などは実施されておらず、改善すべき点が多い。
日獣大	B	評価システムは整備してあるが、十分に機能していない。専任教員と支援者との役割分担が不明確である。
麻布大	B	臨床実習に関わる支援要員が明確化されていないために、評価ができない。 教員は支援要員の貢献度を高く評価しているが、待遇面に関しては不明である。
日 大	C	改善の余地を残す。臨床教育支援者として、研修獣医師として一定の評価を与えているものの、教育支援に対する評価を個別には行っていない。現状では支援獣医師や研修医にとって臨床実習は業務に含まれていないので臨床実習に携わることを明記する必要がある。また、支援獣医師に対しても臨床実習に携わった場合の手当を考慮すべきである。

III-3 衛生学実習教育支援者

① 衛生学実習教育が充分出来るような適切な教育支援者数や構成になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	衛生学実習教育を担当する教員のうち、定員に満たない員数については大学の予算で学外の講師を招聘出来るが、教育体制として鑑みた場合、そのみでは十分とはいえない。
北里大	C	教員に加え、教育支援者はT A 1 名と学部専攻生がさらにそれをサポートする体制となっていて実習が運営されている。学部専攻生は準備と後片付けなどの補助が主体であり、教育支援ができるT Aの数を増やす必要がある。
日獣大	C	実習用に非常勤講師を確保し、何とかやりくりしている状態であり、十分ではない。
麻布大	C	本学にはティーチングアシスタント制度があるが、その担い手は大学院生である。獣医学専攻の院生が少ないような状況にあり、この制度を活用できる実習科目は限られており、別途実習教育支援者の確保策の検討が必要である。 現状の実習教育体制では、教員への負担は計り知れないものがある。また、支援者は固定できないため、年度毎に支援者の教育に時間を要するため効率的ではなく、充分とはいえない。
日 大	C	ティーチングアシスタント制度の導入により、教育支援者数が改善されているが、専任教員または専任スタッフの増員が不可欠である。

IV 教育課程・教育方法

IV-1 全体

① カリキュラム全体で臨床実習と衛生学実習の時間数や割合は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	カリキュラム全体としてはほぼバランスがとれた時間数や割合となっている。
北里大	C	口蹄疫対策など社会要請を考慮すると衛生学実習は不十分であり、改善されていない部分が多い。
日獣大	B	時間数、割合は適切に設定されている。
麻布大	B	必ずしも十分な時間数とはいえないが、学生を多くの班に分けて細かく指導できるようにするなど、現有教員数でできる限りの努力をしている。
日 大	C	時間数および割合はともに不足し、十分な状況とはいいがたい。学生数を考慮すれば臨床実習を適切に実施できる時間数の不足と実習場所の不足、狭小性および関連諸施設の充実が喫緊の課題のひとつである。また衛生学実習では、実習項目や時間数、割合とも不足しているため改善が必要である。

IV-2 臨床実習

IV-2-1 臨床実習

① 臨床実習の各科目の達成目標が適切に設定されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	それぞれの実習について達成目標がシラバスに記載されており、概ね適切に設定されている。
北里大	B	各科目の到達目標はシラバスに記載されており、適切な部分が多い。
日獣大	B	達成目標は適切に設定されている。
麻布大	A	本学では卒業後の進路として臨床獣医師を目指す学生が多く、必要とされる基本的知識や技術の習得を目標としているため、臨床実習に際して、基本的実習内容を設けることで、達成目標を明らかにしている。そのため、おおよその臨床実習は段階的に行われるカリキュラムを採用している。
日 大	B	ほぼ適切であるも、大動物臨床に関する内容と担当教員の充実が必要である。

② 臨床実習の目標を達成するために、科目および単位の編成は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	実習科目と単位は適切に編成されている。
北里大	B	目標を達成させるために、内科や外科などの縦割りの実習だけでなく、横断的な臓器別の実習を行うように科目や単位が構成されており、適切な部分が多い。
日獣大	B	科目、単位は適切に編成されている。
麻布大	B	おおかたの科目および単位の編成は適切と判断できるが、病院実習に関して実習時期の履修者に適切さを欠く場合もある。
日 大	B	ほぼ適切であるが、学生数を考慮すると、担当教員数や設備、施設のさらなる改善が求められる。

③ 臨床実習の目標を達成するための実習内容になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	概ね適切な実習内容になっている。
北里大	B	小動物と大動物のバランスを考慮し、さらに横断的な臓器別の実習などを取り入れたことで、目標達成のための実習内容になっている部分が多い。
日獣大	B	実習内容は目標を達成するために必要な内容、項目が設定されている。
麻布大	A	おおかた目標は達成している。
日 大	B	現時点では、現状における最善を尽くし、概ね対応している。

④ 講義と実習は適切に開講づけられているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	概ね適切に関連付けられている
北里大	B	講義と実習は、関連するように開講されているが、講義の進行度合いと必ずしも実習内容とが歩調の合わない箇所もある。
日獣大	A	基本コンセプトとして、講義の後、実習を実施するカリキュラムとなっている。
麻布大	A	実習前に先行して講義が行われ、おおかた適切に開講している。
日 大	B	ほぼ適切に開講づけられている。今後は臨床実習をより早期もしくは低学年より開始し、参加型実習の実施と拡充をする意見もある。

⑤ 臨床実習のための予算・施設・設備は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	実習室、設備などは概ね整備されているが、動物病院と獣医学科の実習室が離れているため教員、学生の移動などに若干の問題がある。貴重な症例について学用患者として受け入れる経費は設定されておらず、生産動物については所有者からの委託（寄付、所有者変更）などで受け入れている。
北里大	B	平成 20 年に小動物診療センター、平成 21 年に臨床教育・研究支援小動物飼育施設が完成し、施設・整備の充実は図られたが、学部からの動物購入・飼育管理のための予算では不十分であり、不足分は関連する研究室が補充している状況である。
日獣大	A	実習のための病院施設が手狭である（学生実習のためのスペースが特に確保されているわけではない）。 実習を実施するための予算、設備は十分に配分、整備されている。
麻布大	B	個々の学生にできるだけ体験させる実習に心がけているため、器具、機器の摩耗が顕著で、永続的な予算化が必要である。
日 大	C	予算、施設、設備のさらなる充実が必要である。

⑥ 臨床実習の実施単位、人数、班編成は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	概ね適切な実施単位であるが、斉一実習について更なる少人数編成に改善することが必要である。
北里大	C	小動物病院実習での小グループ（2～3 名）によるローテーション以外は、施設・設備および実習動物との関係で 1 班 10～20 名編成である。そのため、実習時間を十分に取るなどの配慮をしているが、教育目標を達成させるためには改善すべき部分が多い。
日獣大	C	1 班 10 人程度の班編成となり、やや多い。将来的には 5～7 人編成にしたい。
麻布大	B	実施単位について、おおかた適切であるが、積雪な教員支援者がいないために、多人数の班編成になりやすい。
日 大	B	ほぼ適切である。しかし学生アンケートでは、1 班ごとの学生数を減らした実習の要望が多い。したがって、実習での 1 グループの学生数をさらに少なくし、担当教員数の増加を考慮しきめ細かな実習を心がける必要がある。

⑦ 臨床実習のために使用する動物の種類・数は教育目標を達成するために適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	生産動物についてはほぼ適切な症例ならびに使用動物が確保されている。 伴侶動物については症例以外の実習動物は自家繁殖しているが、生体以外の手法などを今後より多く使用していくことが必要と思われる。
北里大	C	実習に使用できる動物種や頭数は限られており、教育目標を達成させるためには、改善する部分が多い。
日獣大	B	100%満足できる数ではないが、実習の教育目標達成には十分と考える。
麻布大	A	最小限で、最大の教育目標を達成するように配慮している。
日大	C	現在、臨床実習に使用可能な動物の種類・数には制約が有り、臨床教育実施に必ずしも十分でない状況であり、改善が必要である。

⑧ 臨床実習で使用する動物についての動物福祉・獣医倫理的教育は適切に行われているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	実習動物について動物福祉・獣医倫理的教育は概ね適切に実施されている。生産動物の症例については病理的な診断の際により一層の説明が今後求められると思われる。
北里大	B	獣医倫理学・動物福祉学および実験動物学において、適切な教育を実施している。
日獣大	B	初年度から多くの講義（獣医学概論、獣医倫理学など）の中で繰り返し行われており、動物福祉、倫理教育は適切に行われている。
麻布大	A	最大限の配慮に努めている。
日大	B	ほぼ適切に行っている。本学では同上科目を、一年次後期に配置し哲学者、医師、獣医師、臨床系教員による生命倫理・動物福祉の徹底的な初期概念形成を積極的に行っている。また臨床実習全般を通じ、動物倫理教育を行っている。動物に触れない臨床実習は教育効果がなく、かえって動物倫理を深く考える機会も失う。さらに改善の余地はあると思われるが、現時点では適切に実施されていると評価される。

⑨ 学外での臨床実習は適切に実施され、評価されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	単位認定は実習先の責任者からの成績評価票と学生からのレポートから評価され、適切に評価されている。
北里大	B	学外実習として実施されている臨床実習（主に見学実習）では、学生からレポートを提出させ、依頼先からも評価をもらっている。
日獣大	B	担当教員と学外講師との間で密接に関連が取れており、適切である。
麻布大		小動物では学外実習をしていない。
日 大	B	ほぼ適切に実施、評価している。小動物に関しては学外の個人動物病院において、産業動物に関しては主として NOSAI の夏期臨床実習生受入れ可能家畜診療所において学外実習を行い、実習機関での実習内容をレポートし、学内発表会での発表を評価している。

⑩ 学外での臨床実習が実施されている場合、その支援体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	NOSAI や都道府県などでの実習については事務部が窓口となり、スムーズに支援されている。また、個々の教員からの募集連絡も問題なく行なわれている。伴侶動物病院における実習は原則的には学生個々が実習先を探す事にしており、特別の支援体制はとっていない。
北里大	C	学外実習先を探す際などの補助を行う支援組織はあるが、全てを網羅しているわけではなく、適切な対応を検討する必要がある。
日獣大	B	100%ではないが、これまで大きな問題はなく適切な支援体制といえる。
麻布大		小動物では学外実習をしていない。
日 大	C	各実習受け入れ先に教員は同行せず、付託しているのが現状であり、支援体制および教育指導の強化が求められる。

⑪ 海外での臨床実習が実施されている場合、内容や成果について適切に評価されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	実習内容については同行教員が確認・支援を行っており、帰国後、発表会またはレポート提出などを実施しており、適切に評価されている。
北里大	B	実習内容の報告書の作成および発表会を実施している。また、実習には教員が同行することで、学生が行った実習内容を観察しており、その成果や内容を適切に評価している。
日獣大	C	参加した学生のレポート報告のみで教員は実習内容を知る。引率教員の实習内容に関する報告を学科で詳細に討論する機会はありません、従来のカリキュラムを踏襲するにとどまり、マンネリ化しているきらいがある。内容・成果が十分に評価されているとは言えない。
麻布大		海外での臨床実習を認めていない。
日大	A	適切に行っている。夏期休暇中、4～6年生の希望者を対象に、アメリカ・ワシントン州立大学で約2週間の臨床実習を実施している。20～40名の参加学生は小動物コース、大動物コースに分かれ、内科学、外科学、臨床繁殖学、麻酔学、画像診断学、エキゾチックアニマル学などで、1～2時間の講義を受けた後、2～3時間のウェットラボを行っている。参加した学生は実習後に各実習内容に対しレポートによる評価を受けている。

⑫ 海外での臨床実習が実施されている場合、その支援体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	OSU ならびにハノーバー獣医科大学における臨床実習は学部で希望者の選考を行い、日程調整を先方とを行い、教員が同行して実習を支援している。事務手続きについては事務部が支援しているが、必ずしも十分とはいえない。
北里大	B	米国3大学の夏期研修では、1年前から英会話を必修とし、教員が研修の支援を行っている。中国の吉林大学で中獣医の講義と実習を受講しており、教員がその実習を支援している。
日獣大	C	引率教員の旅費の負担を行っているが、相手先が用意する実習内容をそのまま受けている状態で、こちらで希望する内容を実習に取り入れてもらうことはあまりない。新たな実習内容を加えるためには経済的負担が増えることになるので、その面で支援が十分とは言えない。
麻布大		海外での臨床実習を認めていない。
日大	A	海外での臨床実習には教員が引率し、コースごとに講義の通訳ならびにウェットラボの通訳や内容捕捉を行い、学生の理解・習熟度に合わせた支援を行っている。また実習終了時には現地で英語での試験が行われ、ワシントン州立大学との単位互換制度により、合格した学生は日本大学における演習の単位が取得できる。

IV—2—2 臨床実習教育における動物病院の位置づけ

① 臨床実習教育環境として、動物病院は整備され、かつ有効に活用されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	施設・設備面ではほぼ適切に整備されている。症例を使用する環境もほぼ適切である。専修教育の場としても動物病院としては学生専用のセミナー室などの面積がス即している。
北里大	A	動物病院でのローテーション実習に合わせて、動物病院の新築を行い十分な広さと設備を充実させることができ、大いに活用されている。
日獣大	C	学生数に比して病院面積が狭い。実習施設は一通り整備されているが、新規の機器について学生各自が自由に使える数は整っているわけではない。この点が十分ではない。
麻布大	A	適切に活用されている。
日 大	B	ほぼ適切である。教育動物病院の診療室は 12 室、診療科は 6 つの臨床系研究室を主体とした 6 診療科で、学生はローテーションすることで様々な症例に接することができる。また高度獣医療を推進するための各種機器も整備されていて、各診療科ごとのカンファレンスルームも複数整備されている。しかし、学生一人当たりの面積は少ないため更なる拡充が必要である。

② 学用患者は臨床実習に適切に活用されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	学用患者という扱いではないが、症例は臨床実習の対象として活用されている。
北里大	B	大動物関連の実習においては、十分な学用患者数が確保されており有効活用されている。しかし、小動物の学用患者数は少なく、十分に活用されているとは言い難い。
日獣大	C	見学実習のみで活用。十分に活用されているとは言えない。
麻布大	A	適切に活用されている。
日 大	C	学用患者の数が制限されていて、臨床実習としての活用は不十分である。

③ 現在、参加型臨床実習が実施されている場合、その内容、教員の指導体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	専修教育として農場の動物や教員の往診随行、動物病院症例における実習参加についてはある程度教員の指導体制が確立している。斉一教育としての実習については大学としての指針や指導体制について現在検討を進めている。
北里大	D	実施されておらず、現在ガイドライン作成の検討中である。
日獣大	D	現在、参加型実習はほとんど行っていない。内容は検討中で新しいカリキュラムに組み入れる予定。したがって現時点では評価できない。
麻布大	B	おおかた指導体制は適切である。しかし診療科によっては適切な実習教育要員の手立てが必要である。
日 大	B	実施していない。参加型実習を見据えて、現在のローテーション実習は行われているが、現行の体制では教員数の不足があり改善すべき点が多い。

④ 参加型臨床実習が実施されている場合、管理体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	専修教育では教員が少人数の学生を十分に管理する体制となっている。斉一教育については管理体制は現在検討中である。
北里大	D	実施されておらず、現在ガイドライン作成の検討中である。
日獣大	D	ほとんど行っておらず、評価できない。
麻布大	A	診療科により適切な実習教員要員が必要であるが、おおかた系会議はもとより、病院内小動物部門会議ならびに病院運営会議の議を経て、適切な管理体制が得られている。
日 大	A	現在の実習は見学型実習であるため学生の事故等に関する問題は生じていない。ただし、保定等の際に事故が生じないように細心の注意は払っている。

IV-3 衛生学実習

① 衛生学実習の各科目の達成目標が適切に設定されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	適切であり、シラバスに明記し、学生に周知している。
北里大	B	本学には予防衛生系科目が、感染症学、人獣共通感染症学、公衆衛生学、疫学、魚病学、獣医関連法規、寄生虫学、微生物学などが開講され、実習も同時に実施されており、獣医衛生学実習はこれらの実習との棲み分けもされている。
日獣大	A	公衆衛生学、衛生学ともに達成目標は適切に設定されている。
麻布大	A(衛生学・伝染病学実習) B(公衆衛生学実習)	既述のように本学では、「家畜衛生学実習(広義)」は「家畜衛生学実習」と「家畜伝染病学実習」の2科目で構成されている。それぞれが、疾病診断、防疫、疫学的なアプローチ技能などの内容で実習スケジュールが設定されている。 「獣医公衆衛生学実習」は幅広い分野を十分にカバーできていないものの、毎年作成されるシラバスで達成目標を掲げており、できる範囲で達成目標はおおむね適切に設定されている。
日大	A	各科目ともシラバスに達成目標が設定されている。

② 衛生学実習の目標を達成するために、科目および単位が適切に編成されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	適切である。
北里大	B	科目内容と単位数は適切に編成されているが、配当学年が4年生であることについては、さらに検討が必要かも知れない。
日獣大	A	目標達成のため、科目、単位は適切に編成されている。
麻布大	A(衛生学・伝染病学実習) B(公衆衛生学実習)	「家畜伝染病学実習」は4年次1単位必修および「家畜衛生学実習」は4年次1単位必修で編成されている。前者は伝染病の診断のための技術、現場での対応できる実践技術の習得を、また、後者は家畜の生産性を向上させるための家畜環境・畜舎環境の測定法とコントロールの考え方および実践的な疾病予防の技術や考え方を習得を目標とした内容で編成されている。 獣医公衆衛生学実習には非常に幅広い分野の多岐にわたる項目があり、目標を達成するための科目および単位が不足しているところもある。
日大	B	Ⅱ-3②で提示した分野を除いて、科目および単位は概ね適切に編成されている。

③ 衛生学実習の目標を達成するための実習内容になっているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	シラバス作成の際に最も留意している点であり、実習目標を達成するための授業内容になっている。
北里大	B	予防衛生系の他の実習科目との整合性も取りながら、棲み分け的な内容と衛生学独自の内容で構成されているが、より実践的な演習項目についてはさらに検討が必要と考えている。
日獣大	B	目標達成のためには十分な実習内容となっているが、一部不足。
麻布大	A(家畜衛生学・電家畜伝染病学実習) B(公衆衛生学実習)	「家畜伝染病学実習」は牛、豚、鶏の感染症の診断、狂犬病の診断、感染症の病理検査法から構成されている。一方、「家畜衛生学実習」は気候と空気の検査、上水道の仕組みと飲料水の検査、畜産環境の保全と検査、土壌の性質と検査、消毒と疾病予防、疫学を考えた統計手法、搾乳管理および学外の施設見学から構成されている。 「家畜公衆衛生学実習」は、シラバスに掲げた目標を概ね達成するための実習内容となっているものの、実習時間（単位数）とその専門分野の教員の不足のため多岐にわたる項目をすべてカバーできる内容とはなっておらず、適宜改善が必要である。
日 大	B	各科目における目標達成に必要な実習内容となっている。

④ 講義と実習は適切に関連づけられているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	講義と実習は概ね開講時期が連続する、あるいは同時期となるよう、設定している。
北里大	B	獣医衛生学実習の目的達成のために、獣医衛生学は前期 1 単位、後期 1 単位が配当され、講義内容と実習が出来る限りマッチする形で組まれているが、実習は前期で終了するので、限界はある。
日獣大	B	基本は講義後、実習が行われるカリキュラムで、関連付けは十分できている。
麻布大	B	講義担当教員と実習担当教員は重複することが多く、講義で不足する部分を実習で、実習で不足する部分を講義でと言った状態での相互補完も可能である。実習項目は関連分野の講義が終了した後に行うようにしているが、公衆衛生学実習は講義および実習は同一学年（4 年）で開講されているため、最初に行う実習項目には、講義の前に行っているものもある。学年配当を変える等の工夫が必要である。
日 大	A	すべての実習は、必須科目であり、各科目の講義と実習がセットで組みられ、しかも講義終了後に実習が開講され、適切に連携されている。

⑤ 衛生学実習のための施設・設備は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	今年度より、従前の 3 実習室のほかに、新たに火炎滅菌による無菌的操作を実施可能な実習室を 1 室加えた。
北里大	C	実習内容によっては、微生物系の P2 実習室も必要であり、実験台の配置数などの施設設備の面では、今後検討を要する。
日獣大	B	施設、設備は実習の実施には十分である。一部の機器（シーケンサなどの遺伝子解析のための先端機器など）の数が不十分である。
麻布大	C	「家畜伝染病学実習」と「家畜衛生学実習」の実習室は同一で、担当教員が所属する研究室と同じ建物（獣医学部棟）内であることから施設設備等の共用、有効活用ができる。実習室は整備されており、部屋の空調、実験台の配置、オーディオ設備など実習施設としては充分で自慢出来るものがある。しかし一般社会等で使用されている進歩著しい高度な機器分析等の実習を行うための設備は不十分である。
日 大	D	衛生学分野の実習では、他の学科目の実習室と共用している。特に病原微生物を安全に取り扱う実習室が未整備のため、学生に適切ナリスク管理が十分確保されていないので、早急な対応が必要である。

⑥ 衛生学実習の実施単位、人数、班編成は適切か。

大学名	評価	コメント
酪農大	C	科目によるが、現在の 1 班あたり 7～8 名構成から 4～5 名構成に出来るように、1 学年の学生数に対する設備等との関連から実現は極めて困難である。
北里大	C	学生の班編成が 10 名単位と、数が多いので、実験台などの整備を行い、8 名或いは 6 名単位の班構成となるようにできればと考えている。
日獣大	C	もう少し少ない人数の班編成にしたい。
麻布大	A(家畜衛生学・家畜伝染病学実習・) B(公衆衛生学実習)	「家畜伝染病学実習」および「家畜衛生学実習」とも単位数は 1 単位で、両実習ともに時間割では 14:00～16:50 となっているものの、実際は 18:00 かそれ以降に延びる場合も多々ある。1 学年 160 名程度を半分にし、教員は同じ内容の実習を 2 回実施している。少人数の参加型実習を行っているので、班編成は 80 名を 16 班に分割しているので、少数(4～5 名)で各班を編成している。このため担当教員にとってはかなり過重労働な部分もあり、教育効果の面からも実習補助者配置が切に望まれる。 「家畜公衆衛生学実習」では、実施単位、人数、班編成については、学生数と担当教員数との関連で多いため、今後は実施方法等について改善する余地がある。
日 大	C	各衛生学関連実習科目については、1 班あたりの学生数は 6 名程度であり、前半および後半（各 70 名程度）に分けて実施している。現在のカリキュラムおよび担当教員の配置体制では、この方法を取らざるを得ず、全体的なカリキュラムの見直しが必要である。

⑦ 学外での衛生学実習は適切に実施され、評価されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	家畜衛生、公衆衛生およびそれら関連研究施設を利用した北海道庁主催の「保健所研修」を行っており、参加学生的好评を博している。受け入れ機関も人員確保の一環として期待している。
北里大	D	学外での衛生実習は、家畜保健衛生所等で学外実習を行う学生のみであり、適切に実施されているとは言えない。人数的な問題があり、学外での実習が困難となっているが、昨年、青森県が大学の実習にもサポートする体制を整えてくれており、バスを利用した見学実習を企画したが、今年度は口蹄疫の発生により中止となった。
日獣大	C	レポートのみの報告で、内容の評価が十分とは言えない。
麻布大	A	学外での実習、つまり見学が主なものであるが、2回実施している。1回は全日実習で食肉センター、畜産研究所、飲料工場、公共下水終末処理施設へ、あとの1回は半日で清掃工場、浄水場も見学を実施している。他に、近隣の河川に出掛け、環境調査と採水を行い、汚水の検査を行っている。 学生に現場を見学させることで高学年での専門学外実習先の選択の参考にさせている。また、将来の就職先の可能性もあり仕事内容を把握させる機会の一部として評価されている。
日大	B	現在、獣医衛生学実習では「動物検疫所」、獣医公衆衛生実習では「食肉衛生検査所」および「動物愛護センター」における学外実習が実施されている。実習後はレポートあるいは試験によって学習効果が評価されている。

⑧ 学外での衛生学実習が実施されている場合、その支援体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	家畜衛生、公衆衛生およびそれら関連研究施設を利用した北海道庁主催の「保健所研修」を行っており、学生受け入れ機関の対応も良好である。
北里大	D	青森県の支援により、現在、学外での実習体制を整えつつある。
日獣大	C	経費（主に交通費）は学生負担で、支援が十分とはいえない。
麻布大	A(衛生学・伝染病学) B(公衆衛生学実習)	全日の実習では他の科目担当者に依頼して、時間割調整をお願いしているが、全ての教員が快く対応してくれている。各施設への公文の手配は事務担当者が、見学に要する費用(バス代)はすべて実習費で賄っている。 見学に要する貸し切りバス代等は、大学側から実習経費とは別途に支援があり、経費の面での支援体制は適切である（公衆衛生学実習）。」
日大	B	現在、衛生学関連の学外実習は、公的機関で実施されているため、先方の無償支援・協力に依存している。班編制人数が少なければより充実した実習が可能であるが、現実的には見学実習にとどまっている。

⑨ 海外での衛生学実習が実施されている場合、内容や成果について適切に評価されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	なし	以前、東フィリピン大学で熱帯獣医学についての海外実習を実施していたが、現在は中断しており実施されていない。
北里大	D	米国 3 大学の夏期研修で大動物診療での農家の巡回などで、少人数の学生が海外での予防衛生実習を経験しているのみであり、内容や成果について評価をする以前の段階である。
日獣大	C	十分とは言えない。
麻布大		該当なし
日 大		実施されていない

⑩ 海外での衛生学実習が実施されている場合、その支援体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	なし	特になし
北里大	D	海外で衛生学実習を実施することを考えた場合、特に、隣国の韓国などの口蹄疫、鳥インフルエンザなどの海外悪性伝染病対策として、机上訓練などが可能かもしれないが、現時点は、国際交流の交渉段階である。
日獣大	C	引率教員の交通費のみの支援で、十分とは言えない。
麻布大		該当なし
日 大		実施されていない

IV-4 教育方法

IV-4-1 臨床実習

① 臨床実習の教育方針・目的は実習内容・教育方法（少人数教育、実践教育など）に適切に反映されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	方針・目的は実習内容に反映されており、実践教育についてもほぼ適切に実施されているが、教員数ならびに研修医など教育支援体制について調整が不十分で、教員負担が大きくなっている。
北里大	C	教育方針・目的は、実習内容には反映されているが、少人数教育や実践教育など教育方法には十分に反映されておらず、改善への取り組みを検討する必要がある。
日獣大	C	方針・目的はしっかり設定されているが、施設面（スペースが狭い）で適切に反映できていない
麻布大	B	教員の負担増で、小人数、実践教育に向けた教育方針を立てている。
日 大	B	各科目の十分な修得には、更なる少人数教育が可能なように教員数、支援者数および設備を改善が不可欠である。

② シラバスが作成され、適切に活用されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	シラバスは実習科目ごとに作成され、適切に活用されている。
北里大	B	シラバスは実習毎に作成されており、概ねシラバスに準じて実習が実施されている。
日獣大	B	シラバスは立派なものができるが、科目によっては活用が十分ではない。
麻布大	B	生体実習のために予期しないスケジュールの変更があるが、おおかた適切な活用がなされている。
日 大	A	シラバスは毎年検証、確認し、実情に沿った形で更新したものを学生に配布していて、適切に活用されている。

③ 臨床実習の方法が適切に工夫されているか？（例：ケーススタディ、ディベート、フィールドワークなど）

大学名	評価	コメント
酪農大	B	症例を使用した臨床実習とフィールドワーク（教員への往診随行）など実施方法については適切に工夫されている。斉一教育については学生と教員+教育支援者数の比率が大きいため工夫はなされているが、十分な状態とはいえない。
北里大	C	ケーススタディやフィールドワークを取り入れている実習もあるが、学生数などの関係で全ての実習でケーススタディ、フィールドワーク、ディベートを取り入れるのは難しい状況である。
日獣大	C	形は整いつつあるが、十分でない。工夫の余地あり。
麻布大	A	各担当教員は自分の症例を供して実習を行っているため、適切に運用されている。
日 大	B	診療時間外を利用してケーススタディーを行っているため、時間に制限があり、教員を増員し改善する必要がある。

④ 臨床実習の達成度評価、成績評価は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	科目ごとに達成度の基準は異なるが、レポートと定期試験で成績評価はほぼ適切に実施されている。
北里大	B	実習毎に実習内容に関するレポートの提出を行い、学期末には試験を実施して出席状況などと合わせて適切な評価を行っている。
日獣大	B	理想とは若干異なるが、現状では適切になされていると考える。
麻布大	B	細部にわたる評価は個々の担当教員に委ねている。
日 大	B	現時点では、現行の評価法が適切である。

⑤ 臨床実習のためのFD等の取り組みは適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	全学部的なFDの取り組みの一環として実施され、臨床実習のためには行っていないが、ほぼ適切に実施されている。
北里大	C	科目により臨床系教員全員による打ち合わせを行い、実習内容の確認や実施方法の理解を深めているが、臨床実習のためのFDは行っておらず今後の課題である。
日獣大	C	教員評価システムの整備など進めているが、FDは現状では十分でない。
麻布大	B	今後の問題である。
日 大	B	臨床実習に限定したFDは行われていないが、実習目的が明確であり、それを教員間で共有しているので、概ね適切である。FDという形態で実施する必要も考えられる。

⑥ 参加型臨床実習の実施体制は適切に整備されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	C	実習内容ごとに現在では実施体制がかなり異なっており、現在検討中のことも含めてこれから整備予定である。
北里大	C	現在、ガイドライン作成の検討中であり、実施体制は十分に整備されていない。
日獣大	C	新校舎の建設も含めて計画は立てているが、現状では十分でない。
麻布大	A	系会議はもとより、病院内小動物部門会議ならびに病院運営会議の議を経て、適切な管理体制が得られている。
日 大	C	参加型実習の体制は現在検討中であり、内容を本学に適したものとし、ガイドラインを含めて討議する必要がある。設備や施設の拡充と教員の増加が必要である。

IV-4-2 衛生学実習

① 衛生学実習の教育方針・目的は実習内容・教育方法（少人数教育、実践教育など）に適切に反映されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	学生あたりの教員数の不足の問題がある。さらには、国家試験以外では活用されない実習項目を削除できず、卒業後の実践的知識導入の時間が若干、不足ぎみである。
北里大	C	教育方針と目的は実習内容には反映されているが、教育方法としての少人数教育と実践教育は十分とは言えない。
日獣大	C	実習スペースの狭さなどハード面から適切に反映されているとは言えない。
麻布大	A（衛生学・伝染病学実習） B（公衆衛生学実習）	学生全員の参加型実習を基本とした少人数の班編成により実施しているので、学生全てに実践教育(実習)が可能である。このことから学生は、授業内容のすべてにおいて実際に体得することなどから、充実感のある実習教育に繋がるものと思われる。 「家畜公衆衛生学実習」では、実習内容や教育方法については他大学からの情報や学生の授業評価等を受け、各教員が工夫を重ねながら行っている。現在のところ教育方針・目的はおおむね反映されているが、少人数教育、実践教育などは行っていないため、今後の課題である。
日大	B	衛生学実習の少人数教育は行われていないが、教育方針・目的はそれぞれの科目実施前のガイダンスにおいて周知するとともに、実践教育において適切に反映されている。少人数教育については、4年次から所属する研究室において所属教員から適切に指導されている。

② シラバスが作成され、適切に活用されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	各科目のシラバスが公開されており、実施内容・評価基準が明確に示されている。
北里大	B	シラバスは作成されており、それに従って適切に実施されているので、十分に活用されている。
日獣大	A	シラバスは良くできており、活用も十分になされている。
麻布大	A	毎年、各担当教員がシラバスを作成し学生・教員に配布している。実習はそれに従って行っていることからおおむね活用されている。また、実習項目や実施日時を実習期間中は実習室に掲示しており、学生への周知を徹底している。
日大	A	毎年の見直し、改善・確認が行われて適切に活用されている。

③ 衛生学実習の方法が適切に工夫されているか？（例：ケーススタディ、ディベート、フィールドワークなど）

大学名	評価	コメント
酪農大	A	ディベート形式は取り入れていないが、ケーススタディー、フィールド調査など、目的に応じたスタイルを取りれた実習を行っている。
北里大	C	学生数と班構成の問題でもあるが、特にケーススタディ、ディベート、フィールドワークについては、実施が難しい問題を抱えている。しかし、ベンチワークについては、各自が実習に参加するような内容となっており、他の学生の手技を見学して終わりという形にはならないように特に注意を払っている。
日獣大	B	実習内容の報告会など実施し、内容の理解が高まるよう工夫している。
麻布大	A（衛生学・伝染病学実習） C（公衆衛生学実習）	「家畜衛生学実習」において、「汚水の検査」の実習では、学外へ出掛け、近辺の環境調査、河川の水採取を行っている。実習室だけでは体験不能な部分と思われる。「空気の検査」では、学内の動物飼育エリアなどの個々の班が出向き、サンプリングや分析を行なっている。このようなフィールドワーク形式の実習も可能な限り実践に即した形式で実施している。 「家畜公衆衛生学実習」では、ケーススタディを実習の一部で行っているのみであるため、今後の検討課題である。
日大	B	ケーススタディ、ディベート、フィールドワークなどは、5年次に開講されている必修の演習科目で、国及び、地方自治体のインターンシップ、農業共済組合診療所での産業動物臨床実習などを活用している。希望者は1～2週間程度実習が可能である。

④ 衛生学実習の達成度評価、成績評価は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	概ね適切である。
北里大	B	学生の衛生学実習に対する達成度と成績評価は適切に実施されている。毎回の実習にはレポート課題があり、レポートでの内容の理解とその分析、最後に試験も実施し、その二つで出席を前提として成績評価を実施している。
日獣大	B	ペーパー試験だけでなく、実地試験など課しており適切に判断出来ている
麻布大	A	毎回の実習終了時のチェックに、各班に簡単な質問を与え、回答させるようにしている。また、実習内容については個々にレポートの成・提出により達成度の把握を行っている。成績評価は出席状況、レポート提出および実習内容の理解度・習得の程度を把握するためのペーパー試験を実施し、総合的に判定している。また、成績評価とともに前・後期の実習最終日に学生から授業評価を受けており、その内容から学生の実習目的への理解度なども参考に達成度評価を行っている
日大	A	実習実施後は、レポート提出、確認試験の実施により、適切に成績評価がなされている。

⑤ 衛生学実習のためのFD等の取り組みは適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	科目終了時に学生に対して授業評価のアンケートを行い、改善に取り組んでいる。
北里大	C	学外の関係機関との協議を含め、教員が実践の場から学ぶことが多い。しかし、十分に交流を図っておるとは言えず、今後の課題である。
日獣大	B	臨床実習と組み合わせるなどカリキュラムを工夫し、理解度を高めている
麻布大	A(衛生学・伝染病学実習) C(公衆衛生)	実習内容を向上させるために、新しいビデオ教材や情報の収集に努めている。また、必要に応じて学外での講演会などの情報も学生に紹介するようにしている。 大学全体ではFDに取り組んでいるが、公衆衛生学実習のためのFD等の取り組みは行っていない。
日大	D	獣医学教育全般に関するFD活動は開始されたが、衛生学実習のための特別のFD活動は実施されていない。

V 学生への実習支援体制について

① 学生への実習支援体制は適切か？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	実習実施のための学生のロッカーなど設備などは概ね適切である。人的支援体制については不十分なところが多い。
北里大	C	学外実習に対する支援組織はあるが、その他の実習に対する実習支援体制は適切に整備されていない。
日獣大	B	施設・設備も充実、非常勤講師配置など現状ではかなりの支援を行っている
麻布大	A	更衣室、ロッカー、長靴置き場、シャワー室等が設置されており、学生の支度を整える設備については、比較的整った環境にある。 ・実習用機器については、整備委員会を設け、平成 22 年度から計画的に整備を進めている。 ・また、一部の科目では、実習内容の実技ビデオを学生に事前貸し出しするなどの工夫もなされている。
日 大	B	ほぼ適切である。TA を積極的に活用し、実習効果を上げているが、学生数に応じてさらに増員させることが望ましい。また、教員数の増加を考慮する必要がある。

② 実習に対する学生からの意見などをくみ上げるシステムは適切に運用されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	B	全ての実習について、学生による授業評価が実施されており、個々の実習についての学生の要望を聞くシステムが運用されている。学生からの要望については対応を説明している。
北里大	B	全ての実習に対して、学生による授業評価が実施されており、教育の改善に利用されている。
日獣大	B	各科目について学生評価アンケート（講義内容、教授法など）を取り、評価内容を次年度以降の講義、実習に生かすようにしている
麻布大	B	学生による授業評価制度があり、実習についても前年度の評価に基づいて内容を改善するよう努力している。
日 大	B	ほぼ適切に運用している。実習終了後に学生アンケートを実施し、それを教員がチェックすることで次年度の改善につなげている。ただし、このアンケートは、学生の無記名で実施されている。

VI 実習における連携などについて

① 実習について、他大学との単位互換は実施されているか？ 実施されている場合には評価などは適切に行われているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	なし	大学としては海外、国内大学との単位互換規定があるが、獣医学科では実施されていない。
北里大	B	国内の実習における単位互換は実施されておらず、今後の検討課題である。米国3大学とは、単位互換による実習を実施している。
日獣大	D	実習については他大学との単位互換は行っていないので、評価できない。
麻布大		実習の単位互換は行っていない。学内で必要最低限の実習を行うよう努力しているため、A～Dの評価は行わない。
日大		実施されていない

② 他機関の施設を利用した実習は実施されているか？実施されている場合には適切な相互協定などが締結されているか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	家畜衛生、公衆衛生およびそれら関連研究施設を利用した北海道庁主催の「保健所研修」を行っており、大学との相互関係も良好である。
北里大	C	米国3大学および中国吉大学での夏期研修での学外実習は、学部間の交流協定に基づき実施されている。しかし、国内の他機関の施設を利用した見学実習などでは、相互協定などは締結されていない。
日獣大	A	海外の協定校との間では正式な協定を結んでいる。
麻布大	B	3年次牧場実習および5年次専門学外実習を他機関の協力を得て実施している。特に外部機関との相互協定は結んでいないが、過去の実績等からできる限り適切な施設を選ぶようにしており、受け入れ先には実習受け入れの依頼文書を発行している。
日大	B	IV-3の⑦で挙げた学外実習の一部として実施されている学外見学実習があるが、特別な相互協定は締結していない。

③ 地域社会と協力した実習は実施されているか？実施されている場合には問題点なども含めて記載下さい。

大学名	コメント
酪農大	現在は実施されていないが、一部検討されている。
北里大	地域社会と協力した実習は実施されておらず、今後の検討課題である。
日獣大	今後、こうした取り組みを行う予定はあるが、現状では行っていない。地域との協力では、ボランティアだけに頼る訳にもいかず、新たな経済的な負担をどうするか最も大きな問題であり、大学当局にお願いすると同時に、自治体からの寄付講座などで対応できないか検討中。
麻布大	特に実施していない。
日 大	実施されていない

④ 実習について大学に倫理に関する規定はあるか？

大学名	評価	コメント
酪農大	A	実習事態に関する規定ではないが、実験に関する Bioethics について学内の規定がある。また、安楽殺処分に関する学内規定がある。尚、当該実習科目では動物を含め殺処分等の倫理規定に抵触する内容を含まない。
北里大	B	動物を用いた実習を実施する際には、事前に動物実験・倫理委員会に申請書を提出し、許可を受ける必要がある。
日獣大	B	動物実験に関する倫理規定はあるが、個々の実習内容は教員に任せているのが現状。患者を用いる実習（参加型実習）を始めるに当たり、新たな倫理規定を設ける必要があり、現在検討中。
麻布大	A	実習用動物取り扱いの倫理問題に関しては、「麻布大学動物実験指針」の中で規定が設けられている。
日 大	A	動物を使用した実習は実験動物倫理規定、実習で使用した試薬等の廃液については実験廃液に関する学部内規（IS014001）に則り、適切な実習が実施されている。